勇者王
ガオガイガー

スリージー
超兵器図鑑

Brave King
GAOGAIGAR

GUTSY GEOID GUARD'S
ULTRA TECHNOLOGY ARMS
AND ARMOUR GUIDE BOOK



1
2

カバーCG図版／牧野知弘

スリージー 超兵器図鑑

ちょうへいき ずかん

GUTSY GEOID GUARD UL. TECH ARMS & ARMOUR

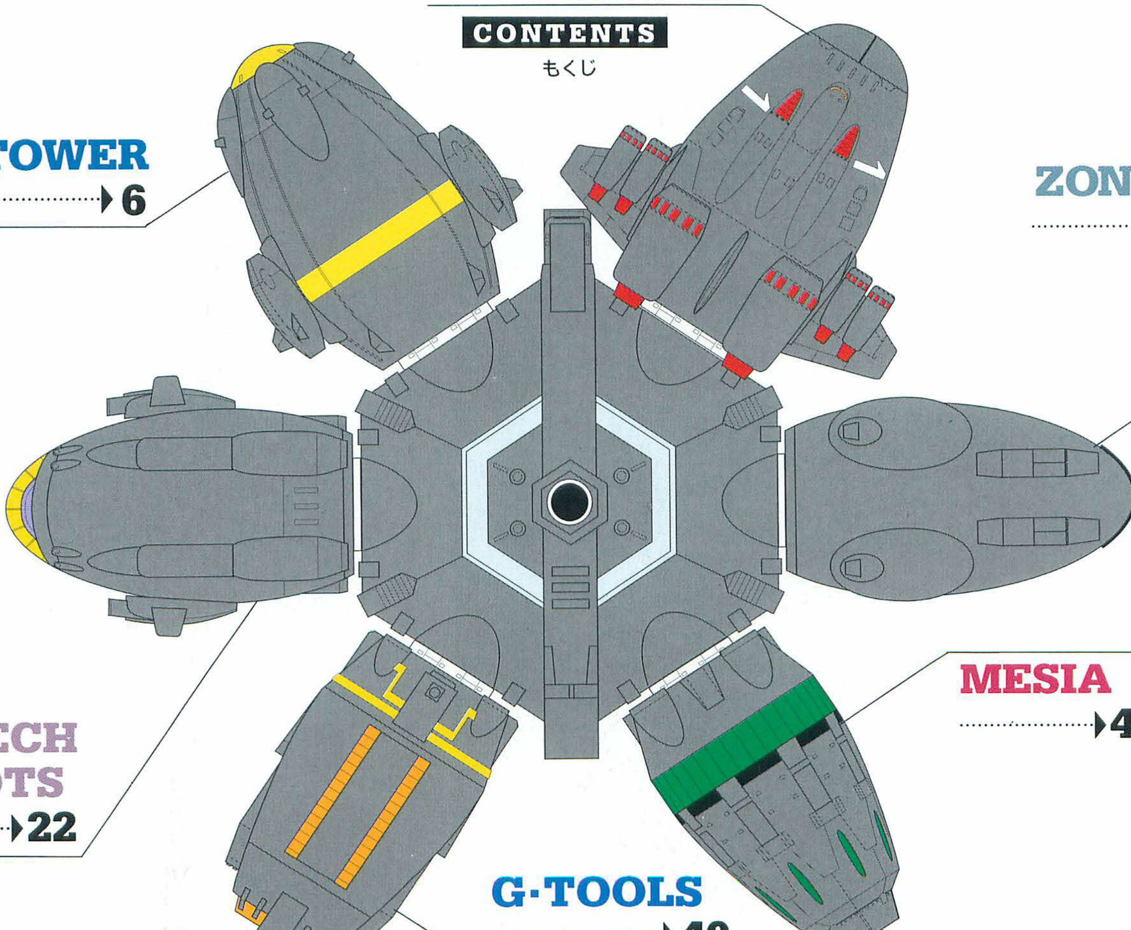
GGG憲章第5条125項

「GGG隊員はいかに困難な状況にあろうとも、けしてあきらめてはならない!」

The GGG (Gutsy Geoid Guard) Charter, 5.125
No matter how severe the situation is, a member of the GGG shall never give up.

die GGG (Gutsy Geoid Garde) Charta, 5.125
Wie hart der Umstand auch ist, ein Mitglied der GGG soll und muss nie aufgeben.

CONTENTS
もくじ



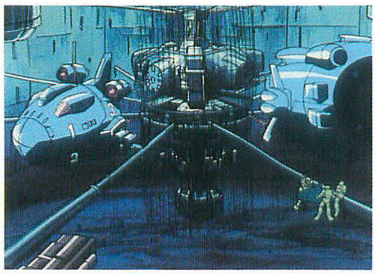
Gutsy Geold Guard

◆GアイランドとGGG◆

2005年、すでに人類は地球防衛組織ガッツィ・ジオイド・ガード[勇気ある地球防衛隊]、通称GGGを結成していた。GGG本部は東京湾上の臨海都市Gアイランドシティの海底深く秘密裏に作られ、正義に燃える大河幸太郎長官のもと日夜地球外侵略者ゾンダリアンに敢然と挑戦していた。GGGの結成は2年前の地球外生命体と宇宙開発公団所属シャトルの接近遭遇事件にさかのぼる。この事件直後に宇宙開発公団スタッフは宇宙メカライオン・ギャレオンと接触し、地球外オーバーテクノロジーを手に入れたのだ。一方、EXTRA-INTELIGENCE認定ナンバー1号、すなわちEI-01と認定呼称されるにいたった地球外生命体は日本国内に潜伏し、その消息を絶っていた。EI-01の地球潜伏、謎多きギャレオンのオーバーテクノロジー、度重なる地球外生命体の脅威を重く見た日本政府は、秘密会議を開き「Gプロジェクト」の発動を決議した。こうして結成されたのが、表向きは科学技術庁配下の宇宙開発公団下部組織だが、実は内閣総理大臣直属の秘密防衛組織GGGなのだ。GGGはギャレオンによってもたらされたオーバーテクノロジーの力を借りて、GGGベイタワー基地を建設し、6つの万能エリア、スーパーメカノイド・ガオガイガーをはじめとする超防衛機動部隊を次々と開発した。未知の地球外オーバーテクノロジーと人間の最高頭脳を結集して作られたGGGのメカニック!! ゾンダリアン迎撃の準備はできた!



2003年のEI-01襲来事件によって、急遽おこなわれた日本国内閣秘密会議席上で決議された「Gプロジェクト」と題されたGGG設立草案。

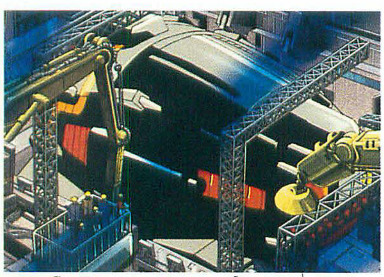




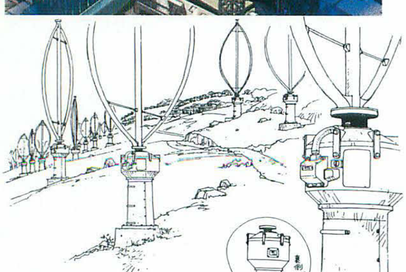
GGGベイタワー基地

八角形のGアイランドシティの中心に位置する宇宙開発公団タワー。GGGベイタワー基地は、その海底に建設された、地球人類を守る砦なのだ。

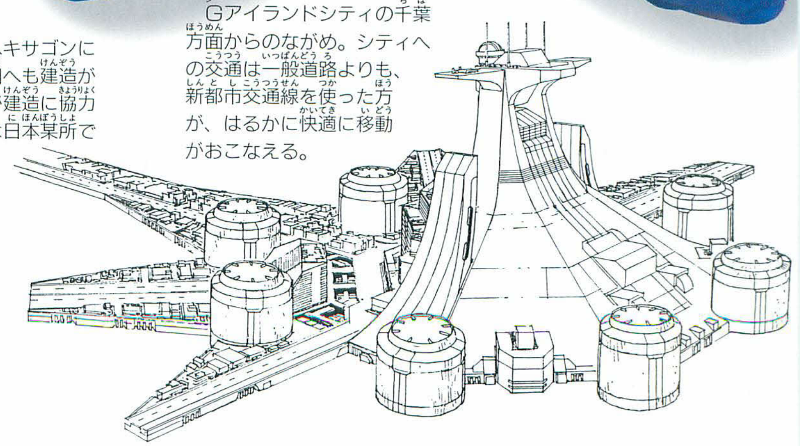
カバヤ製『スリージー基地ガム』と、『ガオガイガーガム』に入っているプラモデルの組み合わせ例。手のひらサイズのGGG。



GGGベイタワー基地、ヘキサゴンに連結する各エリアは、同盟国へも建造が依頼されたらしい。どの国が建造に協力したかは機密扱いだ。写真は日本某所で建造中のエリアⅣ。

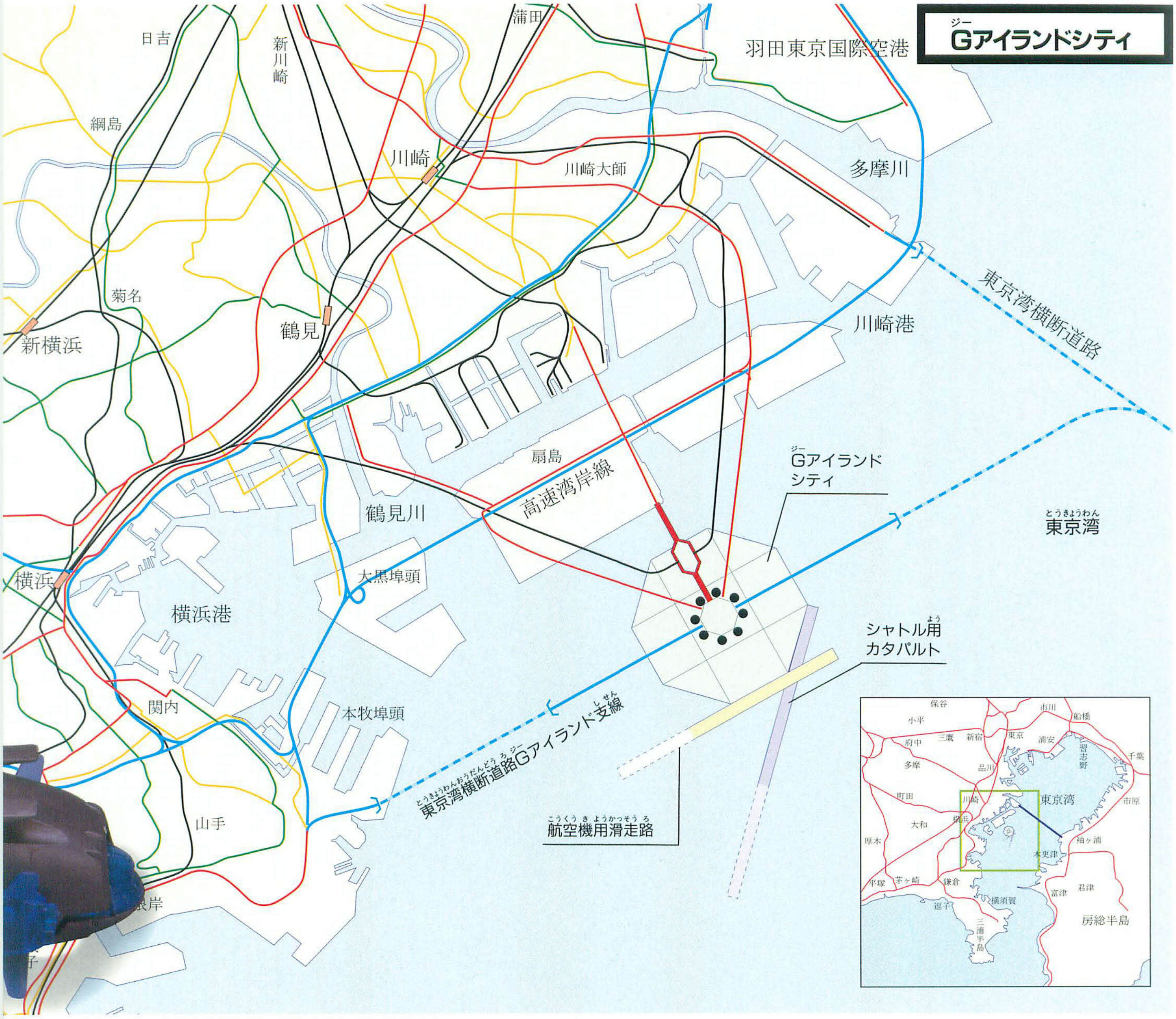


Gアイランドシティ居住区の丘に立つ全方向型の風力発電システム。日本での風力発電研究はサンシャイン計画の一環として'78年に開始された。現在の風力発電量は5KWとわずかだ。

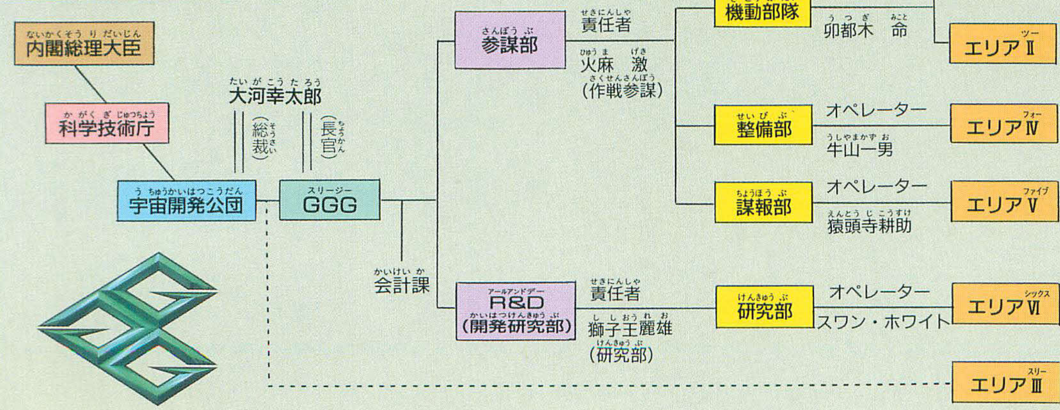


Gアイランドシティの千葉方面からのながめ。シティへの交通は一般道路よりも、新都市交通線を使った方が、はるかに快適に移動がおこなえる。

Gアイランドシティ



GGG組織図



三段飛行甲板空母　飛来したギャレオンが封印されていた場所。ステルスガオーも発進する。

強襲揚陸補給船　ガオガイガーの各種パーツや、壊れやすい消耗品のストックルーム。

水陸両用整備装甲車　ガオガイガーやガオーマシンの回収、洗浄、点検作業を行うエリア。

多次元諜報潜水艦　諜報部所属のエリア。ボルフォッグ、ガンドーベル、ガングルーがある。

三式空中研究所　獅子王博士の管理下にある研究開発セクション。高性能ウルテクエンジンを持つ。

弾丸X　その機能の多くは機密扱いのため不明。

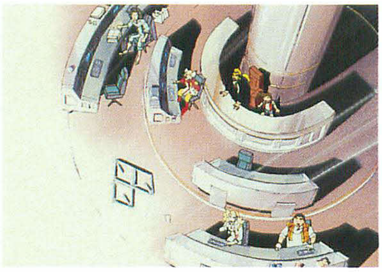
Bay Tower Base

◆GGGベイタワー基地◆

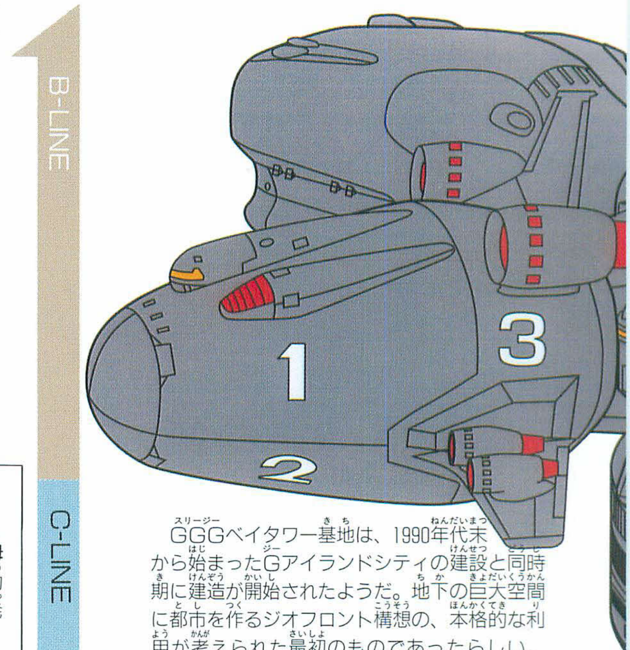
GGGのメインコンピューターは諜報部オペレーター・猿頭寺耕助が開発した。敵ゾンダーの研究、ビークルマシーンの整備と開発、隊員の日常生活に関わることまで、基地のあらゆるシステムを総括運営する。写真は起動画面。



GGGの全海底設備をGGGベイタワー基地という。その構成はGGGバリアリーフ、Cライン、居住区、動力炉というブロックで構成されている。このベイタワー基地でもっとも重要な部位はGGGバリアリーフだ。通称Bラインとよばれるバリアリーフは、6つのエリアとヘキサゴンのブロックで構成されている。ヘキサゴンにはGGGの作戦会議室であるビッグオーダールーム、ベイタワー基地の全システムを管理するメインコンピューターといった必要不可欠な設備が内包されているのだ。バリアリーフ下部のCラインは、GGG機動メカの交換パーツ格納庫、ビークルマシーン発進施設、秘密発進口であるチューブ式ルートから成り立っている。居住区はGGG隊員の快適な作業を保証するため、食堂、コインランドリーといった各種施設が充実している。有事の際にはある程度の期間はGGGベイタワー基地だけで、独立した生活圏を確保できるようになっているのだ。

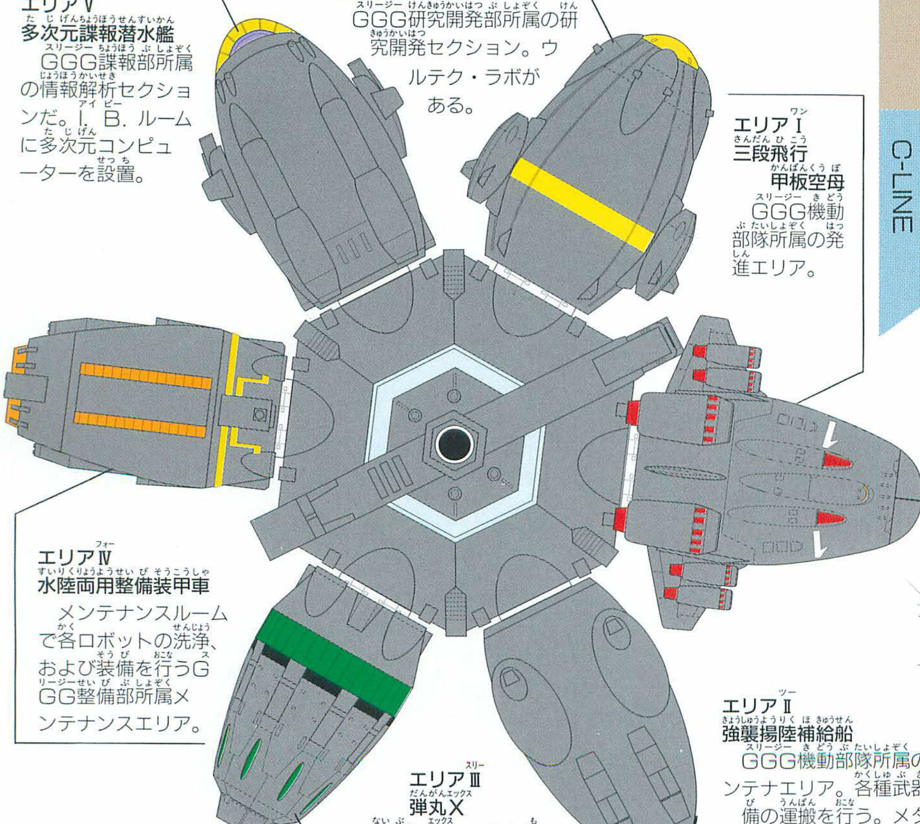


GGGの作戦司令室であるメインオーダールーム。通称Aライン、すなわち宇宙開発公団タワーとGGGバリアリーフをつなぐメインシャフトに位置している。メインオーダールームでは、GGG機動部隊の作戦行動支援、各エリアの活動指揮をおこなう。また、メインオーダールームは必要に応じて勇者ロボット作戦司令室・ビッグオーダールームへのリフトダウンが可能だ。ビッグオーダールームには、各エリアへのビークルマシーンたちの移動通路が設けられている。



GGGベイタワー基地は、1990年代末から始まったGアイランドシティの建設と同時期に建造が開始されたようだ。地下の巨大空間に都市を作るジオフロント構想の、本格的な利用が考えられた最初のものであったらしい。2003年のEI-02事件の発生、宇宙開発公団をカモフラージュに使ったGGGの結成などが影響して、建設途中からGGGベイタワー基地としての使用を目的としたものとなったようだ。GGGベイタワー基地建設の経緯は、基地構造情報の漏洩を防ぐため機密扱いとなっている。その正確なところは現在も不明な点が多い。

ヘキサゴン&エリアⅠ～Ⅵ
HEAXGON & AREA Ⅰ～Ⅵ



エリアⅤ
多次元諜報潜水艦
GGG諜報部所属の情報解析セクションだ。I.B.ルームに多次元コンピューターを設置。

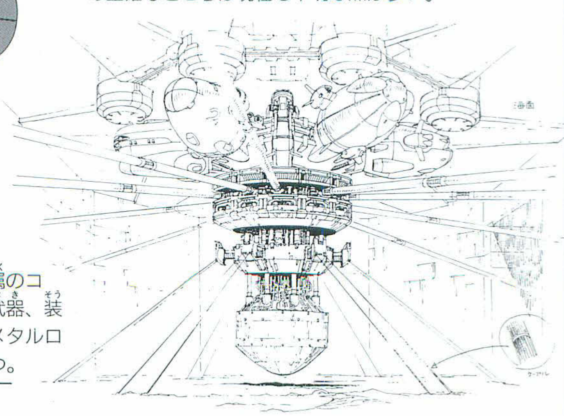
エリアⅥ
三式空中研究所
GGG研究開発部所属の研究開発セクション。ウルテク・ラボがある。

エリアⅠ
三段飛行甲板空母
GGG機動部隊所属の発進エリア。

エリアⅣ
水陸両用整備装甲車
メンテナンスルームで各ロボットの洗浄、および装備を行うGGG整備部所属メンテナンスエリア。

エリアⅡ
強襲揚陸補給船
GGG機動部隊所属のコンテナエリア。各種武器、装備の運搬を行う。メタルロッカールームを持つ。

エリアⅢ
弾丸X
内部にXルームを持つGGG研究開発部所属エリア。使用目的は機密扱いだ。

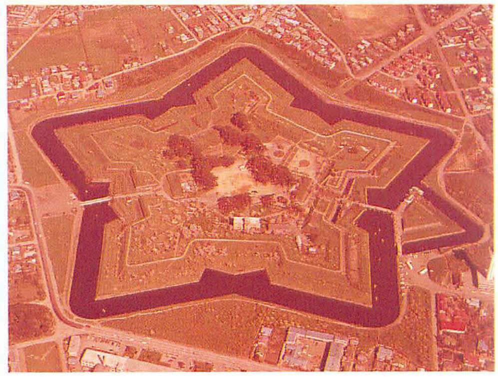


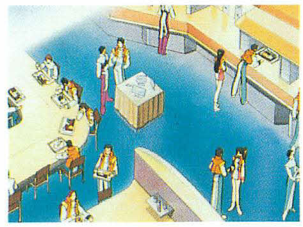
宇宙開発公団タワーからメインシャフトによって、メインオーダールームと直結する大河幸太郎GGG長官専用のエレベーター。広いテーブルの上のペンギンのマスコットが起動スイッチなのだ。



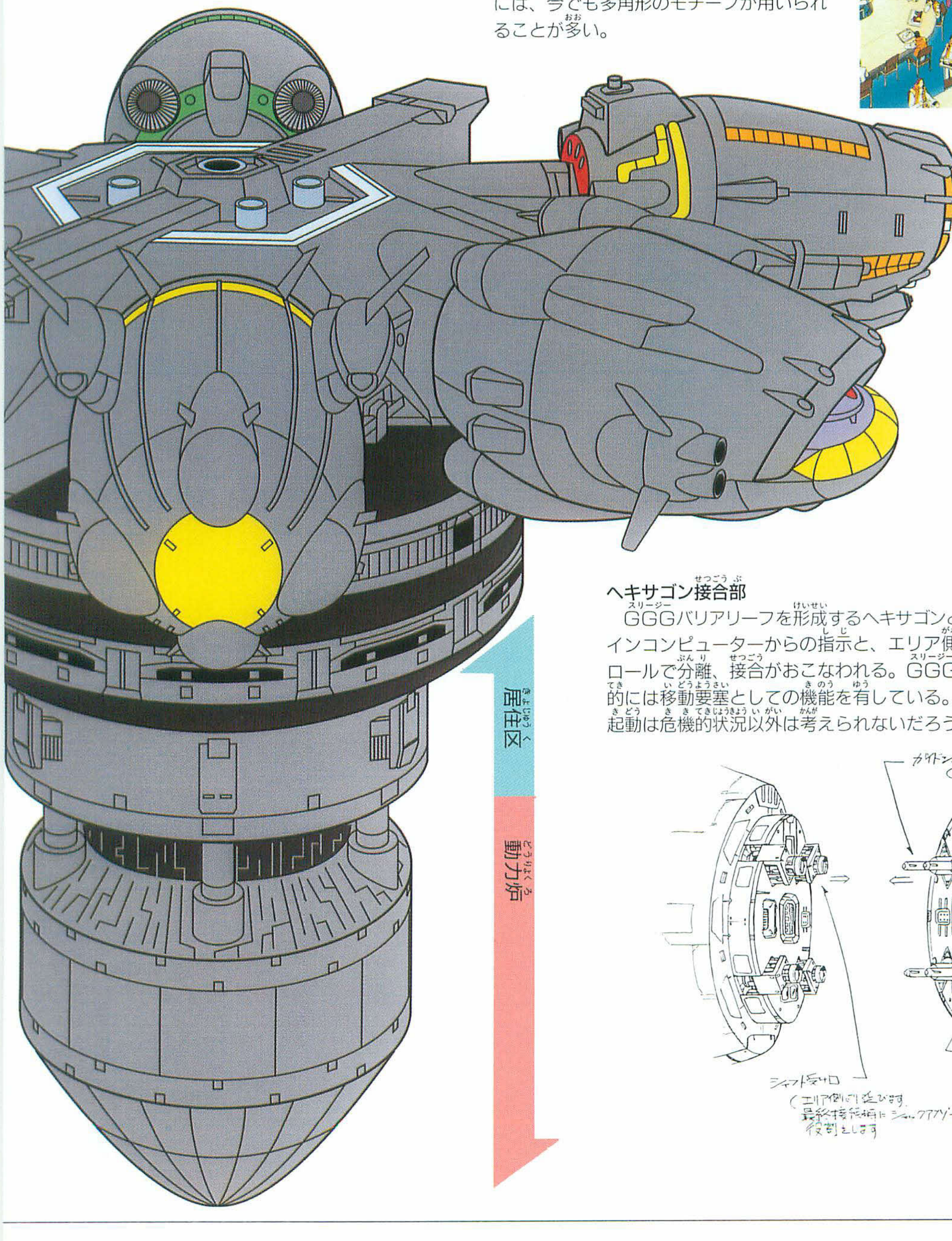
多角形の要塞

14世紀頃、戦場に大砲が登場するようになると、ヨーロッパの城の建築方式に変化があらわれた。砲弾を正面から受けるのをさけるため、各方向の壁に角度をつけた多角形の城壁が作られるようになったのだ。さらに、多角形の頂点にあたる箇所から砲台となる堡頭が突き出た形となり、城壁の正面に敵が砲を向けられないようにした。幕末、函館に築かれた五稜郭は、そうしたヨーロッパ型の城郭で、五方向にV字形の堡頭をもった正五角形をしている。航空機の登場によって、要塞としての城郭は無用の長物となったが、要塞のイメージをもつ建築には、今でも多角形のモチーフが用いられることが多い。

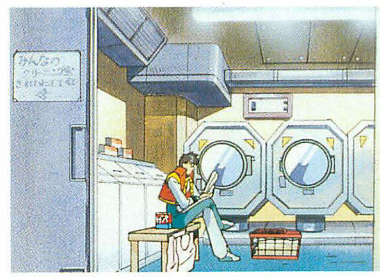




居住区に位置するGGG隊員専用食堂。メニューは多分に庶民的なものが多い。各エリアへのデリバリーサービスもある。

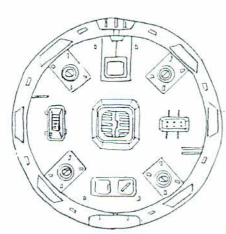


ベイタワー基地内に居住する隊員も多い。これは各エリアの作業内容に左右されるのだが、そうした隊員のためにコインランドリー、居住区画などの施設も作られている。

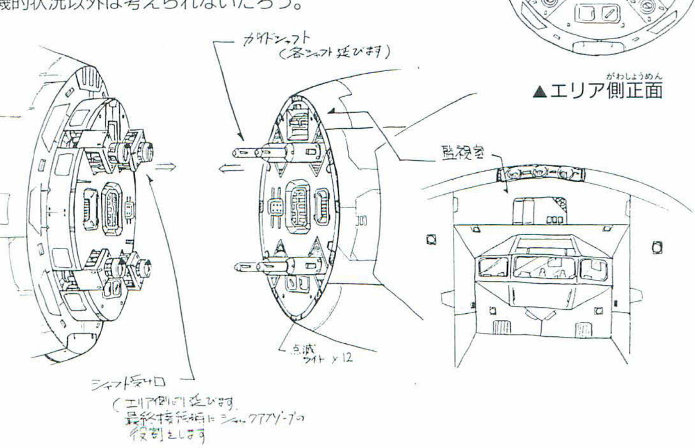


ヘキサゴン接合部

GGGバリアリーフを形成するヘキサゴンと各エリアの接合部。メインコンピューターからの指示と、エリア側の監視室からのコントロールで分離、接合がおこなわれる。GGGバリアリーフは、基本的には移動要塞としての機能を有している。しかし、要塞としての起動は危機的状況以外は考えられないだろう。

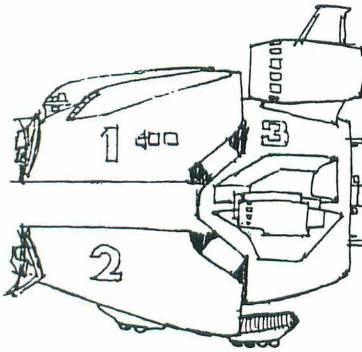


▲エリア側正面



Bay Tower Base

◆エリアI・三段飛行甲板空母◆



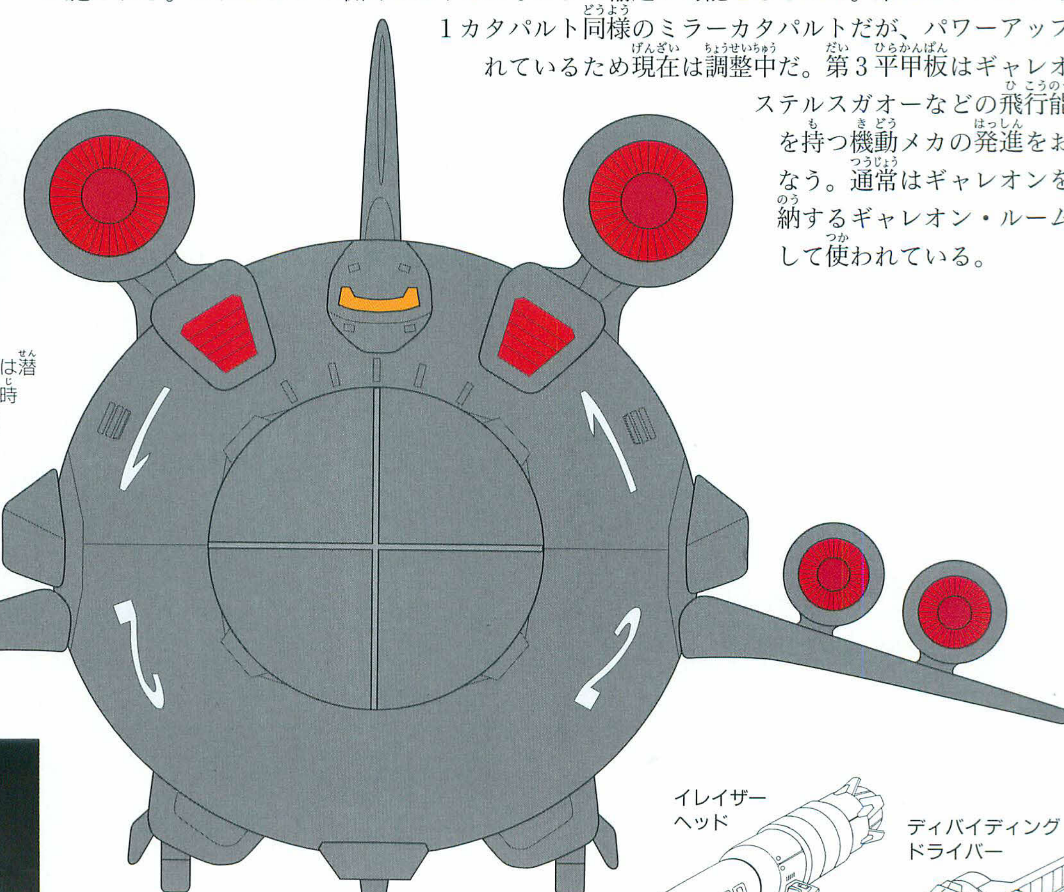


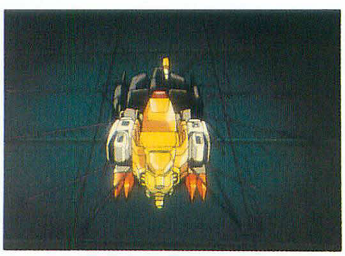
防御、戦闘用武装はいっさい装備されてない。GGG機動部隊の発進エリアであると同時に、空中指令拠点として用いられることが多い。

GGGは、機動部隊所属の三段飛行甲板空母は、機動部隊各マシン、ハイパー・ツールの迅速な長距離航空輸送をおこなうエリアだ。２つのミラー・カタパルトと通常の平甲板の、３つの甲板を有している。第１カタパルトは飛行能力を持たない氷竜・炎竜のビークルマシン、ディバイディングドライバーなどのハイパーツールの射出に用いられる超伝導リニアカタパルトだ。射出するメカに悪影響が出ないように、電磁波やエネルギーを反射するミラーコーティングが施される。これによって最長2000キロにもおよぶ輸送が可能となるのだ。第２カタパルトも第１カタパルト同様のミラーカタパルトだが、パワーアップされているため現在は調整中だ。第３平甲板はギャレオン、ステルスガオーなどの飛行能力を持つ機動メカの発進をおこなう。通常はギャレオンを格納するギャレオン・ルームとして使われている。



ベイタワー基地から分離後、海上までは潜水艦のように浮上をおこなう。浮上と同時に機体の６発のジェットエンジンを始動させて、飛行形態へと移行。機動メカの発進作業に入る。

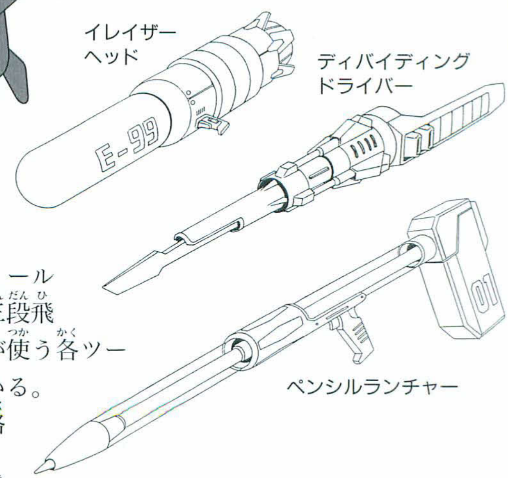






機動メカ、ハイパーツール発進形態。最上部が第１カタパルト、最下部が第２カタパルト、中央部が第３平甲板になっている。第２カタパルトは実戦ではいまだ未使用。ギャレオン・ルームもこの艦にある。

ディバイディングドライバー、イレイザーヘッドといったハイパーツール群の戦闘フィールドへの迅速な射出を目的とする三段飛行甲板空母は、ガオガイガーが使う各ツール用消耗パーツも格納している。このほかに各機動メカの格納施設、３基のカタパルトを内蔵しているため、防御および戦闘用武装を搭載することができなかった。



高速射出システム

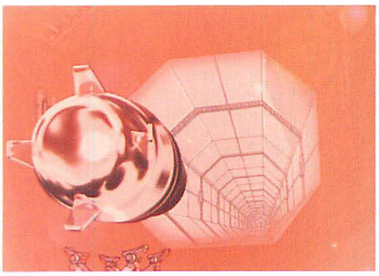
リニアカタパルトは磁力の反発力を使い勇者ロボやその装備を打ち出すシステム。原理としては、本来回転すべきモーターを直線運動に応用した、リニアモーターの一種といえる。現在の航空母艦等で使用されている蒸気式のカタパルトに比べて、空気の摩擦以外の抵抗がないので、より高速で射出することが可能。加速の際に磁力や電磁波の影響を受けるため、ミラーコーティングにより内部の電子機器を保護している。射出時の加速Gはすさまじく、たとえサイボーグ・ガイといえども生身の部分が損傷を受けるのはまちがいない。

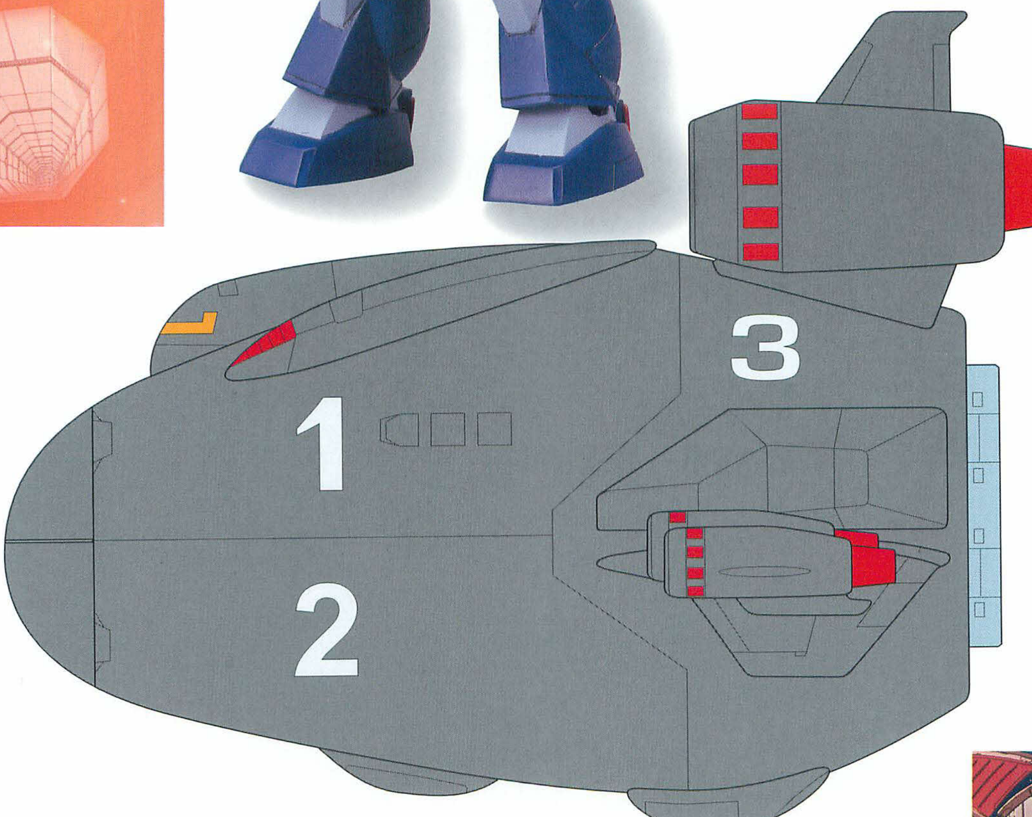


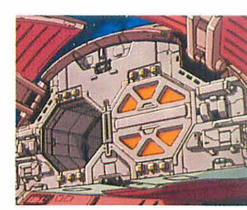
リニアカタパルトの原理は、兵器にも転用できる。写真は、リニアガン、リニアキャノンを装備したCBアーマー、ダグラム(1／144・タカラ製)。'81年放映、高橋良輔監督作品「太陽の牙ダグラム」より。



ミラーコーティングは超伝導リニアカタパルトとの反撥力を増大させ、飛行距離を伸ばすほか、敵の攻撃から機動メカを守るバリアの役目も果たしているのだ。







空母開口部。第1、第2カタパルトは正面右側に搬入ハッチがあり、内部はU字型となっている。



空飛ぶ戦士を乗せた船

空母すなわち航空母艦は、1910年代アメリカで生まれた。はじめは大型の巡洋艦に飛行甲板をのせただけの実験艦にすぎなかったが、それから10年もすると各国でも本格的な空母の建造が開始された。1919年に終戦をむかえた第一次世界大戦に登場した航空機をより広い地域に展開させるためだった。より多くの航空機を発進させるため三層の甲板をもつものなど、さまざまなタイプの艦が試作されたが、1940年頃になると各国の空母は、一枚甲板のタイプにおちついていった。

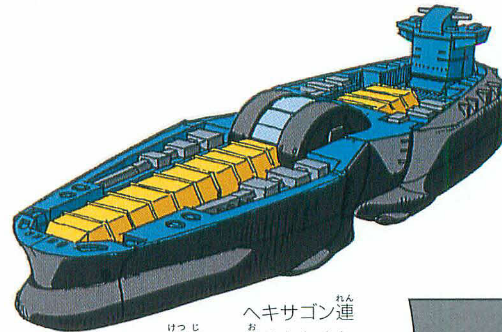
（撮影／河森正治）

DATA

Triple Flying Decked Carrier

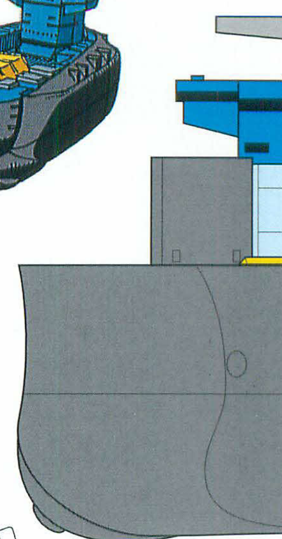
重量……………………79,000トン
全長……………………200メートル
全高……………………120メートル

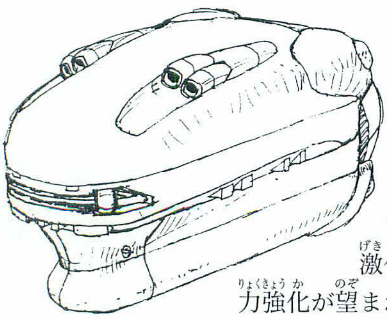
◆エリアⅡ・強襲揚陸補給船◆

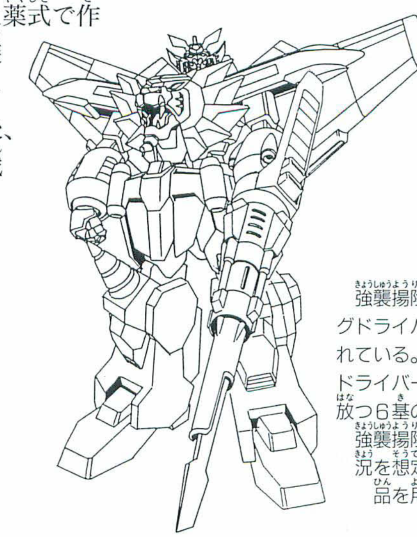


GGG機動部隊所属エリア。三段飛行甲板空母によって最前線へ送り込まれたGGG機動メカへのハイパーツールの消耗パーツと燃料輸送、作戦時の補給など、あらゆる物資の輸送を任務とするコンテナエリアだ。三段飛行甲板空母を中心とした作戦行動の補佐や、洋上における作戦行動の指令所など、使用目的は装備の輸送だけにとどまらない。コンテナ・ブロック陸揚げ用のクレーンを持ち、港湾施設のない海岸でも簡単に揚陸作業が行える。ディバイディングドライバーなどハイパーツールの専用コンテナ・メタルロッカールームには、最大6機のイレイザーヘッドとディバイディングドライバーのスペアを1機搭載可能だ。火薬式で作動する爆裂射出カタパルトを装備し、近距離であればハイパーツールの射出もおこなえる。今後、激化するであろう戦いに備えて、戦力強化が望まれるエリアなのだ。

ヘキサゴン連結時は、折りたたまれた形状だが、海上に浮上後、中央部から2つに開き、タンカー形態へ変形する。

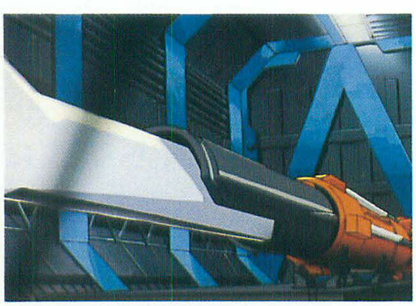




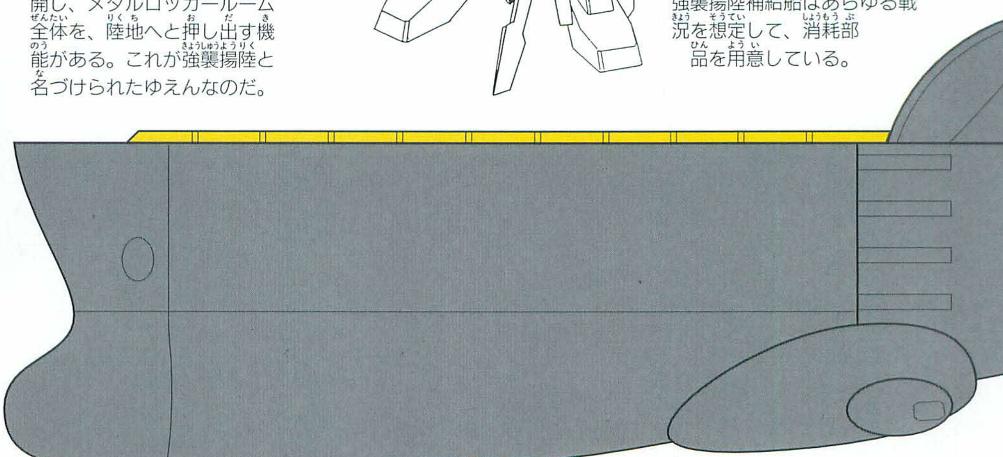


メタルロッカールーム

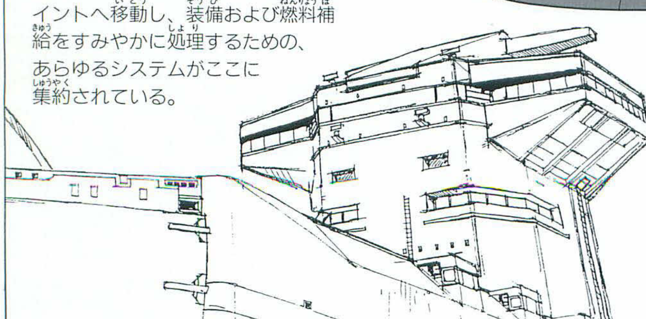
タンカー前部に位置するメタルロッカールームは、ディバイディングドライバー、イレイザーヘッドなどのハイパーツールのスペア、ハイパーツールの消耗パーツを大量に収納することができる格納庫である。強襲揚陸補給船にはクレーンによる陸揚げのほか、港湾施設のない上陸ポイントでは、接岸後にカーフェリー状に前部を展開し、メタルロッカールーム全体を、陸地へと押し出す機能がある。これが強襲揚陸と名づけられたゆえんなのだ。



強襲揚陸補給船にはディバイディングドライバーの消耗部品も多数積載されている。空間湾曲時に地面と接するドライバー先端部と、湾曲時に閃光を放つ6基のコンデンサがそれである。強襲揚陸補給船はあらゆる戦況を想定して、消耗部品を用意している。

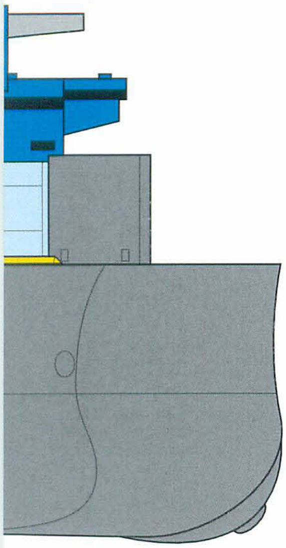


強襲揚陸補給船のすべてをコントロールするのが、このブリッジである。機動メカが三段飛行甲板空母より発進後、作戦行動ポイントへ移動し、装備および燃料補給をすみやかに処理するための、あらゆるシステムがここに集約されている。





中央部に位置する爆裂射出カタパルトは、ディバイディングドライバー、イレイザーヘッドなどのハイパーツールを射出する近距離専用の火薬式カタパルトだ。火薬を爆発させて弾丸のようにツールを射出するため、正確なポイントへの輸送は困難だ。射出時にハイパーツール先端部はアプリケーターで保護される。





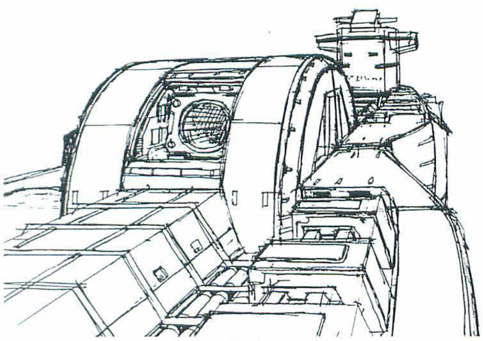
天才軍師・諸葛亮の補給作戦

稀代の軍師とうたわれた諸葛亮も、戦略においては物資の補給に重点を置いた。四たびにおよぶ魏との戦い（北伐）で、食料や武器を輸送するために、木牛・流馬という輸送車を開発、使用したと伝えられるが、その図面は残念ながら現存しない。



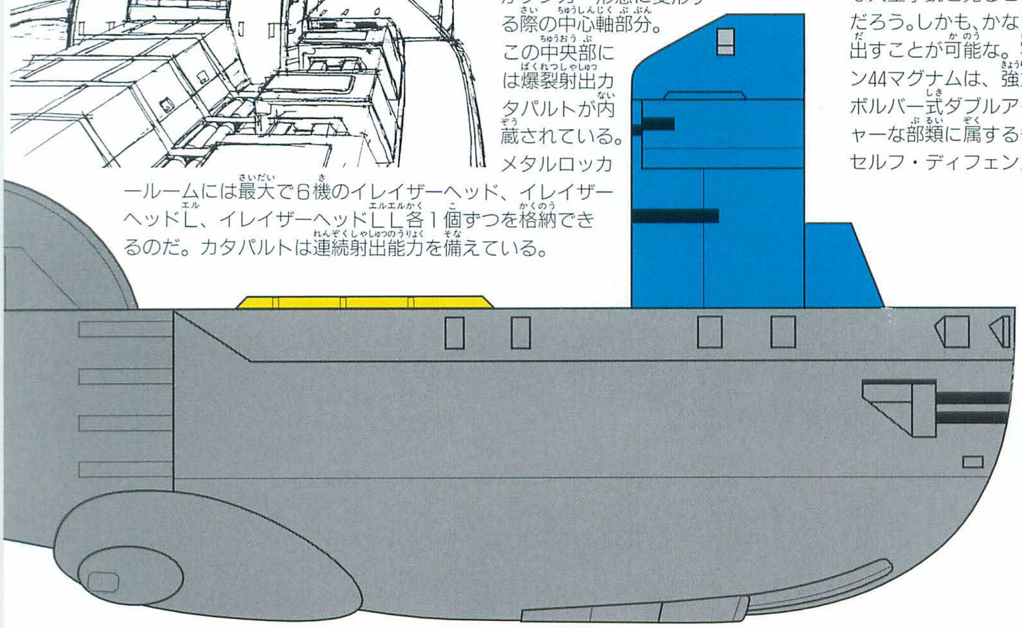
ディバイディングドライバーの消耗部品のほかにも本エリアには、攻撃をつかさどるため、破損もしくは破壊される可能性が高いガオガイガーの右腕、ドリルガオーのドリル部など、ガオーマシンのパーツも各種常備されているのだ。



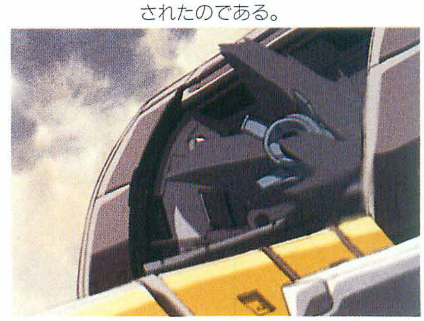


強襲揚陸補給船上部甲板。手前に位置するのがメタルロッカールーム、その後方がタンカー形態に変形する際の中心軸部分。この中央部には爆裂射出カタパルトが内蔵されている。メタルロッカールームには最大で6機のイレイザーヘッド、イレイザーヘッドL、イレイザーヘッドLL各1個ずつを格納できるのだ。カタパルトは連続射出能力を備えている。

物体を火薬で高速射出するということを考えるなら、爆裂カタパルトは巨大な大砲か、強力な大型拳銃と見ることができるだろう。しかも、かなり強力な実包を打ち出すことが可能な。写真のスミス&ウェッソン44マグナムは、強力なマグナム弾を使うリボルバー式ダブルアクション拳銃としては、メジャーな部類に属するもので、現在でも一部の警察やセルフ・ディフェンス用として使用されている。



強襲揚陸船は格納庫、補給船としての性能を追求したため、三段飛行甲板空母のようなカタパルトを設置する余裕がなかった。その代用品として爆裂射出カタパルトが開発されたのである。





タンクローリー

貨物輸送車のことをトラック（Truck）と呼ぶのはアメリカンイングリッシュで、英語ではローリー（Lorry）という。タンクローリーは、おもにガソリンや軽油といった石油製品を輸送するのに使われる。自動車社会の日本にとって、タンクローリーは生命線ともいえるエネルギーを運ぶ輸送部隊なのだ。

DATA

Landing and Supply Assult Ship

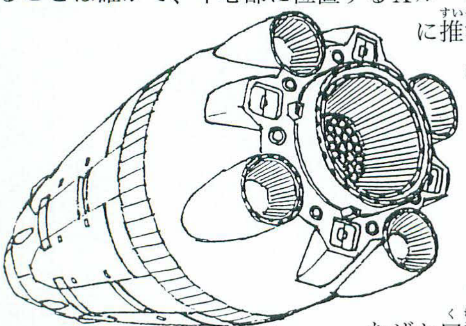
重量……………………82,000トン
全長……………………208メートル
全高……………………112メートル

◆エリアⅢ・弾丸X◆

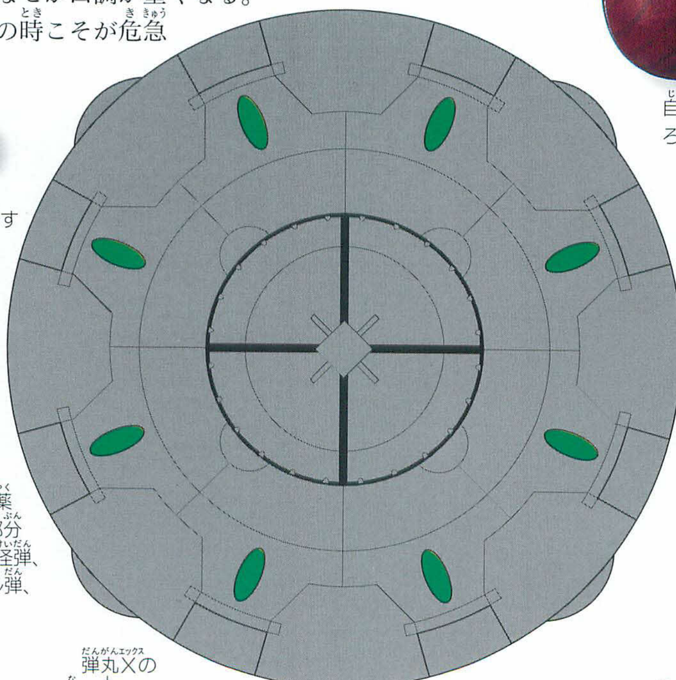
GGG６つのエリアの中で最も謎につつまれたエリアが、この弾丸Xである。元GGG隊員の犬吠埼が設計開発した。現在の管理はGGG研究開発部の獅子王麗雄博士が行っている。ビークルマシーン用に設計された、ある種の施設であることは確かで、中心部に位置するXルームと密接な関係を持つことは容易に推測できる。"弾丸"という名称からわかるとおり、その使用は一度しかできないようだ。他のエリアとはヘキサゴンとの連結部形状が違うなど、特異な点の多いエリアである。GGGベイタワー基地の中でも、最も厳重な機密となっている。くわしい機能について知らされているごく一部のスタッフ同士でも、話がこのエリアにおよぶと、なぜか口調が重くなる。弾丸Xの秘密が明されるとき、その時こそが危急存亡のときなのだ。













エリアⅢは底部にロケットブースターを装備していることから、自力で推進可能な弾丸と見ることもできるだろう。その意味では、まさに巨大な「弾丸」といえる。だが、各国の軍用銃はベトナム戦争以降、小口径の弾を多く持ち歩く方式が主流となってきており、むしろ狙撃銃の方が射程距離を大きくとるために大口径化する傾向にある。そのため従来の7.62ミリ口径弾（写真右上から三つ目）は5.56ミリ口径弾（同上から二つ目）に取って代わられようとしており、拳銃弾（写真上）も現在では9ミリが主流となっている。

銃砲の実砲は、大別すると弾頭と薬莢部分に分けられる。また、銃の発達と共に用途や目的別に専用の実砲が作られるに至った。弾頭部分の直径（口径）により、大まかに弾丸の威力が決定されるが、実際には薬莢内の発射薬と弾頭の形状と材質による部分が大きい。（写真下から.38径弾、.45ACP弾、.38スペシャル弾、357マグナム弾、44マグナム弾、7.62ミリNATO弾）

弾丸Xの名で知られるエリアⅢは、2004年にGGGを退職した犬吠埼が管理責任者だった。彼の退職後は当時、コンピューターシステム開発主任であった猿頭寺耕助が引き継いだ。その時点でシステムにかなりのバグが発見されたという。



弾丸を発射するには、薬莢底部にある雷管を打撃して発射薬に点火する。急激にガスを生成し燃焼する発射薬は、弾丸を押し出しバレル内部を通り発射される。この時、バレル内部のライフリングによって弾丸に付けられた痕が線条痕として残る。これは弾丸それぞれの固有のものだ。





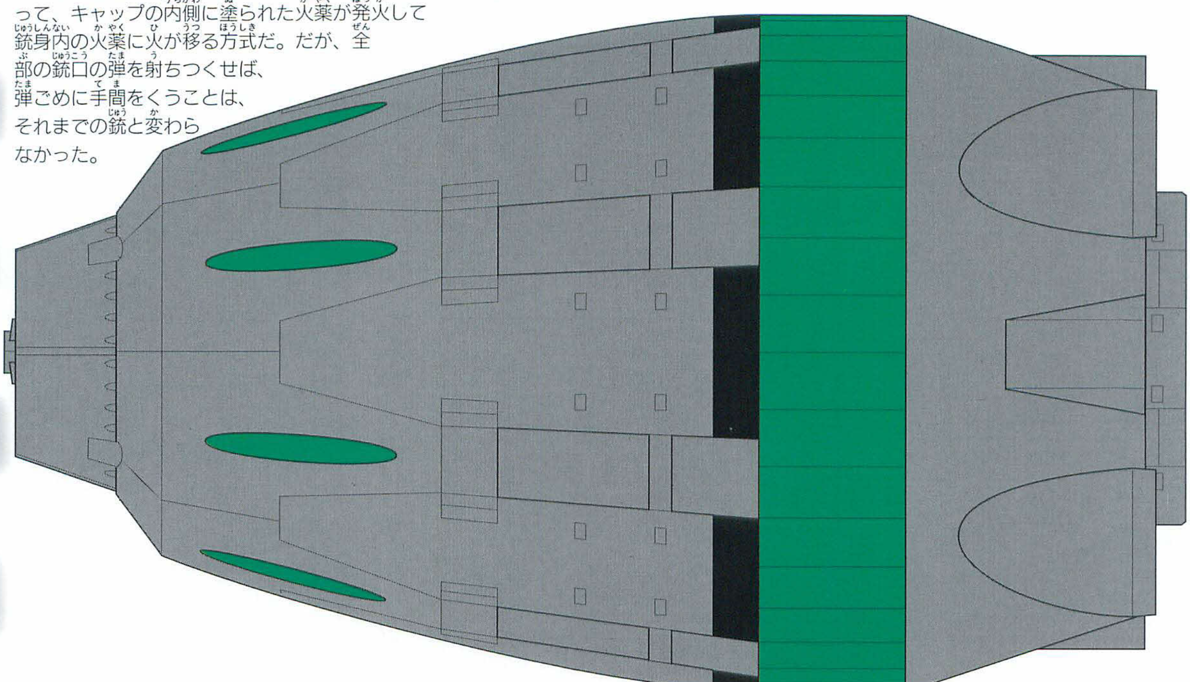




弾丸を射出する銃器は、ふたつの大きな課題を解決しながら改良され、現在の姿になった。すなわち、撃発と連射性能だ。弾丸を射ち出すための火薬に火を付ける方法は、14世紀頃からヨーロッパにおいて、じつにさまざまな方式が試されてきた。火種を長い棒の先につけて直接、火薬に火を付けるやり方から、火皿に点火用の少量の火薬をおいて火縄で点火するマッチロック方式。さらに進んで、火打ち石で火花を火皿に飛ばす、フリントロック方式（左写真）などの撃発方法が考案され、実際に使われた。同時に、一発目を射った後、次弾を素早く装填するための方法もさまざま考案された。一発ずつ弾丸と火薬を紙や薄い革などでつつむ方法などは、弾を銃身の先からこめる古いタイプの銃でよく使われた。

連射性能を向上させるために、銃そのものの機構を改良する方法も考えられた。弾をこめるのに手間どるのなら、あらかじめ弾ごめした銃身をいくつもつければよい。そういった発想から産まれたのが、多銃身の銃だ。レンコンのようにいくつも銃口のあるこのタイプの銃は、ペッパーボックス（こしょうつぼ）タイプとよばれ、銃身を回転させることによって次々に発射することができる。撃発方式は、フリントロック式からさらに進んだパーカッションロック式。これは、小さな雷管（パーカッション・キャプ）を撃鉄で打つことによって、キャップの内側に塗られた火薬が発火して銃身内の火薬に火が移る方式だ。だが、全部の銃口の弾を射ちつくせば、弾ごめに手間をくうことは、それまでの銃と変わらなかった。





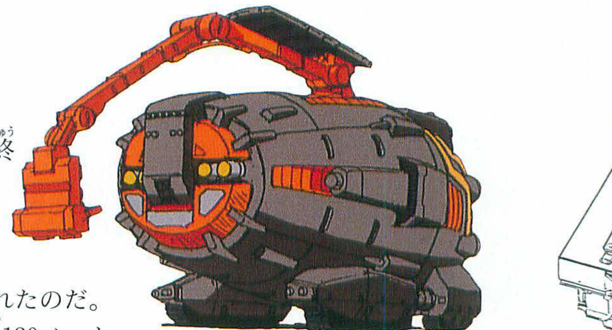


コルト1911Ａ１は、オートマチック拳銃としてはポピュラーな銃のひとつとして知られている。弾丸を自動装填するという、この画期的なギミックはショートリコイル方式と呼ばれている。平常時には遊底にロックされた銃身が、発砲の反動で後退し、銃身が遊底からはずれると遊底だけが後退を続けて空の薬莢を排出するというもの。シンプルな構造のため、メンテナンス性もよく、作動不良も少ない事から多くの国で軍用、または警察用の銃としても採用されている。アメリカはもとより、日本においても自衛隊の制式拳銃として近年まで使用されていた実績もある。また、基本設計が実に80年以上昔の銃であるにもかかわらず、その完成度の高さゆえかマイナーチェンジはおこなわれず、1991年にM1991Ａ１として細部の改良を加えられた以外には、ほぼ当時のままの姿を保っている。当時のままといえば、使用弾が.45ＡＣＰ弾というのもそうである。9ミリパラベラム主流の時代では前時代的な印象を受けるが、その大口径の生み出す打撃力には現在でも定評がある。

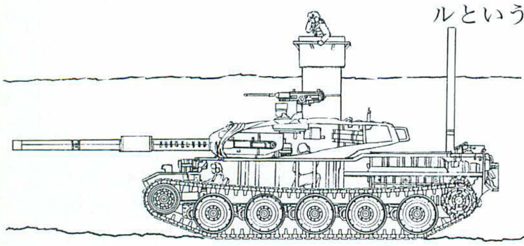
DATA

P-X
Projectile-X
重量……………………………機密
全長………………200メートル
全幅……………………………機密

◆エリアⅣ・水陸両用整備装甲車◆

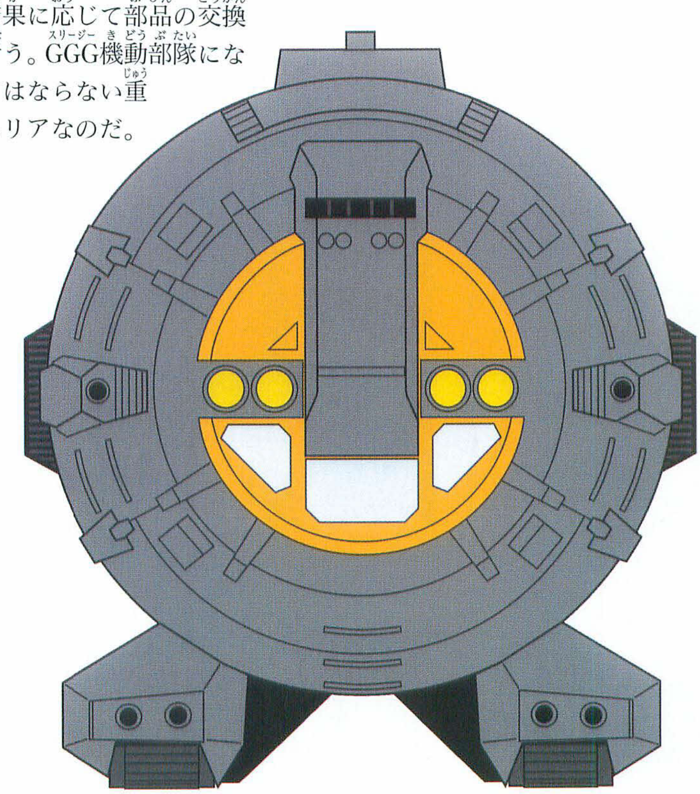


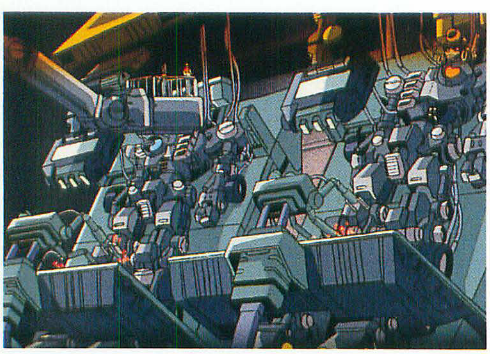
巨大なメンテナンスルームを擁するGGG整備部所属のエリア。作戦行動終了後のガオガイガーほかビークルマシーンを回収し、次の戦闘に備えて整備する目的で建造された。各ロボットの洗浄、整備に膨大なスペースを割いている関係上、飛行能力を設ける余裕がなくなってしまった。しかし効率よい移動方法を持たせなくてはならず、結果としてキャタピラが採用されたのだ。これにより海底および地上を移動するように設計されている。海上では全長130メートルという巨大クレーンと兼用の上部ハッチを開き、ガオガイガー等を回収する。また地上での作戦を終えた氷竜や炎竜といった各機動メカの回収にあたる。回収後にはメンテナンスルームにおいて洗浄、走査の後、整備を行う。ガオガイガーだけは複雑な合体変形システムを持つため、合体分離解除作業＝フュージョンアウト作業はメンテナンスルームで行われる。洗浄後に照射されるステラライズビームは、内部パーツの亀裂破損を走査するもので、照射結果に応じて部品の交換を行う。GGG機動部隊になくてはならない重要エリアなのだ。



戦車を水陸両用で動かす工夫

ガソリンやディーゼルの内燃機関で動いている戦車が、水中を進むためには、図のような装置が必要となる。ハッチから上に伸びている筒はキューポラと呼ばれ、ここから空気を取り入れてエンジンまで送り、排気管にとりつけた長いシュノーケルで排気を行う。エリアⅣの場合、こうした装備が見あたらないのは、動力が内燃機関以外のものだからだろう。

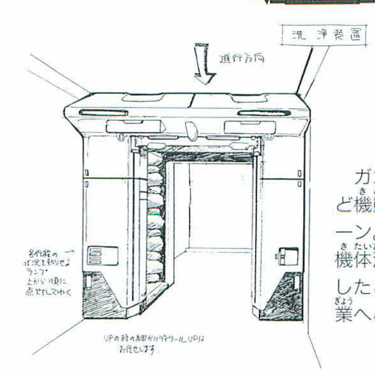




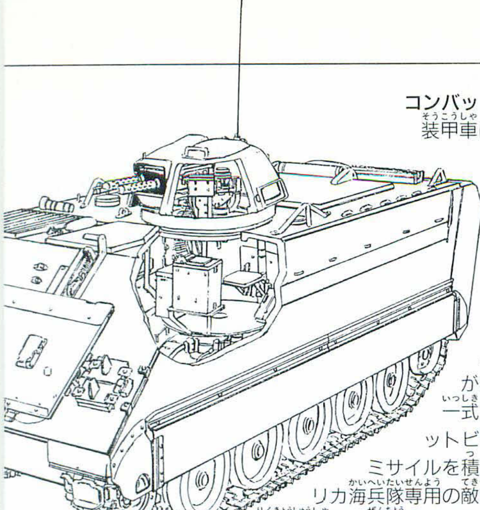
ビークルマシーンおよびGツールの整備点検、修理が行われるのが、このメンテナンスルームだ。洗浄、ステラライズビーム照射後に、この整備セクションにおいて、故障個所の補修がほどこされる。整備点検作業が行われるのはなにも作戦行動終了後のみとは限らない。いついかなる時でも出動ができるように、ガイをのぞくすべてのマシーンが、ここで定期的な点検整備を行うのだ。



収容された機動メカがまず最初に受けるのが、洗浄作業だ。単に洗浄をおこなうわけではない。ガオガイガー、ビークルマシンの推進剤の残滓の除去、ゾンダーとの接触で生じる可能性のある放射能汚染回避のための滅菌、外装破損状況の第１段階チェックといった、多様な目的を持つ作業なのだ。

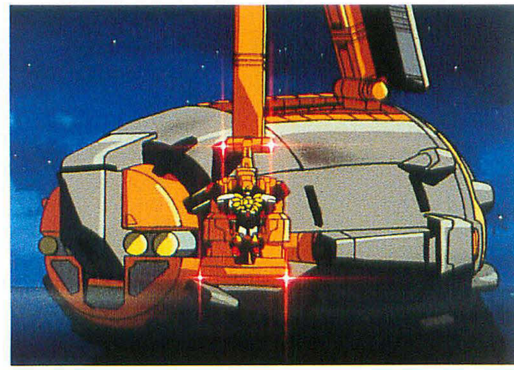


ガオガイガー、超竜神など機動メカ専用の洗浄マシーン。洗浄は温水で行われ、機体温度が40度以下に低下したことを確認後、次の作業へと移行する。

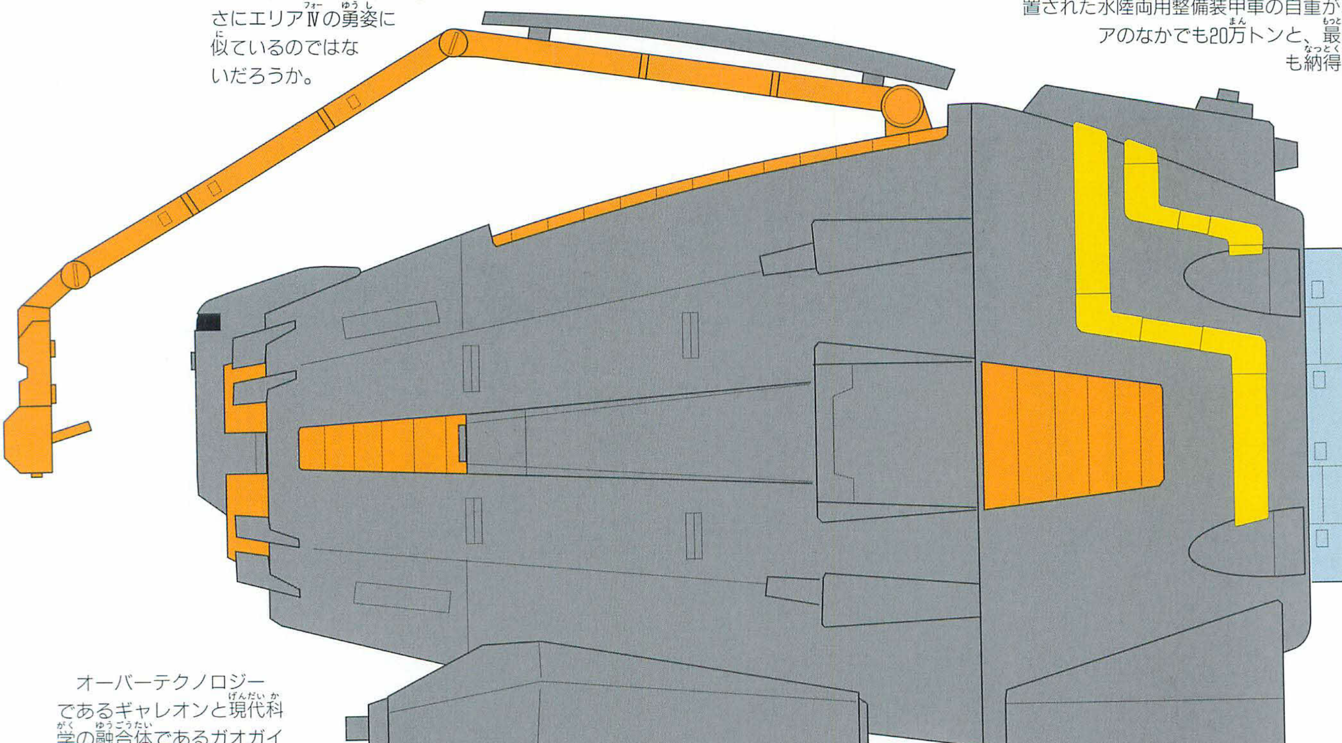


コンバット・ビーグル（戦闘装甲車）

装甲車はもともと、歩兵を安全に輸送するために考案されたものだ。左のイラストはベトナム戦争当時、大量生産されて戦線に配備されたアメリカ陸軍の装甲車M113APC。装甲は戦車ほどは厚くないが、機関銃弾やりゅう弾片などはハネ返してしまう。キャタピラで移動するため、急坂やちょっとしたぬかるみなどは軽く通過できるし、戦車より車体が小さく軽いため、小回りがきくのが利点といえる。図のM113には二連機関砲座一式しか装備されていないが、旧ソ連軍のコンバットビーグルBMP-76のように76ミリ砲と対戦車ミサイルを積んだ重武装型もあった。また、アメリカ海兵隊専用の敵前上陸装甲車ＬＶＴ（装軌式上陸強襲車）は全長８メートルと、戦車なみの巨体で、水上推進が可能なものもある。沖合いの強襲揚陸艦から発進して、高性能ウォータージェット推進により水上を最高で約時速14キロメートルで猛進することができる。そのまま上陸してキャタピラ走行に移ると、最高時速60キロメートル以上も出せる。これなどは、まさにエリアⅣの勇姿に似ているのではないだろうか。



機動メカの回収には２通りある。飛行能力を有するガオガイガーは、巨大クレーン兼用の上部ハッチより回収され、氷竜と炎竜、もしくは超竜神のビークルマシーンはクレーンによってエリア内へと運ばれる。ガオガイガーが行動不能になるなどの非常時を想定して、クレーンの揚昇能力はガオガイガーの重量に耐えられる設計となっている。巨大クレーン、洗浄、走査、整備といった設備がエリア内に設置された水陸両用整備装甲車の自重が、全エリアのなかでも20万トンと、最も重いのも納得がいく。



オーバーテクノロジーであるギャレオンと現代科学の融合体であるガオガイガーのメンテナンスには、慎重な作業が必要とされる。それが最も顕著にあらわれるのが、フュージョンアウト作業時だ。作業中はガオガイガーの核となる凱とギャレオンの状態維持が最優先事項となるのだ。





空母の格納庫には、何層かにくぎられた密閉式と一層で広い開放型の２種類がある。アメリカ海軍のものは後者で、広いデッキの中でA-6攻撃機が整備されているところだ。　撮影／河森正治

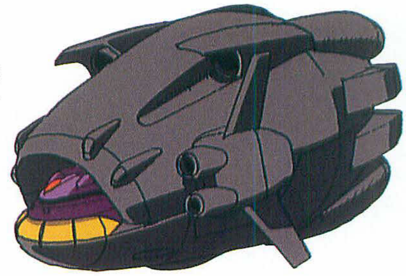
DATA

Amphibious Armoured Maintenance Vehicle

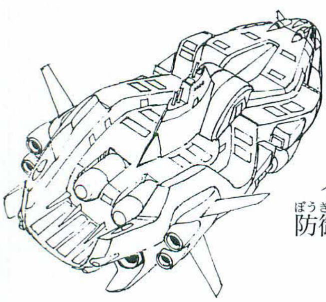
重量……………200,000トン
全長……………205メートル
全高……………51メートル

◆エリアV・多次元諜報潜水艦◆

偵察、情報収集、情報分析を目的として建造されたGGG諜報部所属の潜水艦。情報収集、分析を効率的におこなうための多次元コンピューターを搭載している。多次元コンピューターのプログラム開発は、GGGメインコンピューターと同じく猿頭寺耕助によっておこなわれた。メインコンピューターとは独立したシステムとなっている。これによって、ベイタワー基地の非常事態発生時には、緊急システムとして稼働し、基地内のシステム運営を代行できるのだ。また、多次元コンピューターは、侵入者撃退プログラムでハッキング、コンピューターウィルスから保護されている。艦内にはビークルマシーンも常駐可能な作戦指令室、I.Bルームがあり、各種情報を分析しながらの作戦立案が可能だ。世界最高を誇る情報分析能力を持たせるべく、各種情報解析システムを搭載したために飛行能力を持たせることはできなかった。艦首に小形ジェット機フライ1、艦内には小形潜航艇マリン1を搭載している。防御機能として艦首下部より発射する水中ミサイルがある。



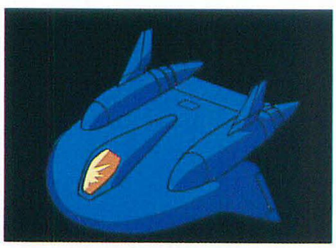
強襲揚陸捕給船と同じく、ヘキサゴン連結時は上図のような形態をとっている。ベイタワー基地から発進したのち、中央部を軸に展開し、潜水艦形態へと変形を完了する。



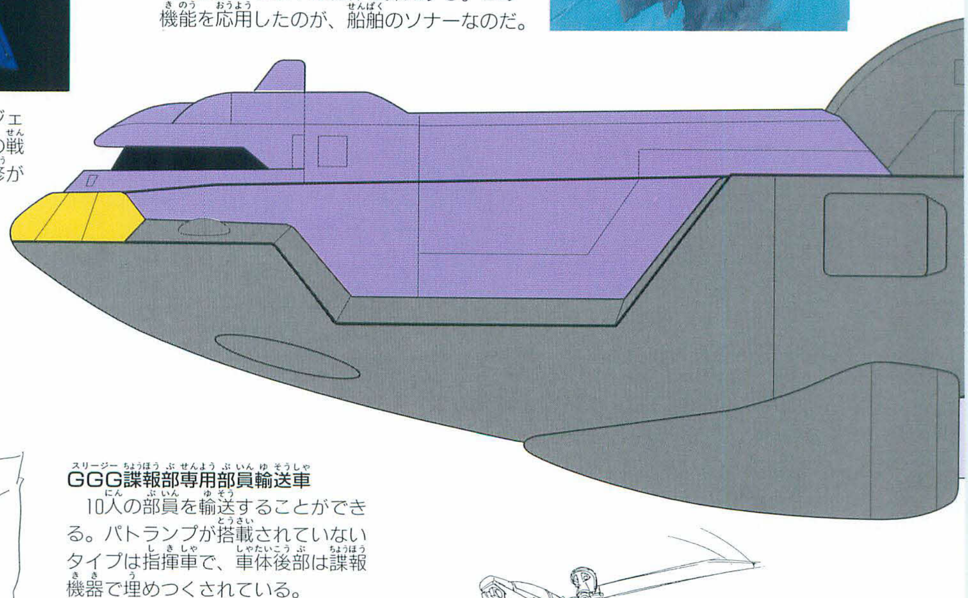


ソナーを使う動物・イルカ

イルカには嗅覚がないといわれている。かわりに聴神経が発達しており、数キロヘルツから200キロヘルツにおよぶ声を出し、その反射音で水中の物体を探知する。この機能を応用したのが、船舶のソナーなのだ。



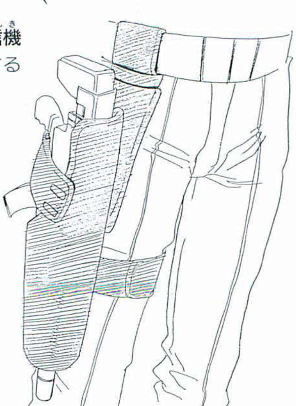
艦首に搭載されている緊急脱出用小型ジェット機・フライ1。将来の敵ゾンダーとの戦闘激化に備えて、偵察・戦闘面の強化改修が提案されている。





GGG諜報部員の小型通信機

咽頭部にマイクを固定することで、ささやき声も聴取、通信が可能となっている。隠密行動に適した通信機器だ。

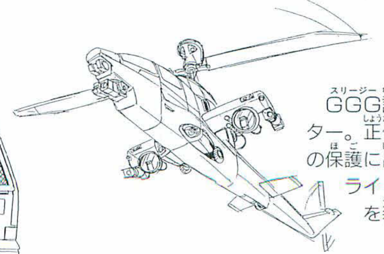


GGG諜報部員の正式採用サブマシンガンと、そのホルダー。作戦行動時には諜報部員全員が装備する。

GGG諜報部専用部員輸送車

10人の部員を輸送することができる。パトランプが搭載されていないタイプは指揮車で、車体後部は諜報機器で埋めつくされている。



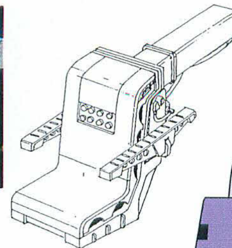


GGG諜報部専用ヘリコプター。正体不明だった護少年の保護に出動。2つのサーチライト、赤外線探知装置を装備している。



大航海時代にくらべると、現代の船はさまざまな探知装置によって守られ、航海は安全このうえない旅行手段だといえる。ましてや軍艦の電子装備にいたっては、衛星による通信システムをはじめ、三次レーダー、高・低空の探索レーダーなどがあり、航海の安全に役立っている。　撮影／河森正治

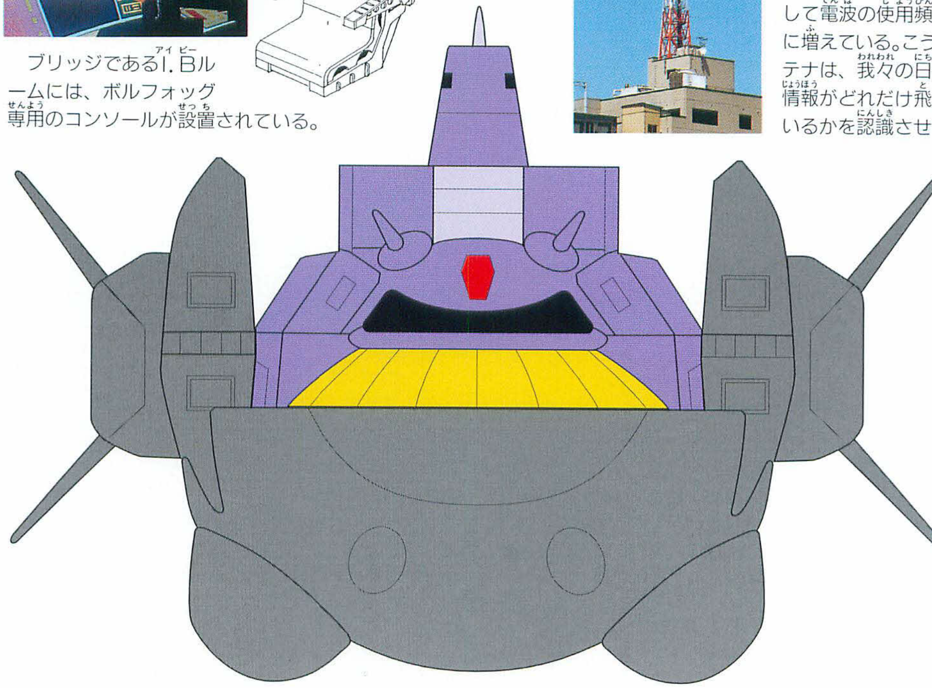


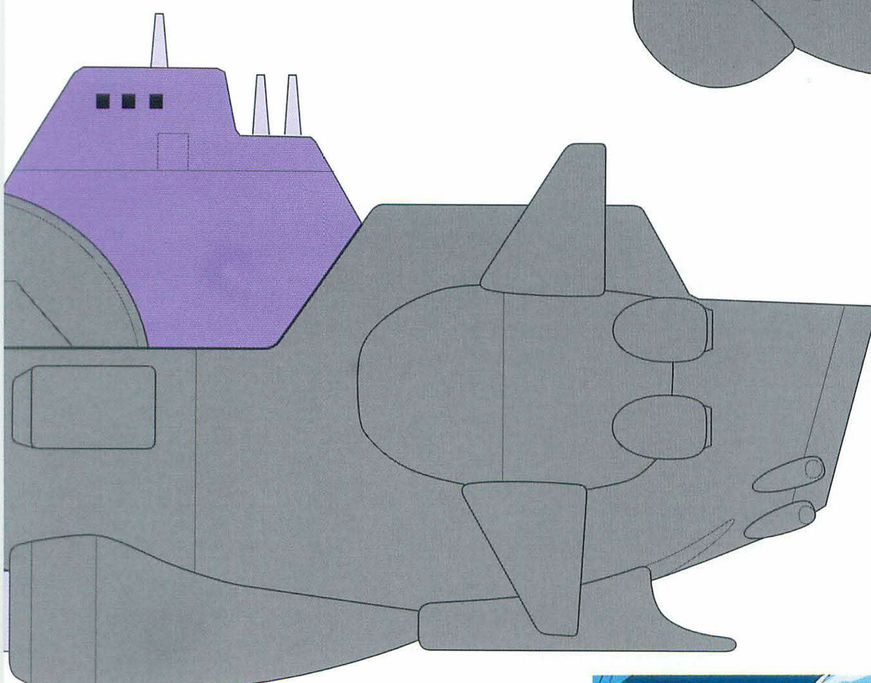


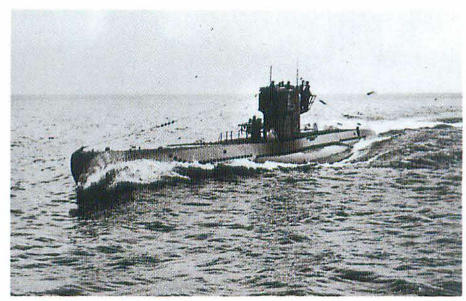
ブリッジであるI.Bルームには、ボルフォッグ専用のコンソールが設置されている。



現在、情報伝達の手段として電波の使用頻度は格段に増えている。こうしたアンテナは、我々の日常の中で情報がどれだけ飛び交っているかを認識させてくれる。



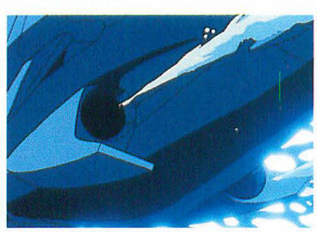




潜水艦の歴史は、紀元前4世紀のアレクサンダー大王の時代までさかのぼることができる。ガラスの樽で水中に潜ったと伝えられるその原始的なものから約2300年後、1900年に現代潜水艦のもととなったアメリカのホランド号が進水した。その後第二次世界大戦時には、ドイツのUボート（写真）が大西洋をあばれまわり、連合軍を悩ませた。20世紀後半には、核ミサイルを積んだ原子力潜水艦が、世界戦略の中心となった。

全エリア内で最もオートマチック化が進んでおり、隊員の手を借りなくてもある程度までは独自に行動することが可能だ。





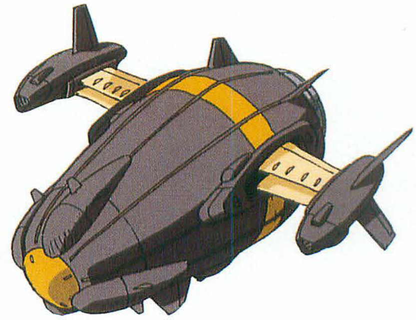
潜水艦としての機能を追求した結果、開発された多次元エンジンを採用。艦内に6000メートルまで潜水可能なマリン1を搭載している。

DATA

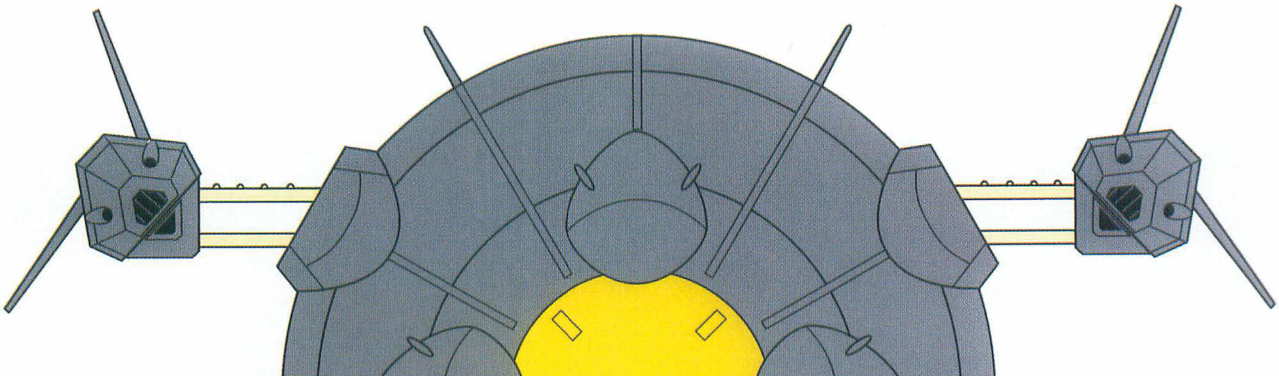
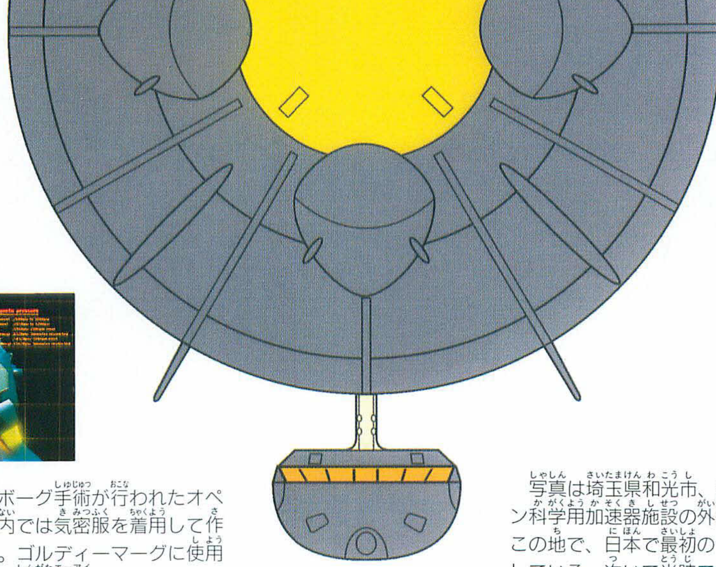
Submergible Multi-Dimension Intelligence Ship

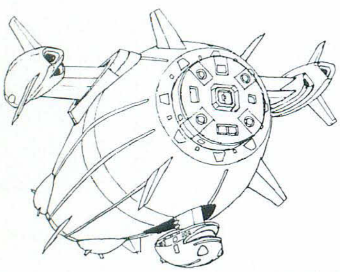
重量……………………78,000トン
全長……………………230メートル
全高……………………110メートル

◆エリアⅥ・三式空中研究所◆



GGG研究開発部所属の研究エリア。オーバーテクノロジーを利用したウルテク・エンジンを搭載していることからもわかるとおり、実験的な設備を多く持っている。ガオガイガー、ビークルマシーン、ハイパーツールはすべてここで開発された。ギャレオンがもたらしたGストーン、敵ゾンダリアンのゾンダーメタル分析や解析を担当している。凱の調整を行うメンテナンスルーム、医療施設も設置されている。エリア内に数多くの研究セクションがあるため、緊急時以外の発進は許可されない重要エリアだ。

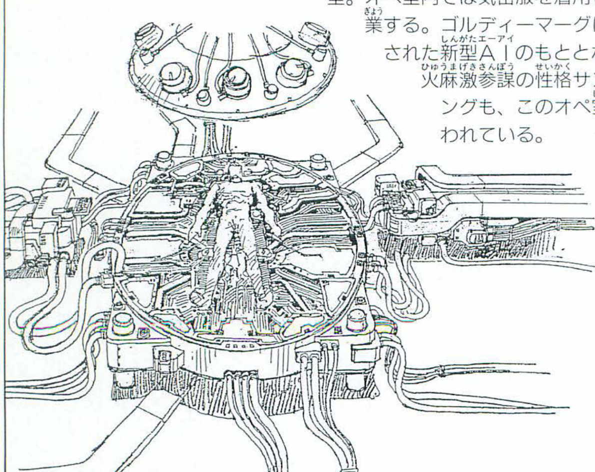


▲ヘキサゴン連結時は両翼と下部に位置するコクピットはエリア本体に収納される。

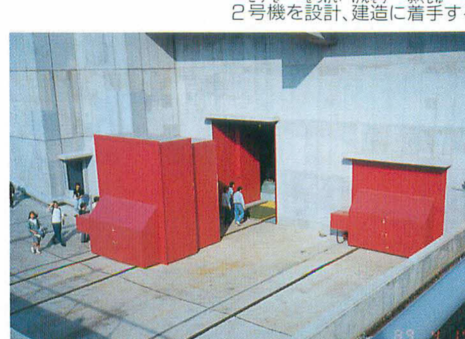




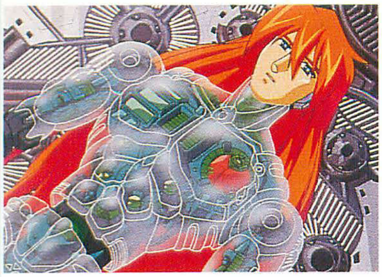
GGGのゼネラルスーパーバイザーにして、三式空中研究所の管理責任者の獅子王麗雄博士。本エリアは多分に獅子王博士の私的エリアの要素が強い。



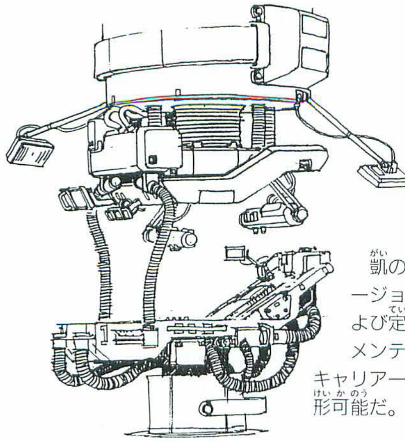
凱のサイボーグ手術が行われたオペ室。オペ室内では気密服を着用して作業する。ゴルディーマーグに使用された新型AIのもととなった、火麻激参謀の性格サンプリングも、このオペ室で行われている。



写真は埼玉県和光市、理化学研究所敷地内にある重イオン科学用加速器施設の外観だ。放射線隔壁の厚さに注目。この地で、日本で最初のサイクロトロンが昭和12年に完成している。次いで当時でも世界最大規模のサイクロトロン2号機を設計、建造に着手するが、第二次世界大戦後GHQによって、東京湾に破棄されている。ちなみに、11話でパスダーによってゾンダーメタルプラントにされた北海道の粒子加速器「イゾルデ」は、楽劇「トリスタンとイゾルデ」から命名されたと思われる。「トリスタン」は、茨城県つくば市にある国内最大の粒子加速器。現在では主な素粒子実験を終了している。



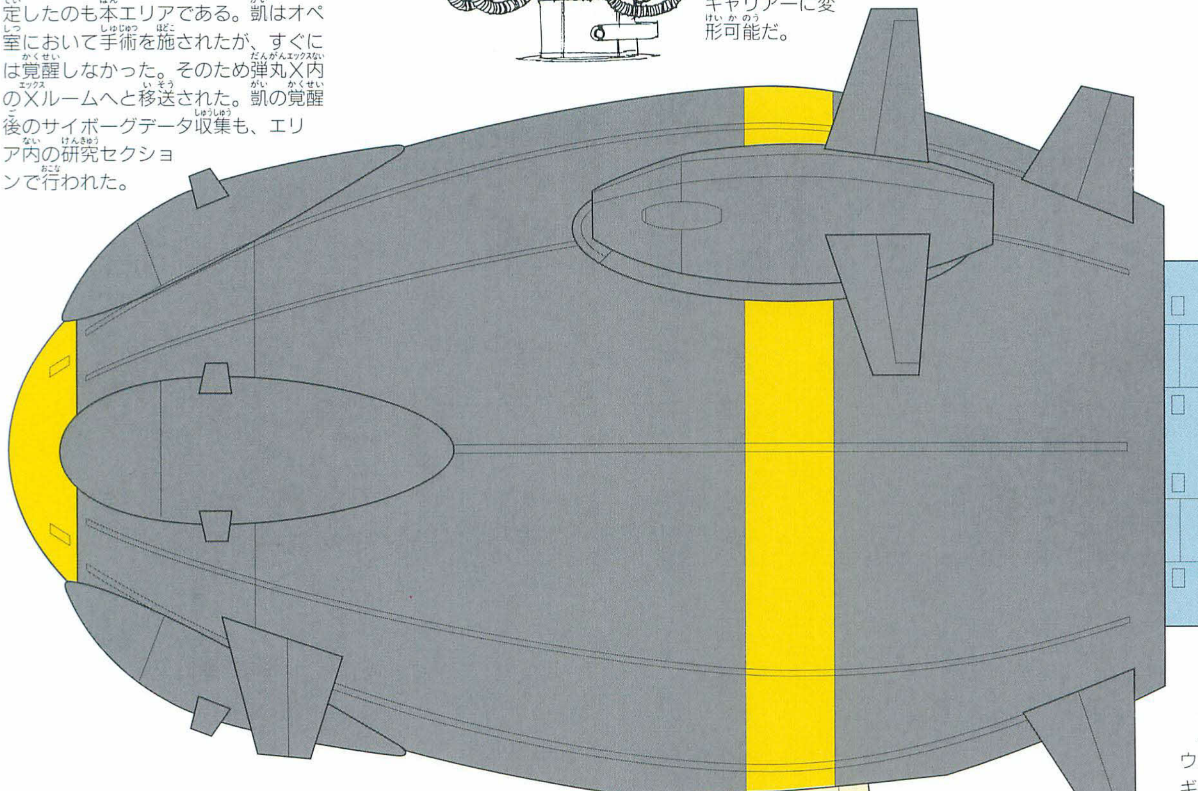
ゾンダリアンとの接触で瀕死の重傷を負った獅子王凱のサイボーグ化にあたり、Gストーンを使用することを決定したのも本エリアである。凱はオペ室において手術を施されたが、すぐには覚醒しなかった。そのため弾丸X内のXルームへと移送された。凱の覚醒後のサイボーグデータ収集も、エリア内の研究セクションで行われた。

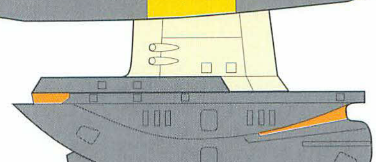


凱のメンテナンスルーム。フュージョンアウト後の整備、点検および定期検診はここで実施される。メンテナンスベッドは、分離してキャリアーに変形可能だ。

研究者のシンボルともいえる白衣は、各種実験用をはじめ、医療用、飲食店など幅広く使われている。その主な用途は衛生と安全の2つの側面からによるものが大きいが、ゾンダー研究からサイボーグのメンテナンスまで、幅広い研究を手がけるGGGではよく見かけられる服装だ。



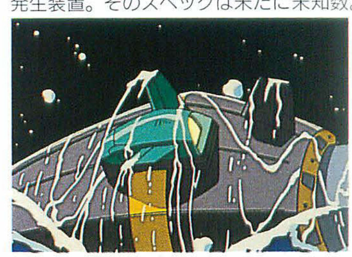


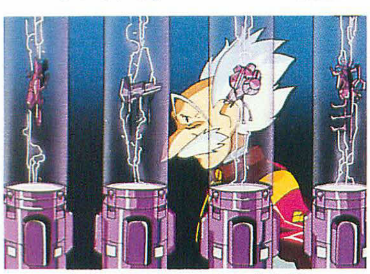


メインエンジンであるウルテク・エンジンは、ギャレオンのもたらしたオーバーテクノロジーを利用した実験段階の反重力場発生装置。そのスペックは未だに未知数。

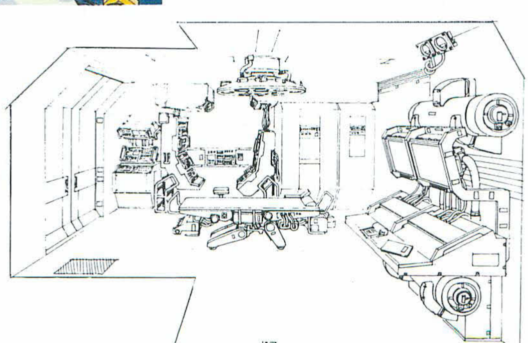


各セクションの研究対象にも左右されるが、基本的にはゴーグルに白衣が、三式空中研究所所員の制服となっている。





現在、本エリアが最も研究資材を投入しているのが、GGG諜報部所属ビークルマシーンのボルフォッグが、北海道で回収したゾンダーメタルの調査、解析作業である。



GGG隊員の健康面を管理するメディカルルームの存在は、本エリアの研究が多方面に渡っている証拠でもあるのだ。

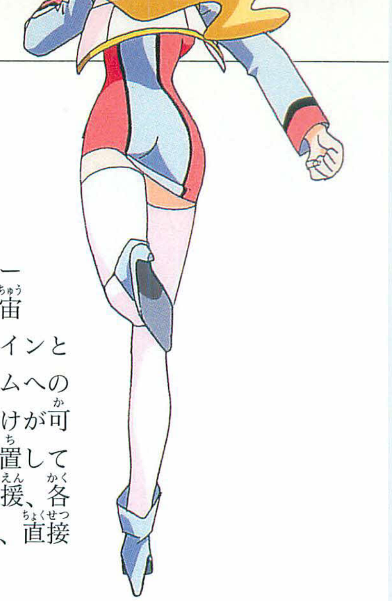
DATA

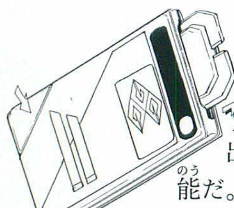
Ultra-Technology Laboratory

重量……………65,000トン
全長……………205メートル
全高……………………不明

GGG(Gutsy Geoid Guard)

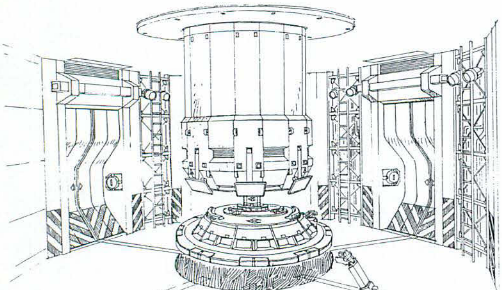
◆ビッグオーダールーム◆





Gアイランドシティの中心に位置する宇宙開発公団タワーの地下約80メートルにあるのがメインオーダールームである。メインオーダールームは宇宙開発公団タワーとGGGバリアリーフをつなぐメインシャフトにあり、Aラインと Bラインの中間に位置している。宇宙開発公団からのメインオーダールームへの出入りは、公団タワーのエレベーター内でIDチェックをクリアしたものだけが可能だ。ビッグオーダールームは、メインオーダールームの真下、Bライン内に位置している。メインオーダールームがリフトダウンすることで、GGG機動部隊の作戦行動支援、各エリアの活動指揮という機能を維持したまま、ここではビークルロボを交えての作戦立案、直接指令の発信が行えるのだ。メイン、ビッグの使用は、非常事態の状況により選択される。

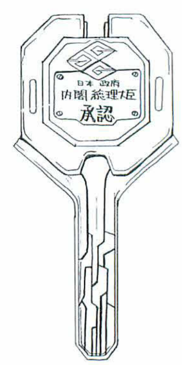
ビッグオーダールーム全景。中央がメインシャフトおよび、メインオーダールーム。その周りが各エリアへの通路の扉だ。





大河幸太郎

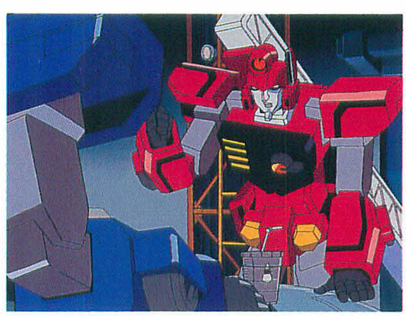
宇宙開発公団・総裁だが、その真の姿はGGG長官である。2003年の発足以前からGGG設立には深く関わってきた。多少オーバージェスチャーなところはあるが、頭脳明晰、正義感が強く、人を気遣える上司である。非常事態発生時には常に迅速な判断をくだす。ファイナルフュージョンの承認、ゴルディオンハンマーの発動承認権および安全装置解除用の日本政府内閣総理大臣承認と刻印された解除キーを持つ唯一の人物。火麻参謀とは旧友だが、考え方が全く合わず、つねに対立している。年齢45歳。血液型O型。蠍座生まれ。





卯都木 命

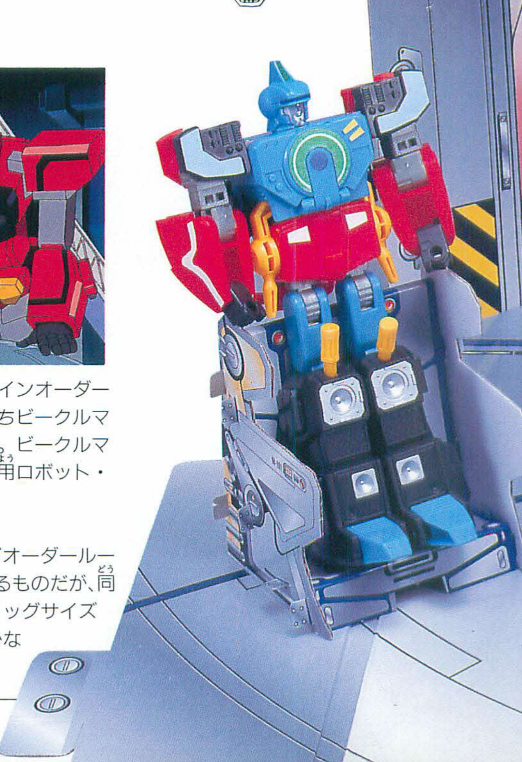
GGG機動部隊を担当するオペレーター。主な任務は戦闘時の凱の補佐、ファイナルフュージョン承認後の合体プログラム起動、ゴルディオンハンマー使用時の安全装置解除の最終段階を担当している。凱とは高校時代のクラスメートで、凱がサイボーグとして覚醒した2004年にGGGに入隊している。苦くて濃いコーヒーを煎れることを得意とし、いくら食べても体型が変わらないという特技を持つ。年齢20歳。血液型O型。1月生まれの水瓶座。



ビッグオーダールーム内にはメインオーダールームを中心とした、氷竜、炎竜たちビークルマシーン専用イスが配置されている。ビークルマシーンの燃料補給をおこなう給仕用ロボット・ビギーも常駐している。



ファイナルフュージョンのプログラムは、卯都木隊員がコンソール上の起動スイッチを押すことで起動する。



写真はタカラ製ビッグオーダールーム。紙とスチロールによるものだが、同社氷竜&炎竜やボルフォッグサイズで作られているので、かなり大きい(非売品)。

猿頭寺耕助

GGG諜報部のオペレーターであると同時に、GGGオペレーターのチーフである。知能指数は300で、コンピューターを越える記憶力を持っている。GGGメインコンピューター、多次元諜報潜水艦の多次元コンピューターのプログラム開発者でもある。風呂が大の苦手で不衛生なため体臭がひどく、周囲5メートルには彼専用の消臭剤が積まれている。私生活は謎につつまれている。年齢27歳。血液型AB型。牡羊座生まれ。





火麻　激

GGG作戦参謀兼戦術アドバイザー。アメリカ防衛軍出身で、実戦経験が豊富。特にマーシャルアーツ、サブミッションに造詣が深い。氷竜、炎竜の射撃、近接戦闘、戦術の教師でもある。ゴルディーマーグに採用された新AIシステムの性格プログラムは彼の性格が参考にされている。現場肌なため最前線で指揮をとることが多い。興奮して握り潰してしまうせいで、たくさんの携帯通信装置を用意している。年齢45歳。血液型B型。蟹座生まれ。

獅子王麗雄

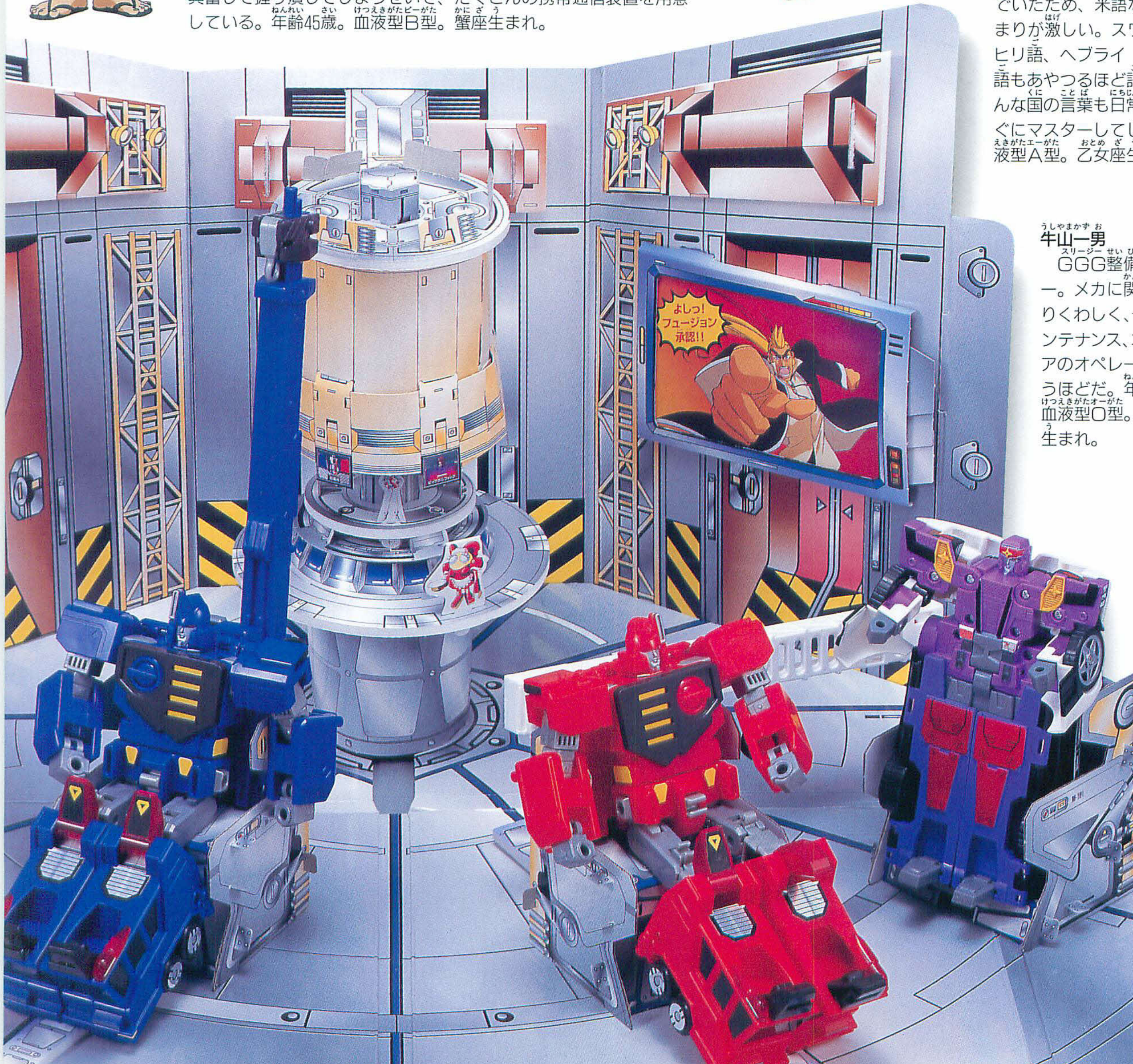
宇宙開発公団・顧問監修。GGGではゼネラルスーパーアドバイザーとGGG研究開発部部長を兼任している。全ての科学分野の知識が豊富で、GGGの多くのメカニックの開発にたずさわった。ジェットローラースケートで走り回るなど、自分をまだまだ若いと思っている。アメリカにいる兄の雷牙とは、ケンカになるほど仲が悪い。年齢70歳。血液型B型。獅子座。





スワン・ホワイト

GGG研究開発部担当のオペレーター。アメリカに20年住んでいたため、米語なまりが激しい。スワヒリ語、ヘブライ語もあやつるほど語学に秀でていて、どんな国の言葉も日常会話くらいなら、すぐにマスターしてしまう。年齢24歳。血液型A型。乙女座生まれ。



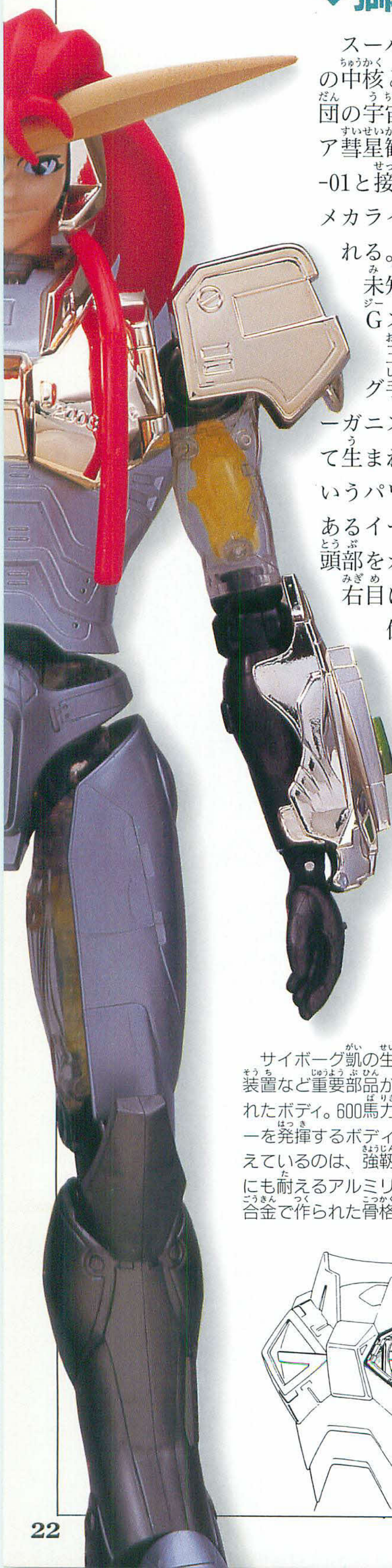
牛山一男

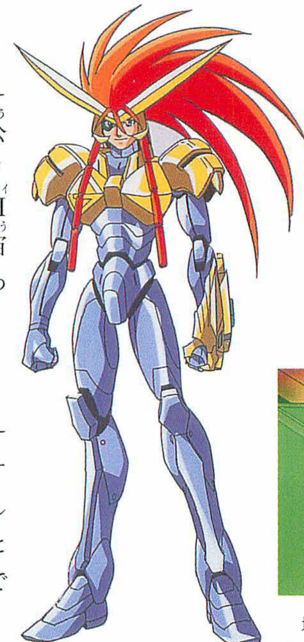
GGG整備部担当のオペレーター。メカに関しては獅子王博士よりくわしく、一人でメカの発進、メンテナンス、コンテナの4つのエリアのオペレーターをこなしてしまうほどだ。年齢22歳。血液型O型。牡牛座生まれ。



UL-TECH ROBOTS

◆獅子王　凱◆

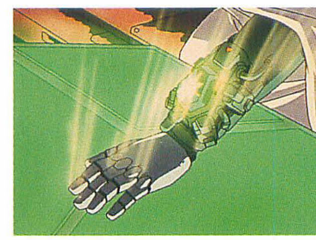




スーパーメカノイド・ガオガイガーの中核となるサイボーグ。宇宙開発公団の宇宙パイロットとしてギャレオリア彗星観測用シャトルで作業中に、EI-01と接触。瀕死の重傷を負うが、宇宙メカライオン・ギャレオンに命を救われる。ギャレオンがもたらした、未知のエネルギーサーキット・Gストーンの技術を用い、獅子王麗雄博士執刀によるサイボーグ手術で、サイバネティック・オーガニズム、すなわちサイボーグとして生まれ変わった。通常でも600馬力というパワーを発揮するが、戦闘形態であるイークイップモードになると、頭部をガードするホーンクラウン、右目に多機能表示モニター、サイバースコープが装備され、パワーも30%アップするのだ。凱の驚異的なパワーすべてのコントロールを司るのが、左腕に埋め込まれたGストーンである。もしもGストーンを除去されたら、凱はたちまち全機能を停止して、死んでしまうのだ。

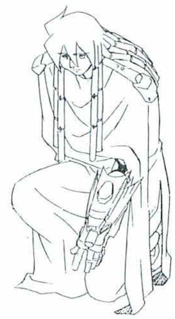


玩具でも再現されたライオンの顔を照射するプロジェクションビームは、ギャレオンを呼び出すコールサインだ。電波障害がどんなに激しくても、なんら影響を受けない特性があるのだ。

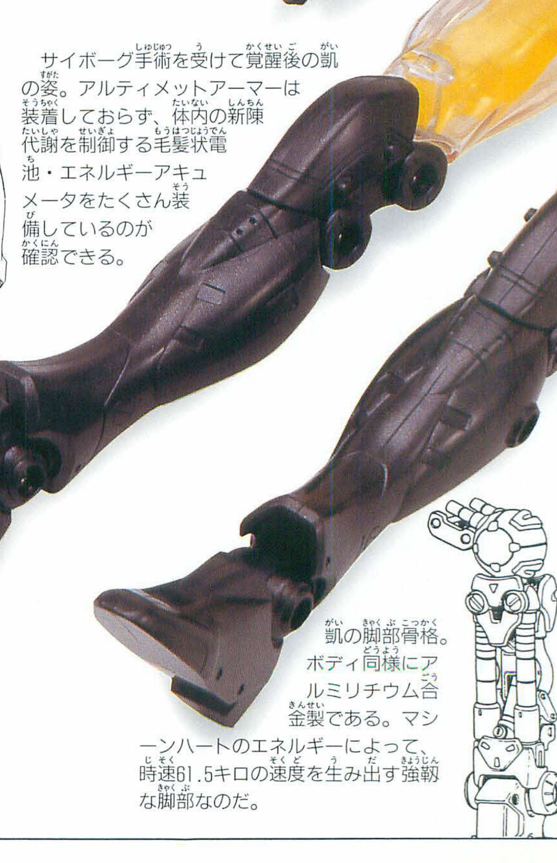


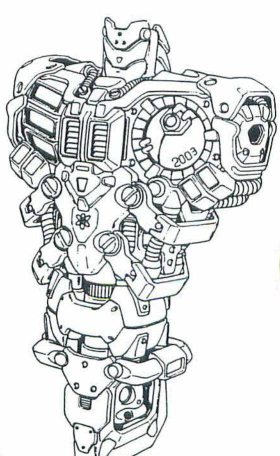
地球に飛来後、まったく動かなかったギャレオンとGストーンが反応して、ギャレオン頭部のブラックボックス内に記憶されていたテクノロジーと、Gストーン入手のきっかけを作った。



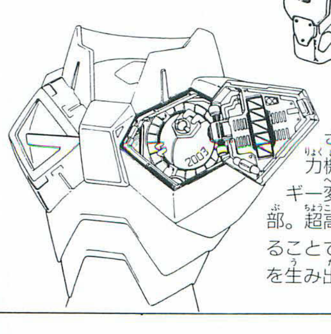


サイボーグ手術を受けて覚醒後の凱の姿。アルティメットアーマーは装着しておらず、体内の新陳代謝を制御する毛髪状電池・エネルギーアキュメータをたくさん装備しているのが確認できる。





サイボーグ凱の生命維持装置など重要部品が収められたボディ。600馬力のパワーを発揮するボディをささえているのは、強靭な圧力にも耐えるアルミリチウム合金で作られた骨格だ。



サイボーグアーマー胸部に内蔵されたマシーンハートが凱の主動力機関だ。マシーンハートはエネルギー変換炉と油圧ポンプを兼ねた心臓部。超高速アクチュエーターを駆動させることで、人智を超えた600馬力のパワーを生み出すのだ。

凱の脚部骨格。ボディ同様にアルミリチウム合金製である。マシーンハートのエネルギーによって、時速61.5キロの速度を生み出す強靭な脚部なのだ。



写真は「DX変身サイボーグ、獅子王ガイ」。胸部のボディパーツには、かつてタカラが発売していた「変身サイボーグ」と同じマークが刻まれている。まさに現代によみがえったサイボーグだ。

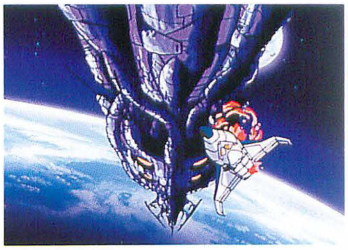
タカラ製「DX変身サイボーグ獅子王ガイ」の全パーツ。外装パーツ（アルティメットアーマー）を外した姿は、変身サイボーグそのものだ。全パーツ21点、メッキパーツも多用している。ヒザが二重関節になっており、今までの人形に比べ、かなり自由なポーズをとることができる。昔の変身サイボーグのオプションパーツを取りつけることも可能のようだ。



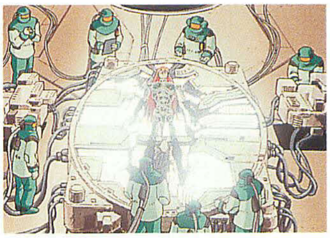




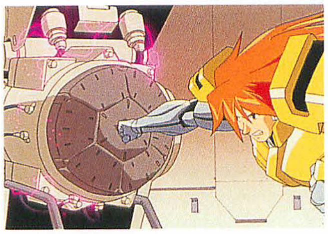
凱の左腕内部構造。凱のすべてのパワーを司るGストーンは左腕に埋め込まれている。凱はこのGストーンを装着しているからこそ、精密なサイボーグの体を維持することが可能なのだが、まだGストーンには不明な点が多く残されている。



宇宙開発公団所属シャトルのパイロットだった凱は、EI-01との接触事故に遭遇する。



凱はギャレオンに助けられたが瀕死の重傷を負ったため、父・獅子王博士の手によって、サイボーグ手術を施されて生まれ変わったのだ。

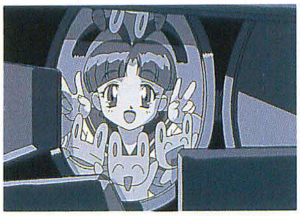


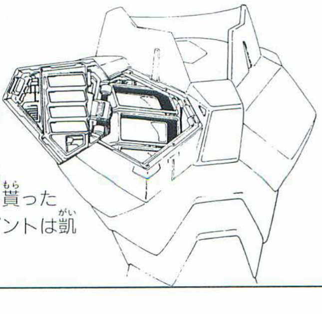


ガオーブレスは埋め込まれたGストーンの力を最大限に発揮するために作られたGSジェネレーターである。そのほかの機能として、ギャレオンを呼ぶプロジェクションビーム、熱還元刀であるウィルナイフが収められている。

アトラクション用に作られた、着ぐるみのガイ。地域密着型のイベントなどでおこなわれるサイボーグガイショーに登場する。同様に着ぐるみのガオガイガーもある。



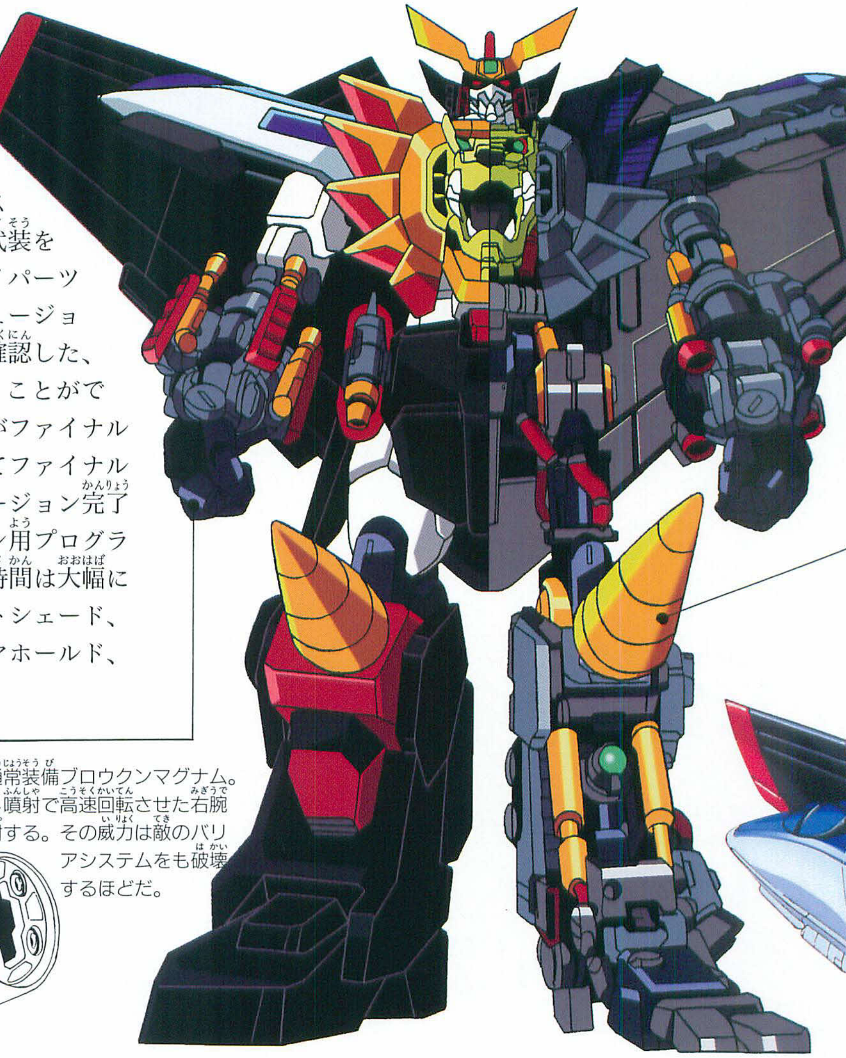




サイボーグアーマーの左胸内部には暗号通信装置と、卯都木隊員から貰ったペンダントを収納している。ペンダントは凱の大切なお守りでもある。

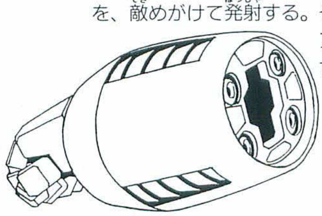
◆ガオガイガー◆

ガイガーとステルスガオー、ライナーガオー、ドリルガオーの3機のガオーマシンが変形合体＝ファイナルフュージョンすることで完成する重機動スーパーメカノイド。左腕に防御系、右腕に攻撃系の武装をもっている。戦闘状況に応じて防御、攻撃双方のハイパーツールを装着して戦闘行動をおこなう。ファイナルフュージョンはガイガーからのファイナルフュージョン要請を確認した、GGG長官・大河幸太郎の承認を得なくてはおこなうことができない。承認後、機動部隊オペレーター・仰都木命がファイナルフュージョン用プログラムを起動することで、初めてファイナルフュージョンが可能となる。初期のファイナルフュージョン完了時間は62.328秒であったが、ファイナルフュージョン用プログラムソフトのヴァージョンアップによって、合体完了時間は大幅に短縮されている。通常装備は防御系としてプロテクトシェード、攻撃系としてプロテクトシェードを応用したプラズマホールド、ブロウクンマグナム、ドリルニーを装備。必殺技はヘル・アンド・ヘブンであったが、凱にかかる負荷が大きいため、現在は使用が制限されている。



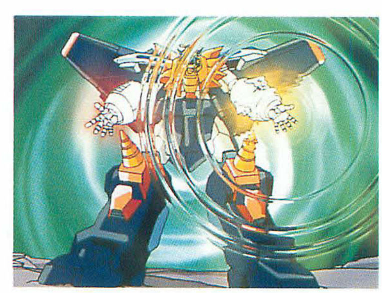
ブロウクンマグナム

ガオガイガーの通常装備ブロウクンマグナム。腕部側面のジェット噴射で高速回転させた右腕を、敵めがけて発射する。その威力は敵のバリアシステムをも破壊するほどだ。

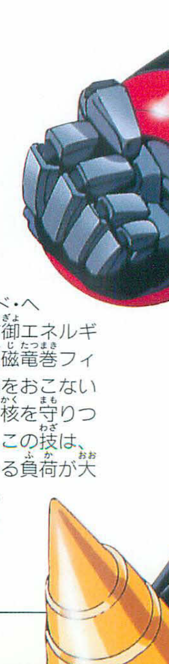




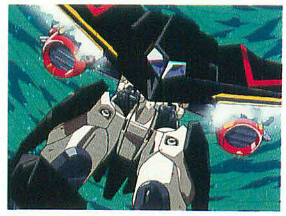
右手にゴルディオンハンマー、左手にディバイディングドライバーを付けた、フル装備のガオガイガー。実際には、ディバイディングドライバーは使用後に外してしまうので、このようなフル装備は考えられにくいが、ゾンダー側の攻撃によっては可能性はゼロではない。(タカラ製)



ガオガイガー最強の必殺技がこのヘル・アンド・ヘブンである。右手に攻撃エネルギー、左手に防御エネルギーを最大限集中させ、組み合わせた両手から電磁竜巻フィールドを形成する。背面部ジェット噴射で加速をおこない敵に激突し、ゾンダー核をえぐりだす。左手で核を守りつつ、右手で敵内部を破壊する攻防一体となったこの技は、攻撃および防御エネルギーを制御する凱にかかる負荷が大きいため、現在はヘル・アンド・ヘブンにかわる切り札として、Gツール・ゴルディオンハンマーが使用されている。



ステルスガオー
ステルスガオーはガイガー背面部にコクピットを下にして合体する。合体後、機体下面のジェットノズルがガイガー上腕部と連結する。内部の、たてがみと頭部がガイガーと連結し、合体を完了する。

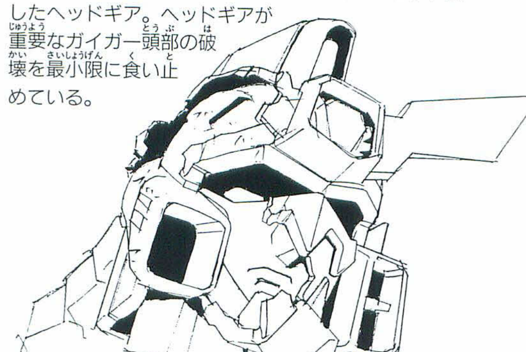


ライナーガオー

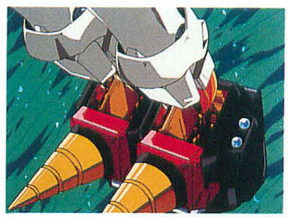


ガイガーの両腕が背面に折りたたまれて、出現する胸郭部の空洞に右肩部分から高速で突入し、中央部でV字形に折れ曲がり、固定され両肩に変形、車体下面より両腕の上腕部が出現し、変形を完了する。合体構造上、最も過度な衝撃を受ける個所だ。

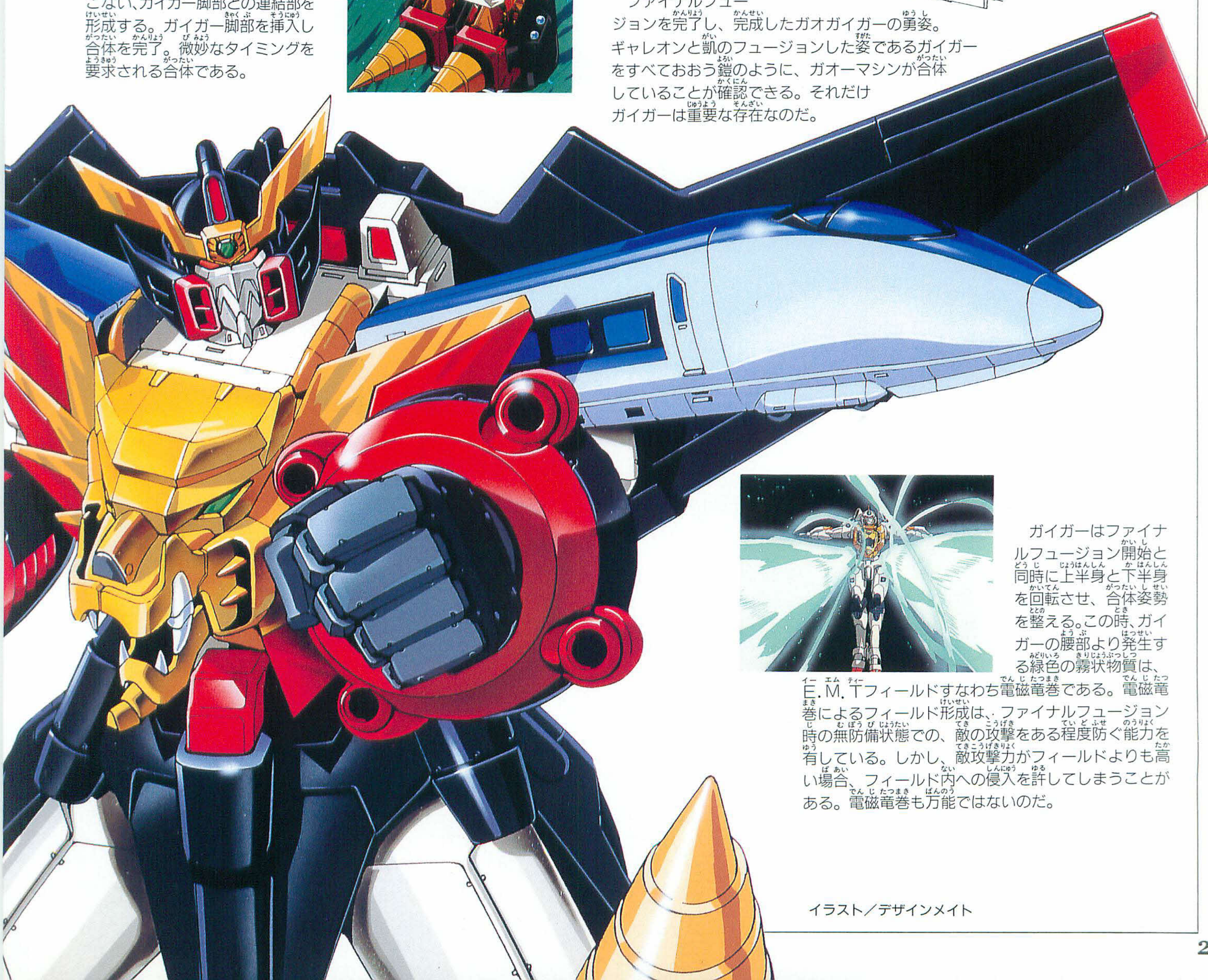
ヘッドギア
ガイガー、ステルスガオー、ライナーガオー、ドリルガオーの4機が合体終了後、ステルスガオーに内蔵されている頭部重装甲であるヘッドギアが、ガイガーに装着されて合体を完了する。下図イラストはマーグハンドなしでゴルディオンハンマーを使用したため半壊したヘッドギア。ヘッドギアが重要なガイガー頭部の破壊を最小限に食い止めている。



ドリルガオー
機体中央部から分離を開始し、ドリル部分が膝部分へと移動をおこない、ガイガー脚部との連結部を形成する。ガイガー脚部を挿入し合体を完了。微妙なタイミングを要求される合体である。



ファイナルフュージョンを完了し、完成したガオガイガーの勇姿。ギャレオンと凱のフュージョンした姿であるガイガーをすべておおう鎧のように、ガオーマシンが合体していることが確認できる。それだけガイガーは重要な存在なのだ。

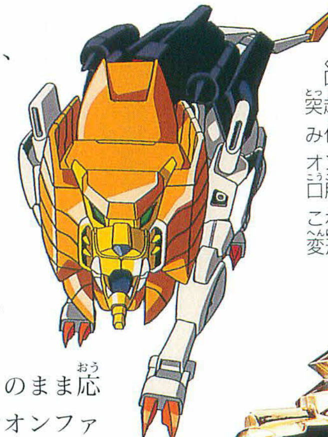


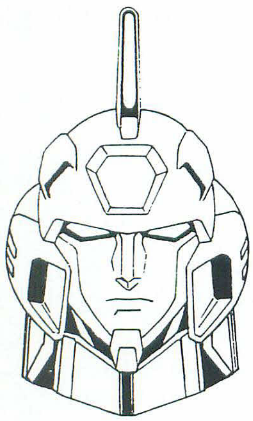
ガイガーはファイナルフュージョン開始と同時に上半身と下半身を回転させ、合体姿勢を整える。この時、ガイガーの腰部より発生する緑色の霧状物質は、E.M.Tフィールドすなわち電磁竜巻である。電磁竜巻によるフィールド形成は、ファイナルフュージョン時の無防備状態での、敵の攻撃をある程度防ぐ能力を有している。しかし、敵攻撃力がフィールドよりも高い場合、フィールド内への侵入を許してしまうことがある。電磁竜巻も万能ではないのだ。

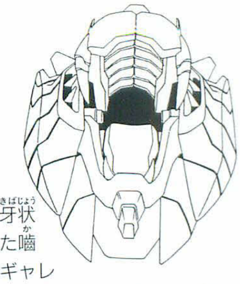
イラスト／デザインメイト

◆ギャレオン／ガイガー◆

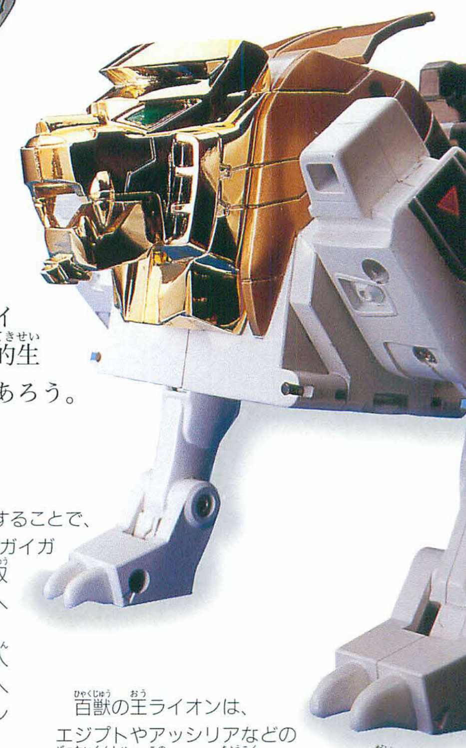
2003年、ゾンダリアンの地球侵攻と時を同じくして地球へ飛来した、未知の天体からの使者、それが宇宙メカライオン・ギャレオンである。ギャレオンはGGGの管理下に置かれ、ながらく三段飛行甲板空母内のギャレオンルームに格納されていた。しかし、2004年に凱のGストーンと反応し、オーバーテクノロジーのかずかずをもたらした。そのオーバーテクノロジーを応用して開発されたのが、エネルギーサーキットであるGSライドであり、ビークルマシーンなのだ。スーパーメカノイド・ガオガイガーへの合体変形も、自らがボディの中心部を担うことからもわかるとおり、ギャレオンがもたらした設計方法、開発技術をそのまま応用したものである。固有の武装としてギャレオンファング・ギャレオンクローを持つ。ギャレオンとサイボーグである凱がフュージョンすることで完成するメカノイド・ガイガーは人型戦闘用ロボットである。ガイガーはガオガイガーへの変形前段階といってよいだろう。固有の武装はガイガークローのみと少ないが、敏捷な機動力がそれを補っている。ガイガーが人型ということから推測するに、ギャレオンを造った知的生命体は、地球人類と同じような形態であることは間違いないであろう。

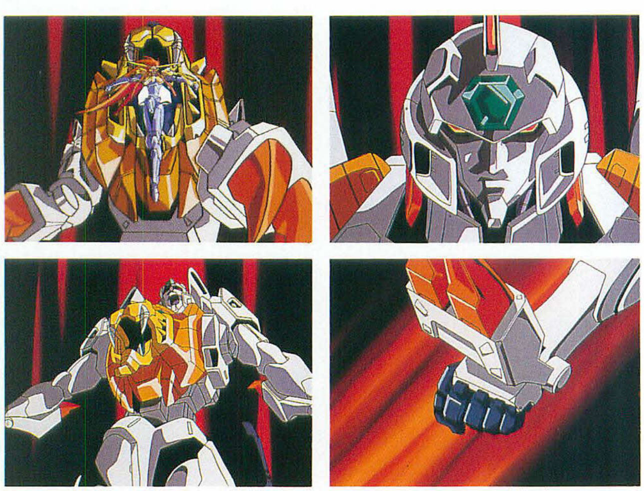






口に生えた牙状突起を利用した噛み付き攻撃がギャレオンファングである。また、ギャレオンの口腔内に人間を収容するスペースがあり、これを利用して凱を収容し、ガイガーへと変形すると推測される。





ギャレオンは凱とフュージョンすることで、人型戦闘形態であるメカノイド・ガイガーへと変形する。凱を口腔内に収容後、ギャレオンの頭部が前方へと下がり、ガイガー頭部が出現。ギャレオン腕部および脚部が、人間の関節状に変形し、ガイガーへの変形を完了する。フュージョンは承認の必要はなく、凱に決定権がゆだねられている。

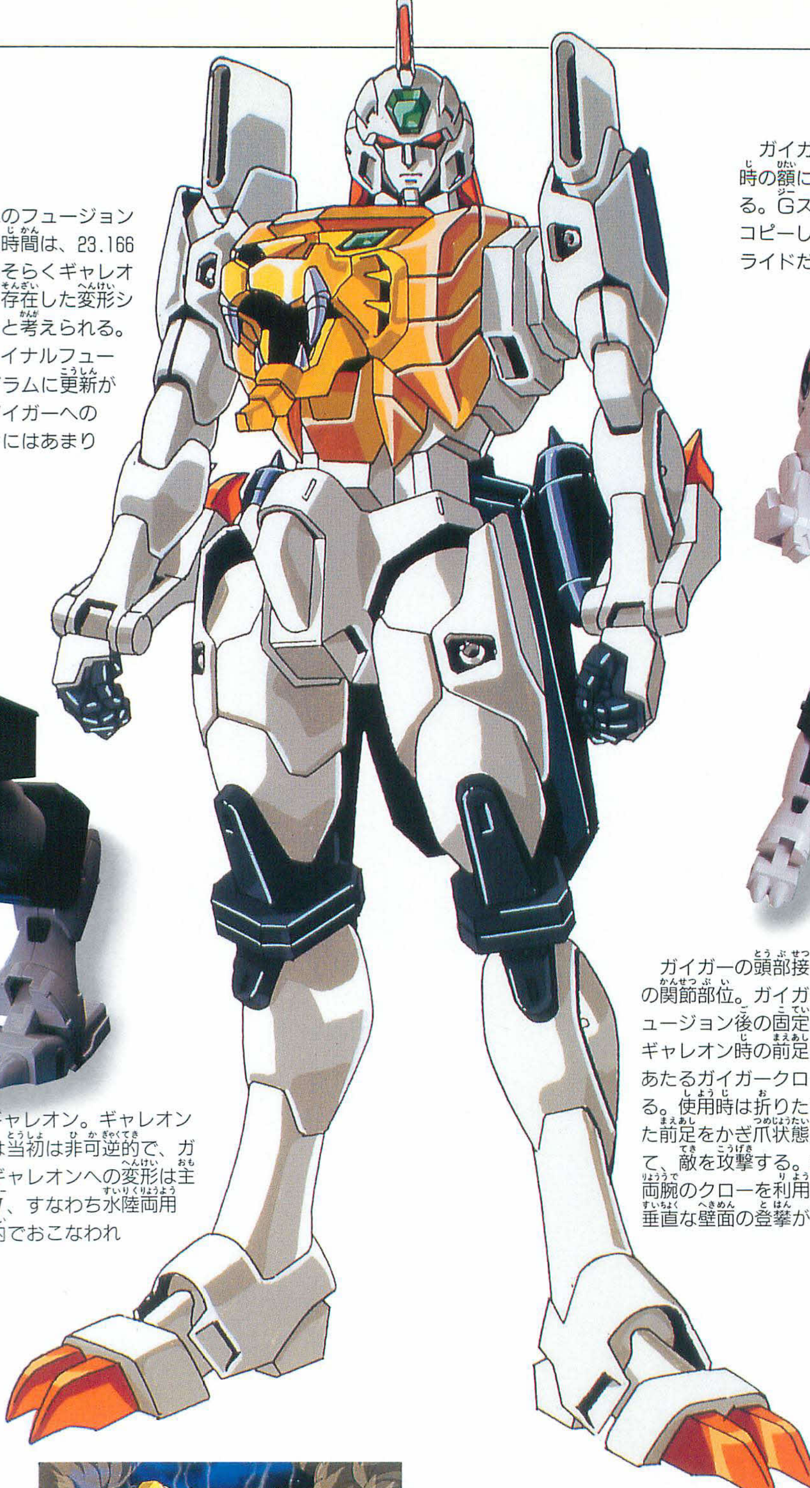
百獣の王ライオンは、エジプトやアッシリアなどの絶対君主に好まれ、彫刻やレリーフの題材となった。かつてはアフリカからインドにかけて広く分布していたが、人類の文明の発達による土地の農地化で、食物となる草食獣の数が減少したことによって、ライオンの数も減っていった。現在では、アフリカの一部にのみ生息。

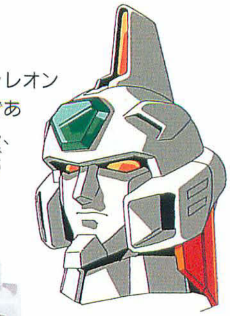




ガイの左腕に装備されたガオーブレスは、Gストーンを収めてあるだけではなく、ギャレオンを呼ぶこともできる。写真はタカラ版の1／1ガオーブレス。プロジェクションビームを照射するために、ビーム発光部分が、前にとび出している点に注目。ビームの照射によって、ライオンのマークが浮かび上る。







ガイガー頭部のGストーンはギャレオン時の額に位置していたものと同一である。Gストーンと駆動機関を調査し、コピーして開発されたものが、GSライドだ。

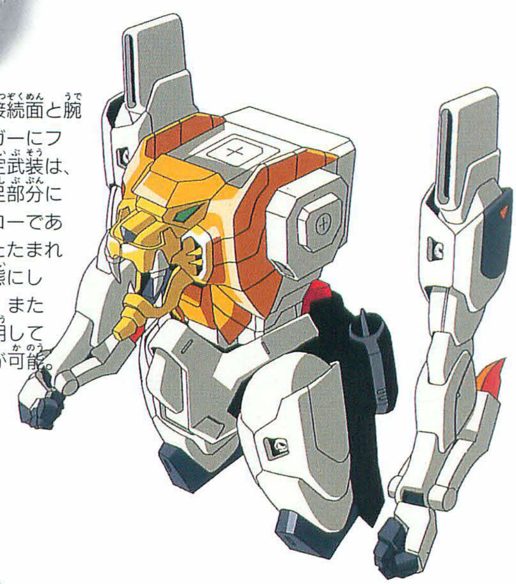
ガイガーへのフュージョン完了に要する時間は、23.166秒である。おそらくギャレオンに当初より存在した変形システムであると考えられる。よって、ファイナルフュージョンプログラムに更新があっても、ガイガーへのフュージョンにはあまり関係ない。



タカラ版の「ガイガー」。ガオガイガーのベースとなるために、人型形態の方が無理がない。ただし、変形を前提に設計されているので、収納可能な頭部、ドリルガオーが装着されることを前提に考えられた脚部など、アニメとはかなりプロポーションが異なる。



タカラ製ギャレオン。ギャレオンの変形機能は当初は非可逆的で、ガイガーからギャレオンへの変形は主に、エリアⅣ、すなわち水陸両用整備装甲車内でおこなわれる事が多い。

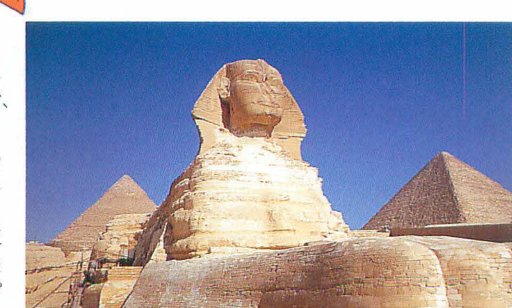


ガイガーの頭部接続面と腕の関節部位。ガイガーにフュージョン後の固定武装は、ギャレオン時の前足部分にあたるガイガークローである。使用時は折りたたまれた前足をかぎ爪状態にして、敵を攻撃する。また両腕のクローを利用して垂直な壁面の登攀が可能。

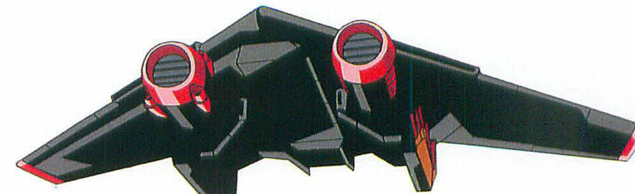


スフィンクスの謎

ギリシャ神話にあらわれるスフィンクスは、女の顔と獅子の体に翼をもつ怪物で、子供をさらう妖怪のようなものだった。だが、その反面、魔除け護符の図像にもされた。時代が下がると、スフィンクスは旅人に謎をかける怪物へと発展する。「ひとつの声をもち、四つ足、二つ足、三つ足となるものは?」という有名な謎を解いたのは、ギリシャの王・オイディプスだった。その答えを聞いて、スフィンクスはみずから身を投げて死んだという。

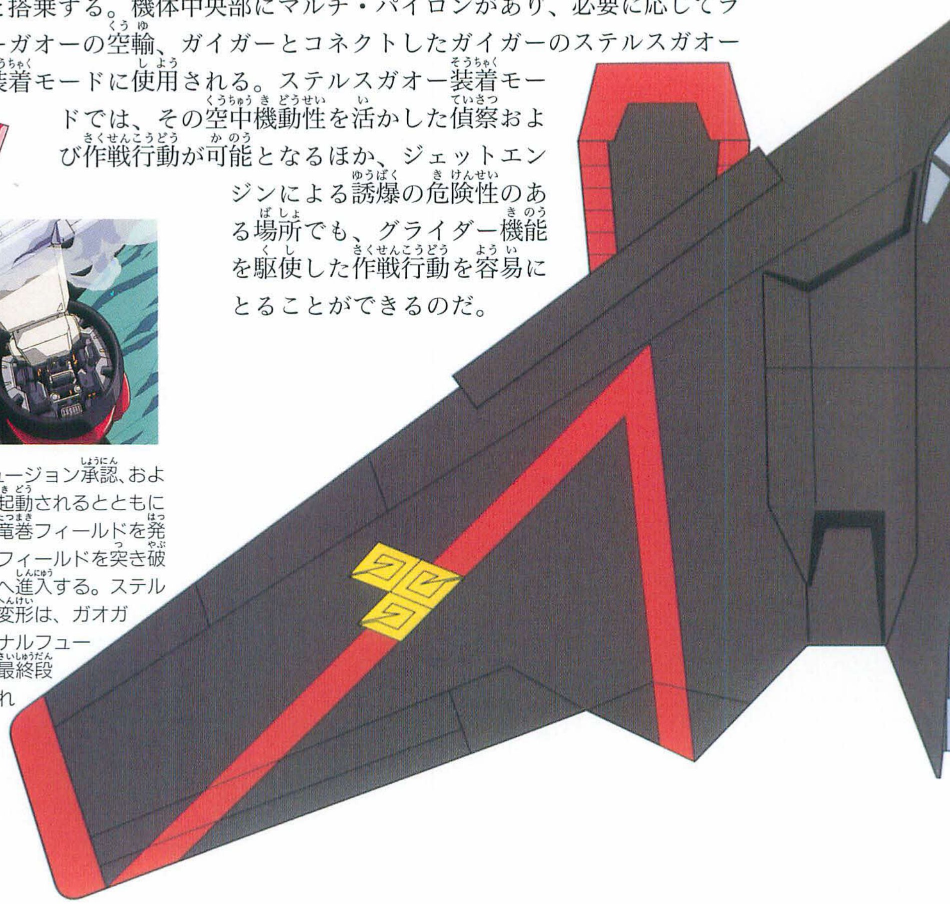


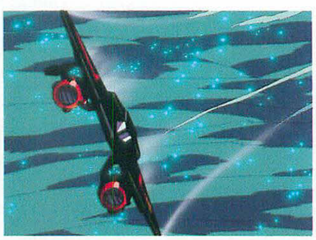
◆ステルスガオー◆

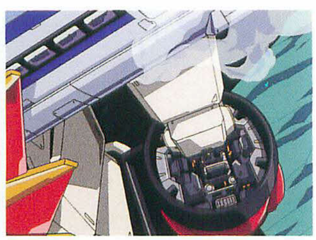


スーパーメカノイド・ガオガイガーの頭部、両腕部、胸部、背面部へと変形するガオーマシーン。ガオガイガー時の背後攻撃に耐えるべく装甲は頑強な構造となっている。ステルス戦闘機に酷似したその形態から推測できるとおり、レーダー電波反射剤を塗布された機体を持ち、レーダーに補足されずに隠密行動をとることが可能だ。主に空中での作戦行動をサポートする。また、凱が敵出現地点へ急行する際に使用することも多い。コクピットが高い位置にあるため、機体下部より伸びる昇降式の操縦席を使ってコクピットへと搭乗する。機体中央部にマルチ・パイロンがあり、必要に応じてライナーガオーの空輸、ガイガーとコネクトしたガイガーのステルスガオー装着モードに使用される。ステルスガオー装着モードでは、その空中機動性を活かした偵察および作戦行動が可能となるほか、ジェットエンジンによる誘爆の危険性のある場所でも、グライダー機能を駆使した作戦行動を容易にとることができるのだ。









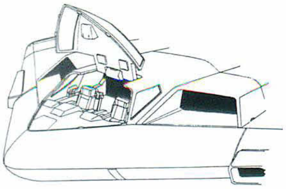


ファイナルフュージョン承認、およびプログラムが起動されるとともにガイガーが電磁竜巻フィールドを発生させる。そのフィールドを突き破りフィールド内へ進入する。ステルスガオーの合体変形は、ガオガイガーのファイナルフュージョンプロセス最終段階にあたる。これは、たとえファイナルフュージョン完了までの時間がわずか1分前後だとしても、合体を阻止するためフィールド内へ侵入しようとする、敵を警戒するためである。ガオーマシンで唯一飛行能力を有し、抜きんでた機動性を誇るステルスガオーでなくては、成し遂げられない重要な任務だ。



見えない爆撃機・ステルス

レーダーは空中を飛ぶ飛行機に、電波を投げかけて、その反射をとらえることによって探知する。ならば、そのレーダー波を吸収したり、反射方向をそらすことによって姿を隠すことができるのではないか。そうした発想から開発が進められたのがステルス技術だ。ステルス性の高い爆撃機として最初アメリカ空軍に採用されたB-1は、それまでのB-52と比較するとレーダーのサイトに映る影は100分の1以下だった。角ばった面を極力すくなくして、翼と胴体のつぎめのないブレンデッドボディーとよばれるスタイルは、さらに進化した。左の写真はB-1の後継機として採用された新型のステルス爆撃機・B-2。この機体は胴体そのものを無くした全翼機スタイルをとっているため、独特のフォルムをしている。（撮影／河森正治）

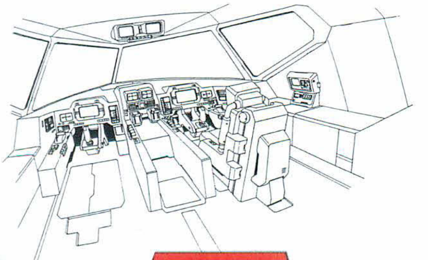


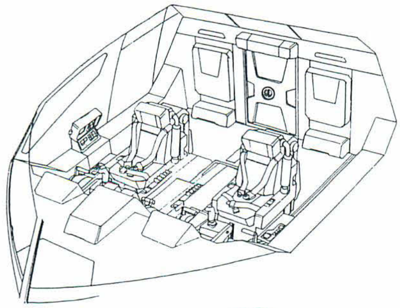
ステルスガオー操縦席

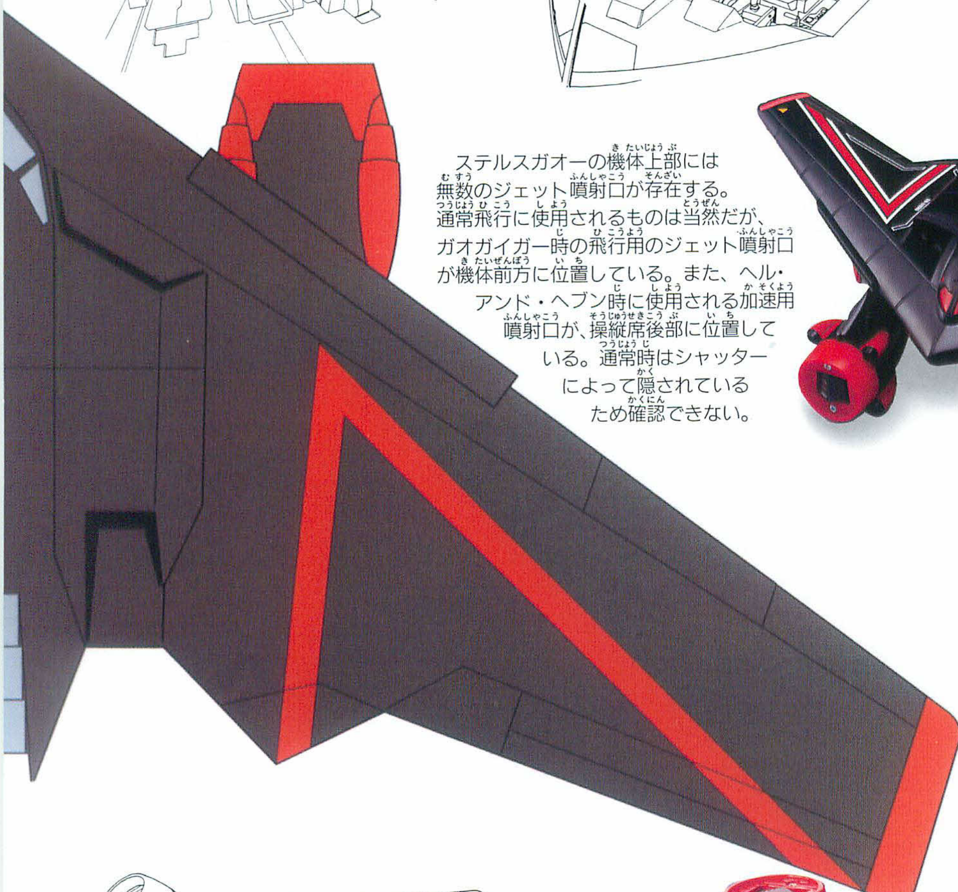
ステルスガオーの収容人員数は2名。GGG基地内の整備倉庫では左図のようにキャノピー部を開き、乗降をおこなうことが可能だ。作戦行動時は操縦席が高い位置にあるため、座席が昇降式になっている。左斜め下図の左側座席位置にある開閉部から、座席を降ろすことで機体下部よりの乗降が可能となる。



ブーメランは、オーストリアの原住民の間で使われた狩猟具だ。「く」の字形の平らな木の棒で獲物に向かって投げ、命中しなければ大きなカーブを描いて手元にもどって来る。「く」の字形の断面の表がもり上がって、裏はくぼんでいる。これは航空機の翼の断面と同じで、表と裏に気圧の差ができて空中でカーブするのだと考えられている。投げるときにタテにもつのがコツでヨコにして投げると、急速に上昇するか下降するだけで手元にもどるほど大きなカーブを描いて飛ぶことはない。





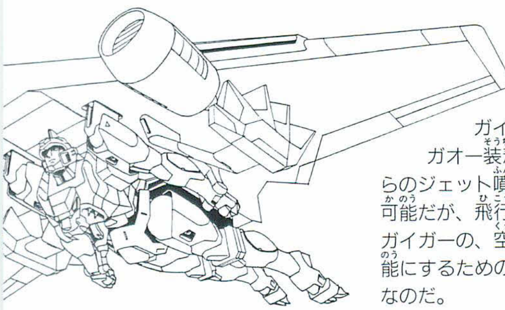


ステルスガオーの機体上部には無数のジェット噴射口が存在する。通常飛行に使用されるものは当然だが、ガオガイガー時の飛行用のジェット噴射口が機体前方に位置している。また、ヘル・アンド・ヘブン時に使用される加速用噴射口が、操縦席後部に位置している。通常時はシャッターによって隠されているため確認できない。

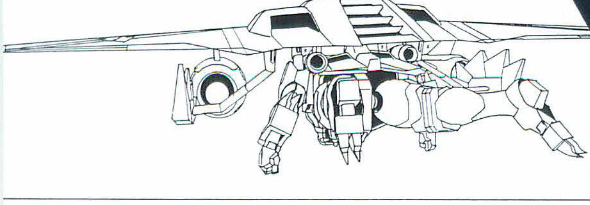


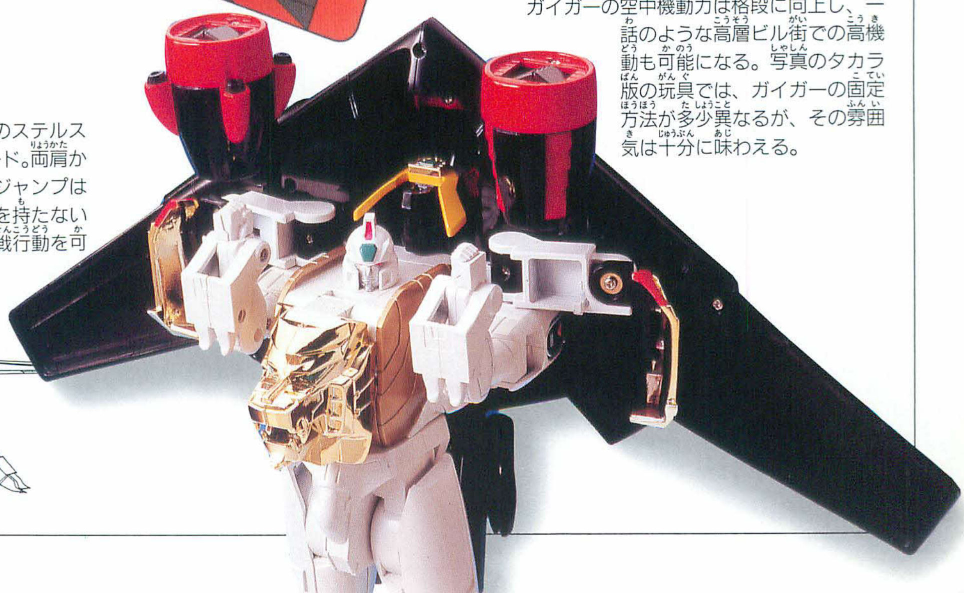
垂直尾翼のない、独特のデザインを再現した、タカラ版ステルスガオー。無尾翼機の構想は第二次大戦中から考えられており、各種実験機が作られていたが、実際に運用にまでこぎつけたのはアメリアのB-2爆撃機が最初のケースといえるだろう。

ギャレオン、ガイガー共に空を飛ぶことは可能だが、ガイガーに変形した場合、最高速度はギャレオン時のマッハ2.5から1.0まで低下する。しかし、ギャレオンの状態ではコントロールが不可能なため、実質的な戦闘はガイとのフュージョン後にガイガーとして参加することがほとんどである。それを補うために考案されたのがガイガーのステルス装着モード。これにより、ガイガーの空中機動力は格段に向上し、一話のような高層ビル街での高機動も可能になる。写真のタカラ版の玩具では、ガイガーの固定方法が多少異なるが、その雰囲気は十分に味わえる。



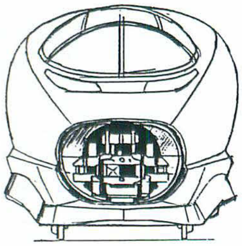
ガイガーのステルスガオー装着モード。両肩からのジェット噴射でジャンプは可能だが、飛行能力を持たないガイガーの、空中作戦行動を可能にするための形態なのだ。



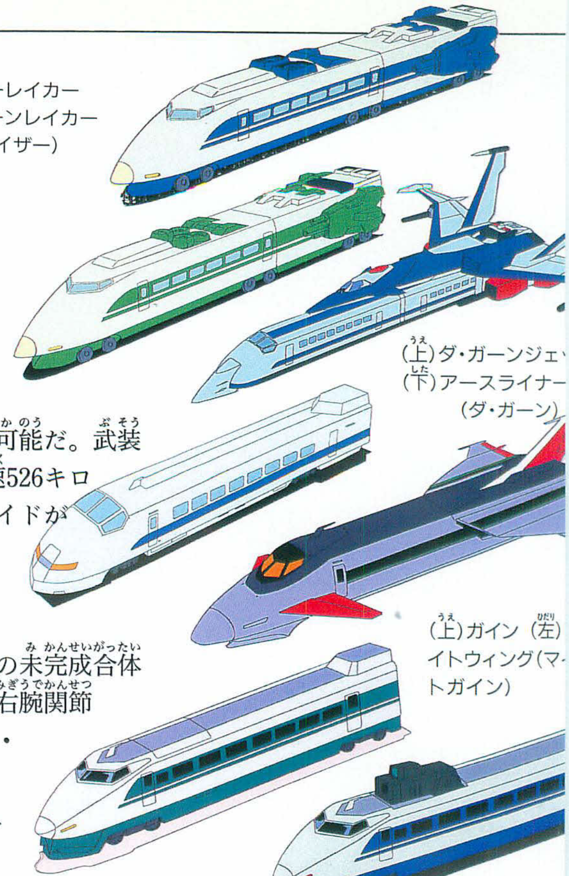


UL-TECH ROBOTS

◆ライナーガオー◆



スーパーメカノイド・ガオガイガーの両肩、両腕上腕部へと変形するガオーマシーン。新幹線500系に似た形状からもわかるように、鉄道軌道上での作戦行動を想定して設計されている。あらゆる鉄道の軌道上で作戦行動がとれるように、台車部分のゲージ幅を変えることができ、どのような幅の鉄道でも走行することが可能だ。武装はないものの最大出力は68,000馬力、最大走行速度時速526キロを誇る。また防御システムとしてステルスガオー、ドリルガオー同様にＧＳライドが派生する未知のＧパワー・バリア・システムを有している。ファイナルフュージョン時には、車体下面からのジェット噴射によるジャンプを利用して、一時的に滑空することで合体する。そのとき超高速での合体変形を余儀なくされるため、ライナーガオー本体にかかる衝撃は想像以上のものがある。初期段階での未完成合体プログラムでは、合体時の衝撃にフリクションダンパーが耐久限界を越えて、右腕関節部が損傷する被害が出ている。ソフトの更新でこれは回避できたが、必殺技ヘル・アンド・ヘブンの衝撃を直接受けるために、やはり破損が絶えない。



(上)ブルーレイカー
(下)グリーンレイカー
(エクスカイザー)

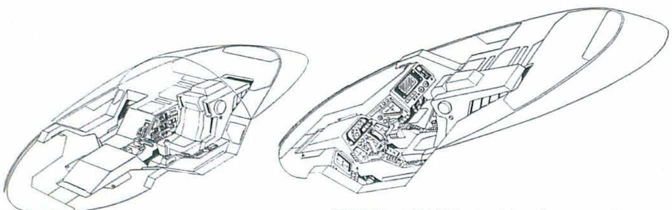
(上)ダ・ガーンジェッ
(下)アースライナー
(ダ・ガーン)

(上)ガイン (左)
イトウィング(マ
トガイン)

ライオボンバー▶

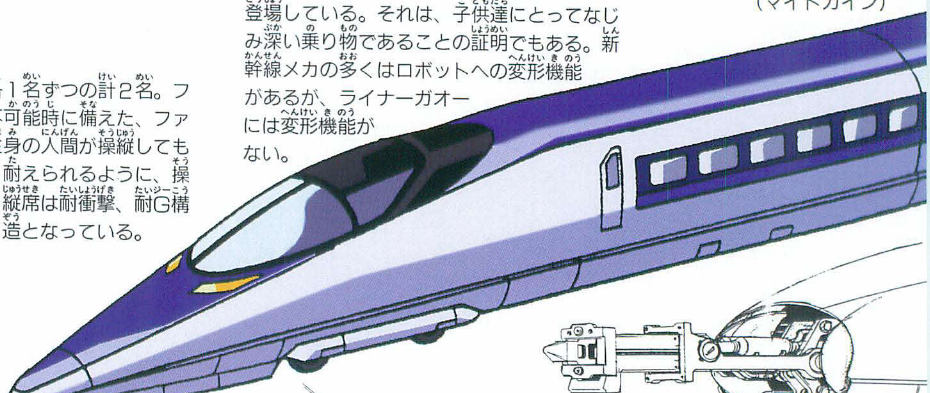
▲ホーンボンバー
(マイトガイン)

「勇者王ガオガイガー」以前の勇者シリーズにおいて、新幹線型のメカというのは数多く登場している。それは、子供達にとってなじみ深い乗り物であることの証明でもある。新幹線メカの多くはロボットへの変形機能があるが、ライナーガオーには変形機能がない。

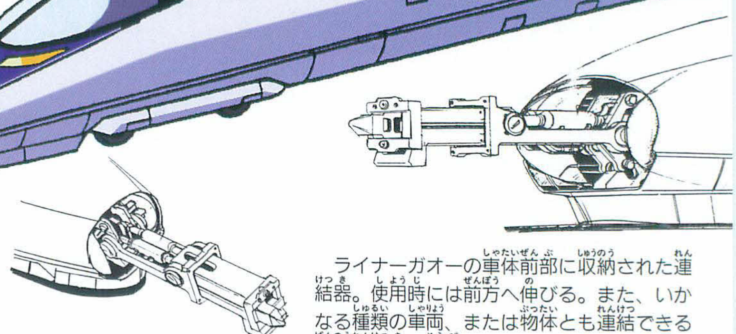


ライナーガオー操縦席。収容人員は各１名ずつの計２名。ファイナルフュージョンプログラム起動不可能時に備えた、ファイナルフュージョン・マニュアル用に生身の人間が操縦しても耐えられるように、操縦席は耐衝撃、耐Ｇ構造となっている。

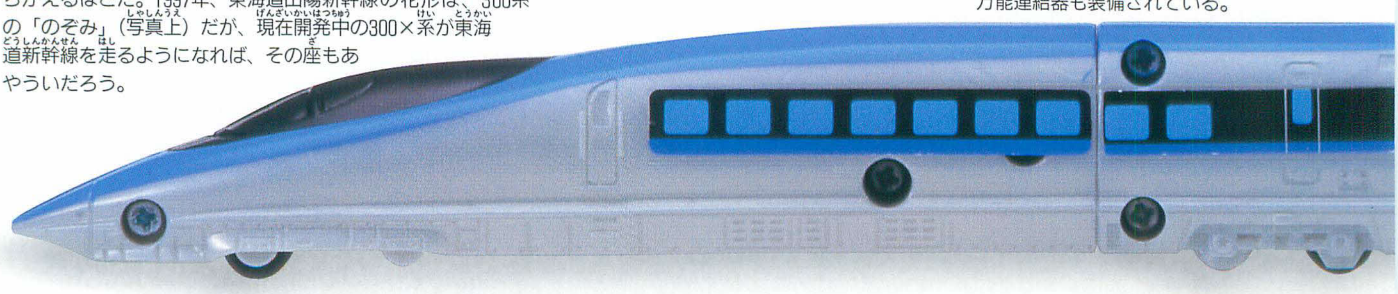


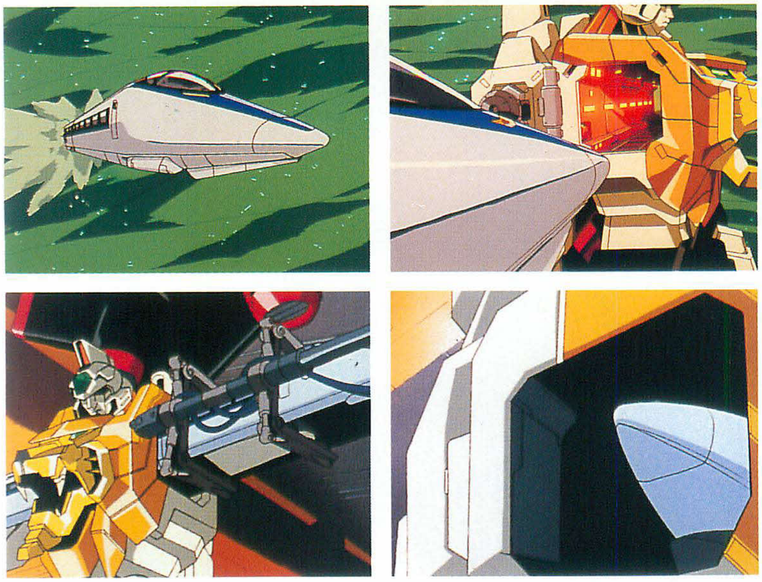


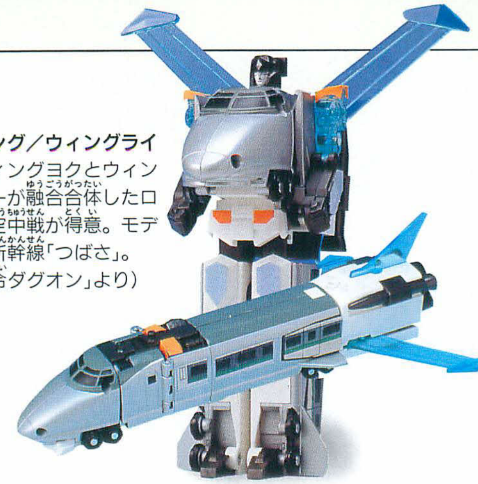
ライナーガオーのモデルになっている新幹線は、現在山陽新幹線で運行している500系と呼ばれるタイプだ。独特の長いノーズと、美しい流線形の車体は、試験用のプロトタイプと見まちがえるほどだ。1997年、東海道山陽新幹線の花形は、300系の「のぞみ」（写真上）だが、現在開発中の300×系が東海道新幹線を走るようになれば、その座もあやういだろう。



ライナーガオーの車体前部に収納された連結器。使用時には前方へ伸びる。また、いかなる種類の車両、または物体とも連結できる万能連結器も装備されている。





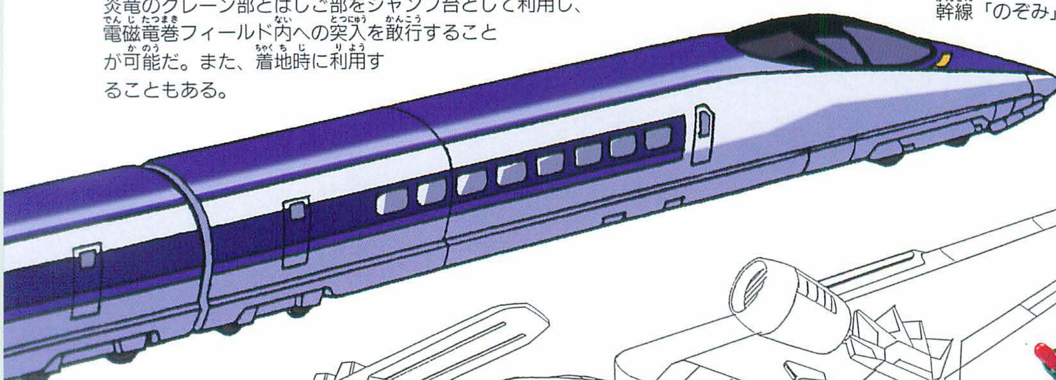


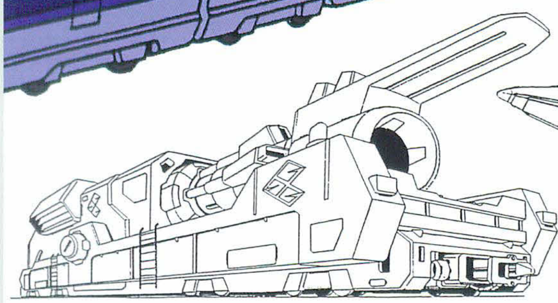
ダグウィング／ウィングライナー　ウィングヨクとウィングライナーが融合合体したロボット。空中戦が得意。モデルは山形新幹線「つばさ」。（「勇者指令ダグオン」より）

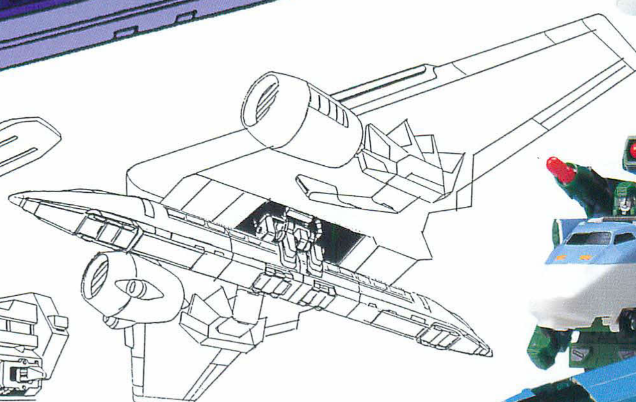


ダグターボ／ターボライナー　ターボカイとターボライナーが融合合体したロボット。地上を高速走行することができる。モデルは東海道山陽新幹線「のぞみ」。

ファイナルフュージョン時にライナーガオーが地理的に不利な位置にあり、ジャンプによる滑空が不可能な場合が想定される。この場合、ビークルマシーンモードの氷竜、炎竜のクレーン部とはしご部をジャンプ台として利用し、電磁竜巻フィールド内への突入を敢行することが可能だ。また、着地時に利用することもある。





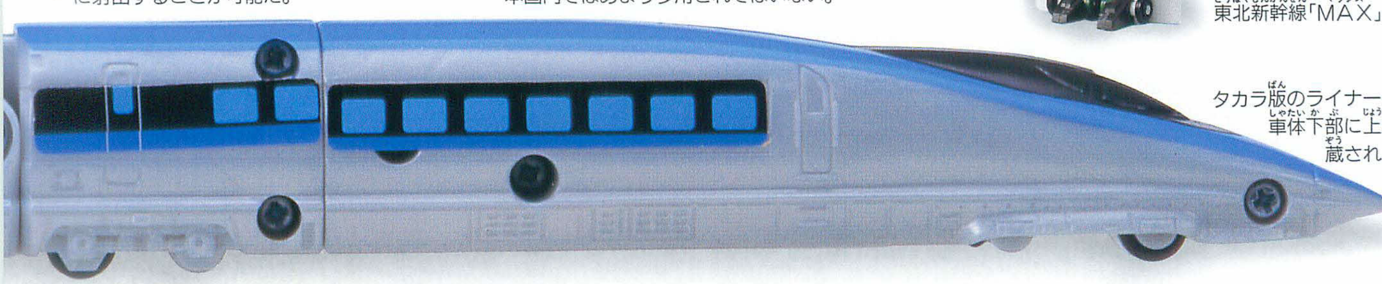


ライナーガオーの間に連結し、ディバイディングドライバーを迅速かつ、敵ゾンダーに探知されないように輸送するための専用車両。爆裂射出カタパルトを使用して、軌道上からディバイディングドライバーを、ガオガイガーに射出することが可能だ。

付近に鉄道が存在しない作戦行動ポイントへの移動方法として、ステルスガオーのマルチパイロン部にライナーガオーを装着し、目的地点まで輸送する方法がある。日本国内ではあまり多用されてはいない。



ダグアーマー／アーマーライナー　アーマーシンとアーマーライナーが融合合体したロボ。ミサイルやビーム砲などによる攻撃が得意。モデルは東北新幹線「MAX」。

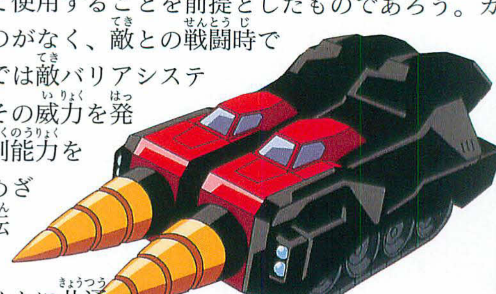


タカラ版のライナーガオー。車体下部に上腕部が内蔵されている。



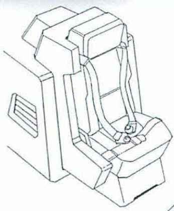
◆ドリルガオー◆

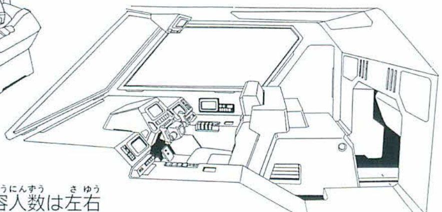
スーパーメカノイド・ガオガイガーの左右脚部へと変形する戦車形ガオーマシン。通常形態時でも左右への分離は可能だが、分離しては行動不能に陥ってしまう。なぜなら無限軌道であるキャタピラは単体ではその効果を発揮することはできない。キャタピラは一対でなくては本来の機動力を引き出せないのだ。ドリルガオーに付加された分離システムは、単体での作戦行動用ではなく、ガイガーの武装として使用することを前提としたものであろう。ガイガーはガイガークローしか武装といえるものがなく、敵との戦闘時では決定打にかけるからだ。ドリルガオー単体では敵バリアシステムの破壊などといった強行潜入、強行突破でその威力を発揮する。また先端の2対のドリルを用いた掘削能力を駆使した、地下災害時の人員救出においてもめざましい成果をあげる。2対のドリルは高速回転することで、敵レーザー兵器の威力を相殺することも可能だ。これはGSライド搭載の機動メカに共通のGパワー・バリア・システムによる作用と考えられる。

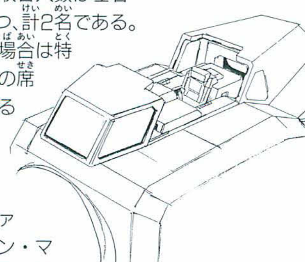




ガオーマシーンのなかでも298トンと、最重量をほこるのがドリルガオーであるが、合体完了時に脚部を構成すると考えれば納得のいく重量だ。







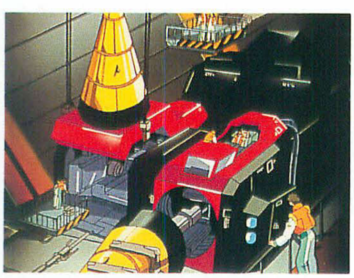
ドリルガオー操縦席

ドリルガオーの収容人数は左右の操縦席に1名ずつ、計2名である。マニュアル操縦の場合は特に左右、どちらかの席に優先操縦権があるわけではない。ドリルガオーも他のガオーマシン同様に、ファイナルフュージョン・マニュアルに対応している。

鋼鉄の猛虎・戦車

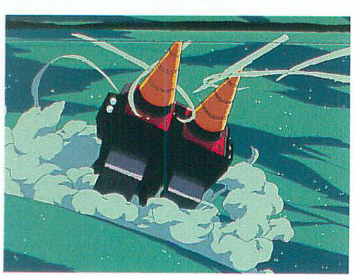
第一次世界大戦(1914〜1919)のヨーロッパの荒野に、おそるべき鋼鉄の虎が群れをなして出現した。キャタピラの音をひびかせて、砲弾が掘り起こした荒れた大地を、事もなげに進軍する機械の群れ。それが戦車の登場だった。イギリス軍が戦線に投入した戦車MK-1は、それまで突破の手がかりすらなかった敵の鉄条網を踏みつぶし、塹壕をやすやすと乗り越えて進軍を続けた。この怪物の産みの親ともいうべき人物は、当時海軍大臣の職にあった後のイギリス首相・ウィンストン・チャーチルだった。このとき、イギリスの戦車によって敗走させられたドイツは、その有効性に着目して開発を開始。20年後のドイツ陸軍は強力な機甲師団を持つことになる。写真の戦車は、第二次大戦後の東西冷戦下、西ドイツで開発されたレオパルドII戦車。



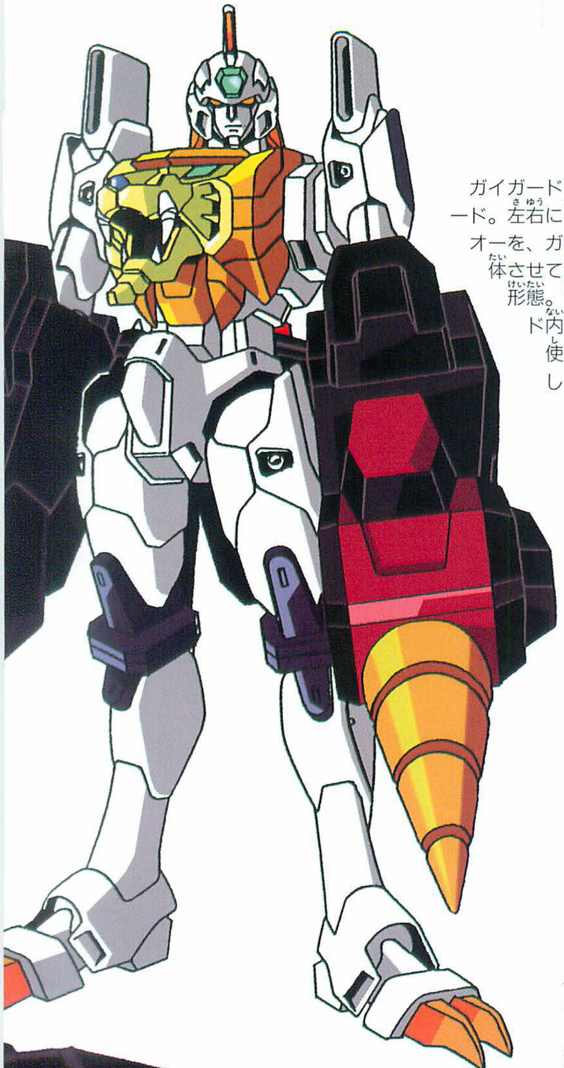


ファイナルフュージョンプログラム起動と同時に、地面を疾走して電磁竜巻フィールドへと突入。左右に分離して脚部へと変形を遂げる。未完成時の合体プログラム時に、合体失敗が多発した個所である。マニュアル合体では成功確率が、猿頭寺のサポートを受けても60%と低かったため、ガイガー脚部収納タイミングが合わずに、失敗を繰り返している。

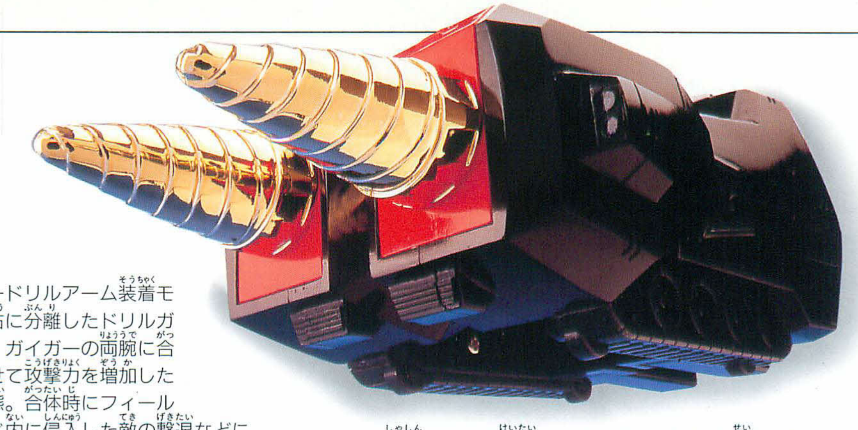








ガイガードリルアーム装着モード。左右に分離したドリルガオーを、ガイガーの両腕に合体させて攻撃力を増加した形態。合体時にフィールド内に侵入した敵の撃退などに使用される。片腕ずつを射出しての、目標撃破も可能だ。



写真はタンク形態のドリルガオー(タカラ製)。やはりロボットものにドリルとキャタピラは欠かせない。だが、実際には地中を行動する作戦というのはあまりなく、本来の機能である地下での作戦行動というよりは、ドリルを攻撃的な武器として使う事が多いようだ。

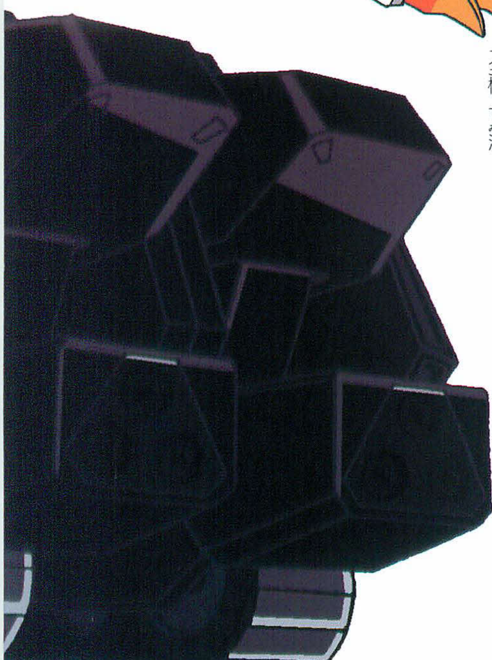


キャタピラの超性能

鋼板を連続して、ふたつの車輪にベルト状に掛けた無限軌道をキャタピラと呼ぶ。本来、「芋虫」という意味で、現在は商品名になっている。日本語では「無限軌道」と表記するが、まさに軌道=線路を敷きながら進む方式で、その意味では列車と同じに見ることができる。地面に接する面積も自動車の車輪にくらべると大きく、その分摩擦も大きいため、ぬかるみやデコボコの多い不整地を進むのに適している。また、左右のキャタピラの動きをそれぞれ前後逆にすれば、その場で方向転換が可能。これを超信地旋回と呼ぶ。

ドリルは穴を開ける工具だが、その用途は様々だ。海底トンネルを掘る大型掘削機のドリルから、このようなピンバイスまで様々な種類と大きさがそろっている。一般に「ドリル」と呼ばれるものは回転運動、さらに軸方向への送り運動をともなう「ツイストドリル」である。ドリルの基本的な構造は、対称な歯を持ち、切りくずを排出させるためのねじれ溝の二つである。







タカラ版 ガイガードリル装着モード

本来脚につけるべきパーツが腕についているため、多少アンバランスな印象があるが、その攻撃的なフォルムは敵を圧倒するものがある。作品中では、ガオガイガーへとファイナルフュージョンを果たす前段階での攻撃方法として位置づけられているようだ。このように、ガイガーを中核としてさまざまなバリエーションがひとつのセットで楽しめる例は最近の玩具では珍しい。しかも変形機構はアニメの設定と同様である。

UL-TECH ROBOTS

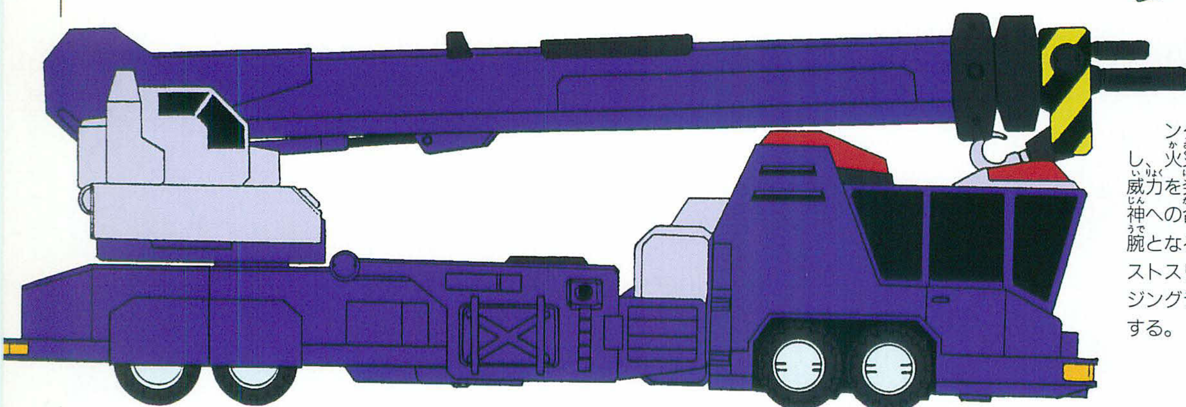
◆氷竜◆

GGG研究開発部が半年の歳月を費やして開発した自己判断能力を有するAIを搭載している。救助および支援を主目的とするビークルマシーン。冷却系の兵器を主武器とする。性格は沈着冷静で、情報分析に優れている。システムチェンジによってロボット形態とクレーン形態へと変形する。同一規格、同一形式のAIを搭載する炎竜とシンメトリカルドッキングすることで、超竜神へと合体変形が可能だ。利き腕は右腕。炎竜と逆である。





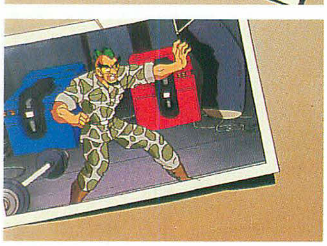
写真の超竜神は、現在発売されているタカラのガオガイガーグッズの中で、最も完成度が高いものの一つである。

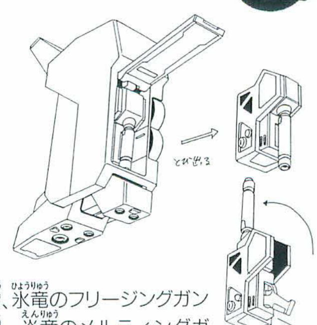


ロボット形態時に氷竜が使用するフリージングガン。冷却弾を発射し、火災の鎮火などで威力を発揮する。超竜神への合体変形時に右腕となる。ほかにチェストスリラー、フリージングライフルを装備する。

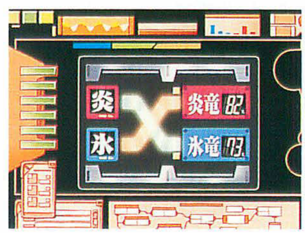




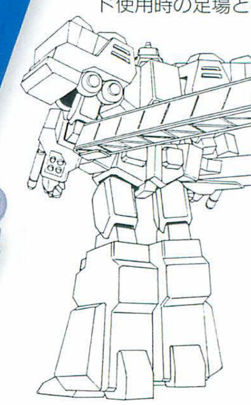




通常、氷竜のフリージングガンは右脚、炎竜のメルティングガンは左脚内部の格納ボックス内に収められている。



氷竜と炎竜のシンパレイト=同調値が90%以上に達しないと2体はシンメトリカルドッキングして超竜神への合体変形はおこなえない。合体には長官の承認が必要だ。

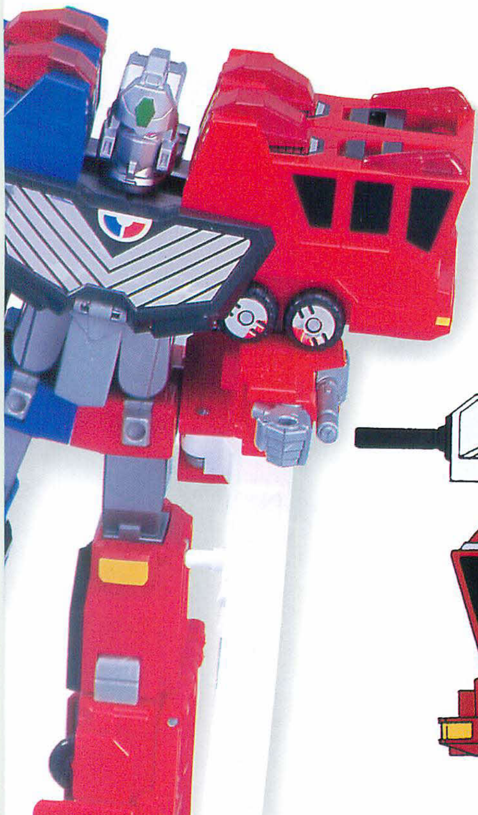


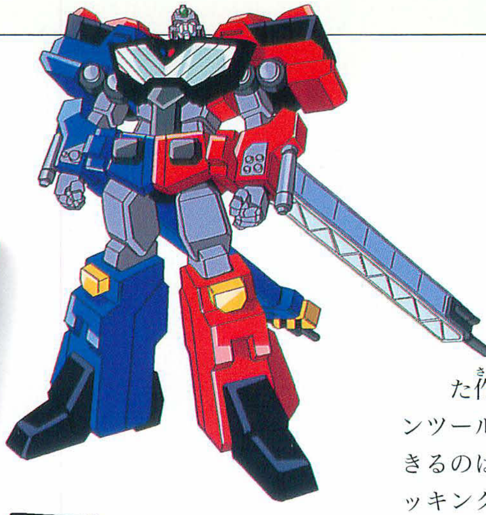
超竜神の背面。氷竜と炎竜のクレーンとハシゴ部分が腰から後方伸びてる。これはイレイザーヘッド使用時の足場となる。

クレーンは、日本語で起重機ともいう。土木建築用の機械としては、もっとも古くから利用されていたもののひとつ。その起源をたどると、5000年前の古代エジプトのピラミッド建築までさかのぼることができる。右の写真は高層ビル建築用の巨大なタワークレーン。



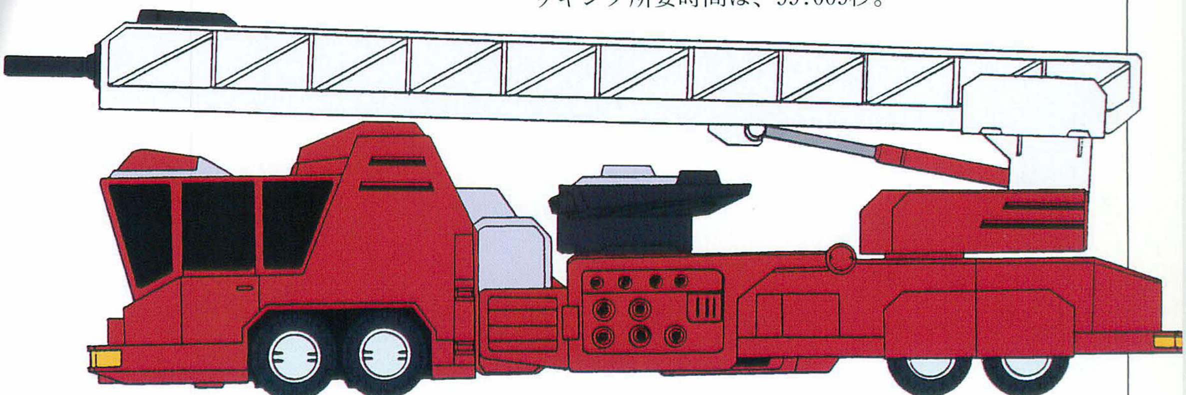
GGGの開発した氷竜と炎竜のAIは、起動後に6ヶ月という長い期間をかけて、さまざまな学習を行い完成させた。自己判断能力を持ち、人間と同じような感情も有する氷竜と炎竜は、ハイパーツールのプライヤーズやゴルディーマーグのようなマルチロボとは一線を画す存在なのだ。



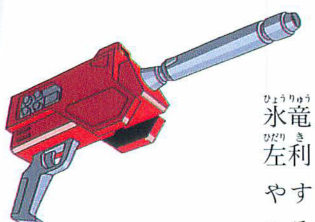


◆超竜神◆

氷竜と炎竜がシンメトリカルドッキングすることにより完成するビークルロボ。攻撃を主任務とするガオガイガーに対し、超竜神は主に救助や援護を念頭に置いた作戦行動をとる。かなりの重量を持つメガトンツール・イレイザーヘッドを使いこなすことができるのは唯一、超竜神だけだ。シンメトリカル・ドッキング所要時間は、99.009秒。



◆炎竜◆





炎熱系の兵器を主武器とするビークルマシン。氷竜と同一規格、同一形式のＡＩを搭載しているが、左利きで性格は正反対の情熱家であり、頭に血が昇りやすい。胸から熱波を出すチェストウォーマー、メルティングガンと敵のエネルギーを吸収後、増幅して反射するミラーシールドがある。システムチェンジにより、ロボット形態とはしご車に変形する。氷竜と合体変形して超竜神となる。

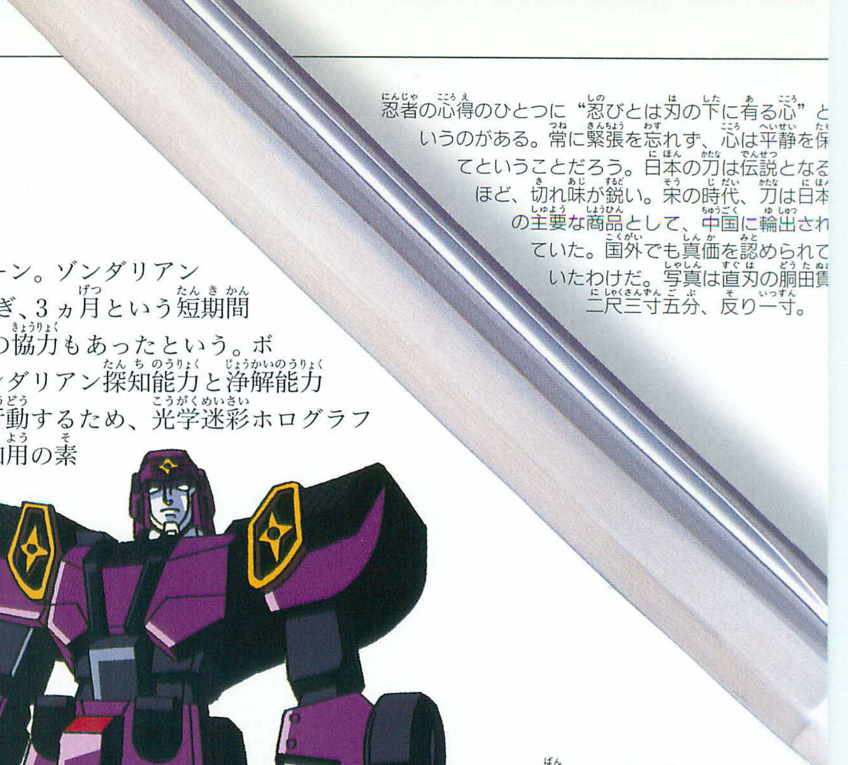
ロボット形態時に炎竜が携行する高熱弾発射銃メルティングガン。超竜神への変形時に左腕となる。ほかにハシゴを利用したメルティングライフルがある。



マッチ１本……日本で使用が許可されているのは、安全マッチと呼ばれるタイプのもの。軸木についた塩素酸カリウムと硫黄を、赤リンを主成分にした箱の側面にこすりつけて発火させる。安全マッチとはいえ、使い方をあやまれば火事になることある。くれぐれも火の用心を。

はしご付き消防ポンプ車は、高層建築物の消火と人命救助に対処するために作られた特殊車両だ。起伏、伸縮、旋回ができる構造のはしごの先には、強力な放水銃が装備されており、通常のビルであれば、すべての階に放水が届く。だが、現代都市のビル超高層化によって、30メートルほどのはしごでは対応しきれなくなっているのが現状だという。



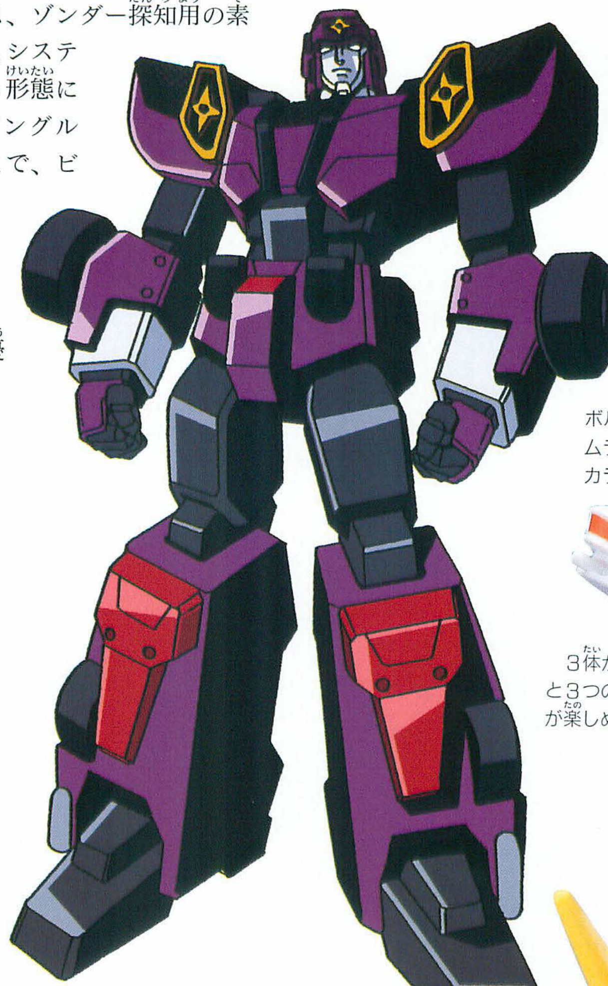


忍者の心得のひとつに"忍びとは刃の下に有る心"というのがある。常に緊張を忘れず、心は平静を保てということだろう。日本の刀は伝説となるほど、切れ味が鋭い。宋の時代、刀は日本の主要な商品として、中国に輸出されていた。国外でも真価を認められていたわけだ。写真は直刃の胴田貫二尺三寸五分、反り一寸。

◆ボルフォッグ◆

GGG諜報部所属、諜報部隊長でもあるビークルマシーン。ゾンダリアンの攻撃の激化を予想したGGGがAIシステムの完成を急ぎ、3ヵ月という短期間でAIの育成がおこなわれた。AI育成には政府調査機関の協力もあったという。ボルフォッグの主な任務は、偵察、情報収集分析や、ゾンダリアン探知能力と浄解能力をもつ天海護少年の警護にあたる。隠密行動を中心に行動するため、光学迷彩ホログラフィック・カモフラージュ、フォッグガス、ゾンダー探知用の素粒子ZOセンサーなどが搭載されている。システムチェンジで、パトカー形態とロボット形態に変形が可能。GGGガンマシンであるガングルー、ガンドーベルと三身一体化することで、ビッグボルフォッグへと合体変形する。

攻撃武器として、ミラーコーティングを施した手裏剣シルバームーンとシルバークロスを持つ。強力な武装は情報収集後の帰投が最優先任務だからなのだ。



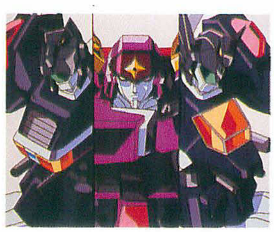




時代劇などでおなじみの手裏剣は、古来暗殺具のひとつとして代表的なもの。隠密行動が必須だった忍者にとってはかさばらず、攻撃の際に音がしないため愛用された。手裏剣は大別すると板状と棒状のふたつに分けられ、時に五寸釘などが代用品として使われることもあったという。実際には、時代劇のような手裏剣の連続打ちは不可能。



日本では、古来、狼を神の使者として祀る風習があり狼そのものを神とする神社も数多くあった。狼は平地から山地、ツンドラ、砂漠など地球上のあらゆる場所に生息していた動物で、古くから家畜以外では人間ともっともなじみ深い動物だった。世界各地に狼が登場する民話も数多い。



ガングルー、ガンドーベルの2台のGGGガンマシンを、サイレンによるコールサインで招集し、「三身一体!」の掛け声とともにビッグボルフォッグへ合体変形を開始する。ガングルーは左腕、ガンドーベルは右腕となる。

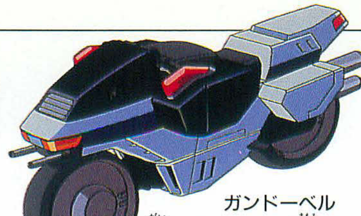


タカラ版ビッグボルフォッグ。カングルー、ガンドーベルを両腕に装着し、脚を展開することでビッグボルフォッグへと変形する。シルバークロス、ムラサメソード、ジェットワッパー、アイアンカラーといったオプションパーツも豊富に付いている。

3体が合体すると3つのサウンドが楽しめる。



忍者の起源は、聖徳太子が使った志能便だといわれている。その後、奈良時代中期に中国の兵法書「孫子」が伝えられ、スパイとゲリラ戦法が理論的に理解され、忍者の訓練にいかされるようになった。写真は上から忍者頭巾、上衣、忍者袴の簡単な見本。袴の各所のヒモは、バタつかないように足にしばりつけるためのもの。色は黒よりも、暗い青か灰色の方が暗い中では目立たない。



ガンドーベル

凱がパトロールや護の送り迎え時に常用するガンマシン。ボルフォッグの指令によってガンロボ形態へシステムチェンジする。胸部の2門の機関砲、敵の動きを封じる巨大な首輪アイアンカラーなどの武器を装備。



ドーベルマンはドイツ原産の作業犬で、この犬種を作り出したルイス・ドーベルマンから名前をとっている。短毛でスマートな体型、かむ力も強く、警察犬や軍用犬などとして飼われてきた。尾は子犬のときに2センチの長さに切り、耳も短く切断してしまうため、いっそう鋭い風貌となる。



ワシは、その雄姿と力強い飛翔力から鳥の王者とされ、世界中で広く信仰や崇拝の対象となっている。古代ギリシアではゼウス神が姿を変えた聖鳥であり、神聖ローマ帝国の双頭のワシなど、紋章や軍旗にも多くその姿が用いられている。



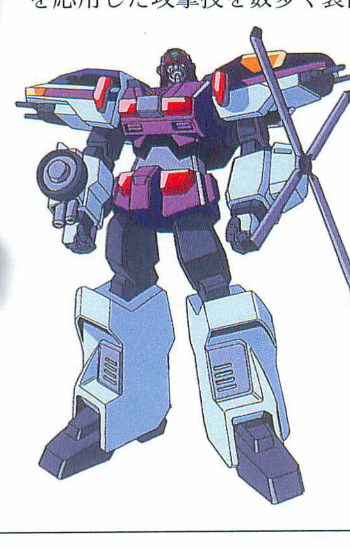
ガングルー

火麻激参謀がパトロールや移動で乗用するガンマシン。変形してガンロボ形態となる。ガンドーベルと同じくＡＩを搭載する。イーグルガンを装備。



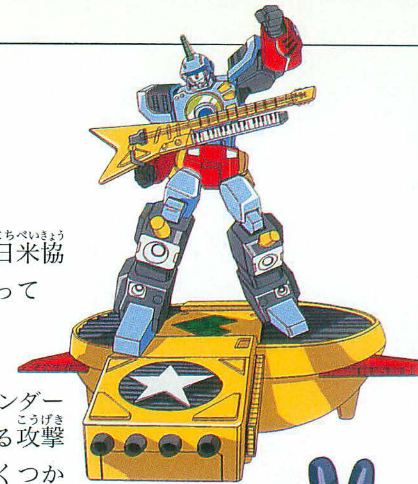
◆ビッグボルフォッグ◆

ボルフォッグが招集したガンマシンと三身一体化し、合体変形した姿。右腕の4000マグナム、左腕のムラサメソード、敵バリアシステムを破壊するメルティング・サイレン、必殺！　大回転魔弾など、ミラーコーティングを応用した攻撃技を数多く装備している。

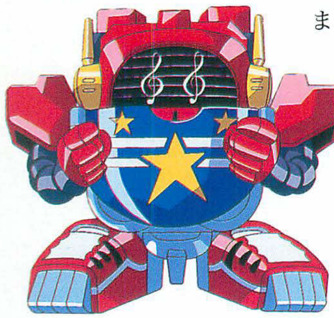


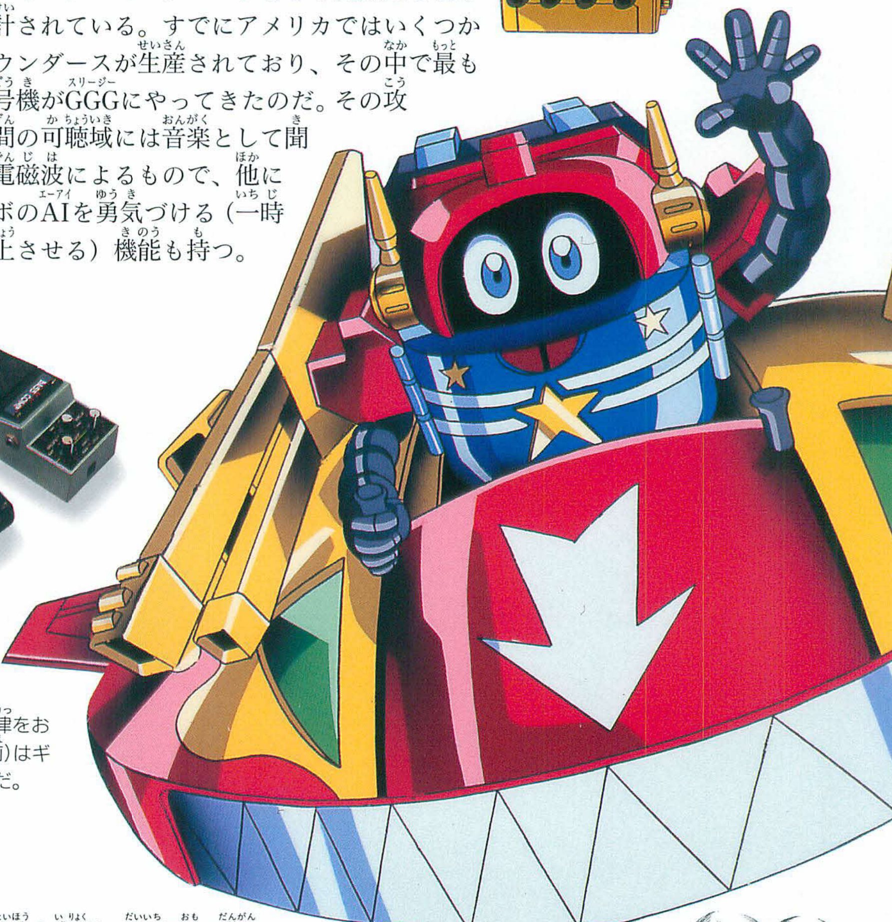
UL-TECH ROBOTS

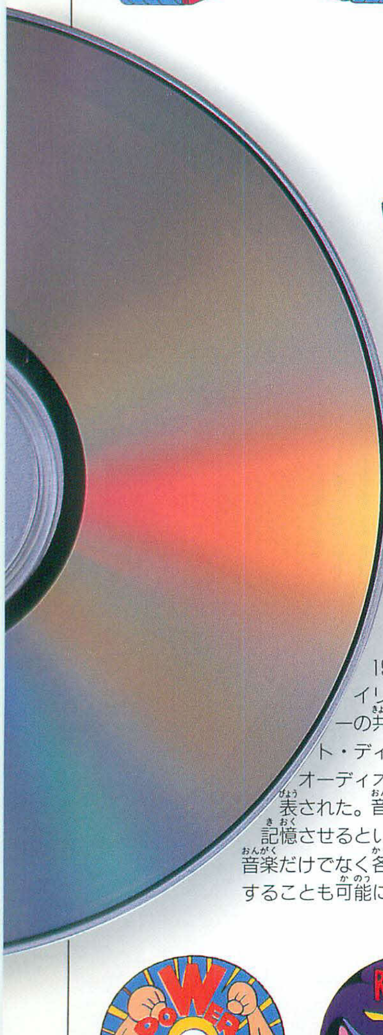
◆マイクサウンダース◆

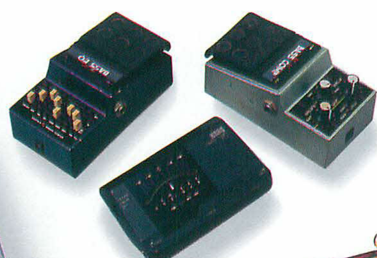


プライヤーズと同様、獅子王雷牙博士によって作られたアメリカ製のコスモロボ。日米協定によってGSライドと交換に引き渡された。通常はひょうきんなコスモロボ形態をとっているが、プロテクトを外すとブームロボ形態へとシステムチェンジする。外見からはそう見えないが、ガオガイガーをはじめとする勇者ロボやビークルマシンがあくまで防衛主体で攻撃兵器を持たないのに比べ、マイク・サウンダースは迎撃用の“インターセプター”すなわち純然たる攻撃兵器として設計されている。すでにアメリカではいくつかのマイク・サウンダースが生産されており、その中で最も性能が良い13号機がGGGにやってきたのだ。その攻撃方法は、人間の可聴域には音楽として聞こえる特殊な電磁波によるもので、他にも他の勇者ロボのAIを勇気づける（一時的に性能を向上させる）機能も持つ。



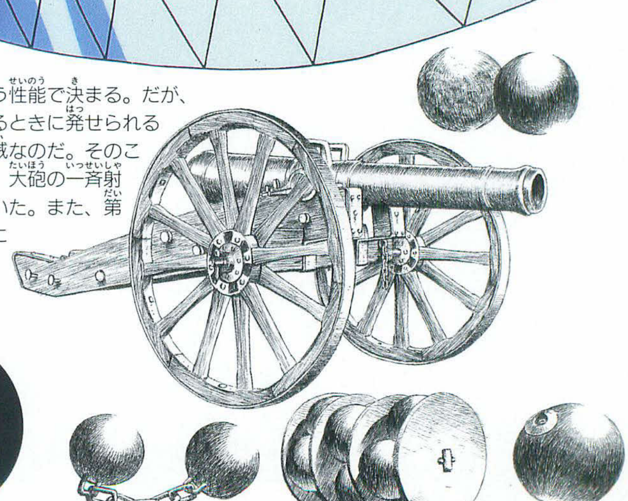






エレキギターの音色を変えたり、出力を調節するイコライザー類や（上写真奥）、簡単に調律をおこなう調律機（上写真手前）はギタリストの必携アイテムだ。

1980年、英国、フィリップス社とソニーの共同で“コンパクト・ディスク・デジタル・オーディオ”システムが発表された。音楽をデジタルで記憶させるという新しい試みは、音楽だけでなく各種データを記録することも可能にした。



大砲の威力は、第一に重い弾丸をどれだけ遠くへ飛ばせるかという性能で決まる。だが、それだけではない。弾丸を発射するときに発せられる爆音も、敵にとっては大いなる脅威なのだ。そのことをよく知っていたナポレオンは、大砲の一斉射撃を戦術のひとつとして利用していた。また、第一次世界大戦の塹壕戦では、砲声による神経症が大きな問題となった。





ディスクP（パワーを与える）やディスクM（敵を幻惑する）、さらに右のディスクX（不明）など各種のCDを使い、機能を変えることができる。

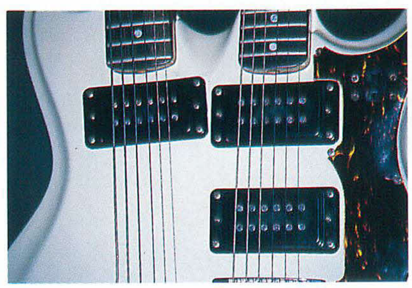


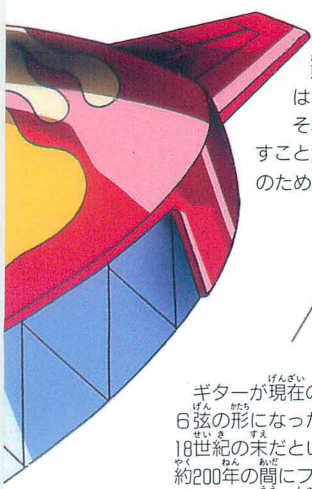


日本初のダブルネック・ギター

2種類の弦の音が出せるダブルネック・ギターは、1960年代に登場した。当時、日本にはアメリカ、モズライト社製のものが最新型としてパンフレットに紹介されていただけだった。右の写真のギターは、それを参考に製作された国産のエルク社製で、モズライト社製と差別化をはかるため、2本のネックの取りつけ角度がややひらき気味に作られている。左側のネックはテナーギター、右側のネックは通常のギター弦が張られている。このギターは国産ダブルネック・ギターのプロトタイプともいうべきモデルで、注文生産で1本だけ作られたオリジナル品だ。値段は当時の価格で12万円。サラリーマンの平均月収の4～5倍もしたという。ミュージカルボーイズというバンドのメンバーからの注文品で、日本で最初にステージ上で演奏されたダブルネックでもあり、超プレミアの逸品といえる。(撮影協力／和光)



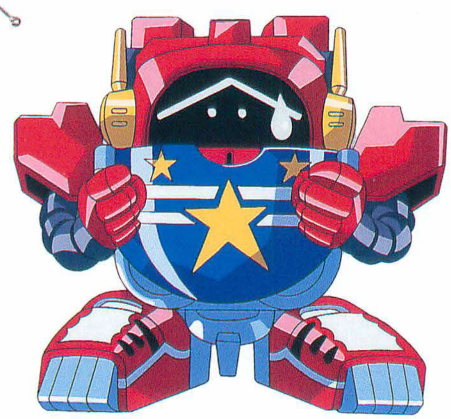


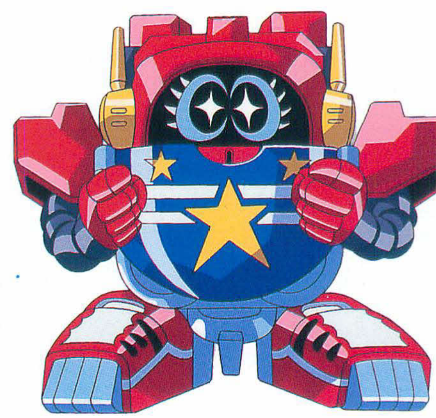


タカラ製バリバリーンが反転してスタジオ7（立っているステージ）になった状態。スタジオ7の全面には4つのスイッチがあり、それぞれ別々の効果音を出すことができる。まさにマイクのためのひのき舞台だ。



ギターが現在の6弦の形になったのは18世紀の末だといわれている。それから約200年の間にフレットが増え、音域が広くなった。上の写真は、スチール弦の6番とピック。同じスチール弦でも、硬いものと軟らかいものがあり、演奏者は曲調と好みによって使いわけることがある。





GGGのビークルロボの特殊ラバーで覆われた顔と違って、モニター状の顔を持つマイク・サウンダース13世は、表情が豊か。英単語の表示も可能だ。

アニメのフォルムをほぼ忠実に再現した、タカラ版のマイク・サウンダーズ13世。ガオガイガーに代表される「勇者系」デザインの中にあって、その漫画的・玩具的なデザインはかなり異色の存在だ。玩具版では、下部にある車輪により走らせることが可能。

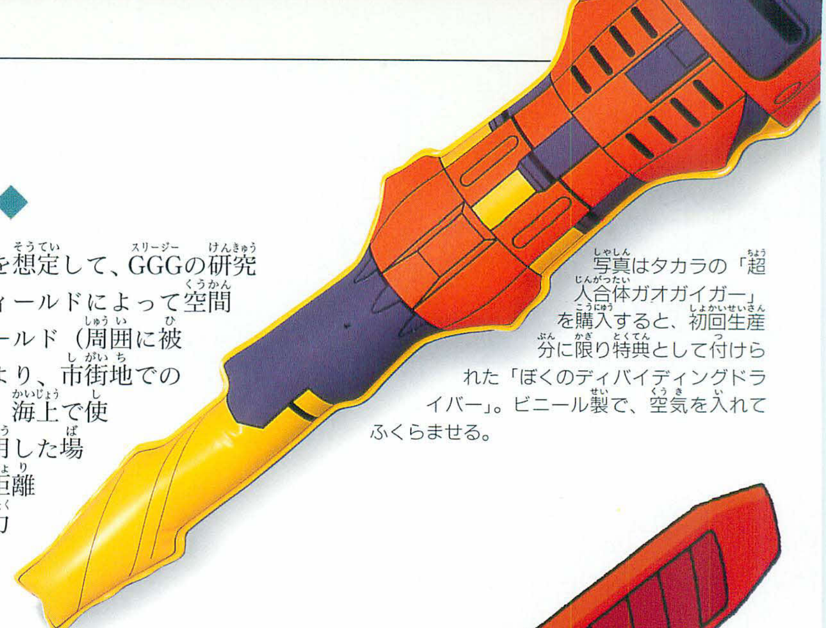


マイクは、内蔵されている薄い金属板が音によって振動したものを、アタッチメントで感知して電気信号に変換してアンプに送る。つまり、金属板が上下に振れる幅の大小で音の大きさが決まり、1秒間に振れる回数で音の高低が決まるのだ。ということは、逆にアタッチメントにある電圧と電流を送りこめば、マイクからは、その電気信号に応じた音が出てくる。逆もまた真というわけだ。

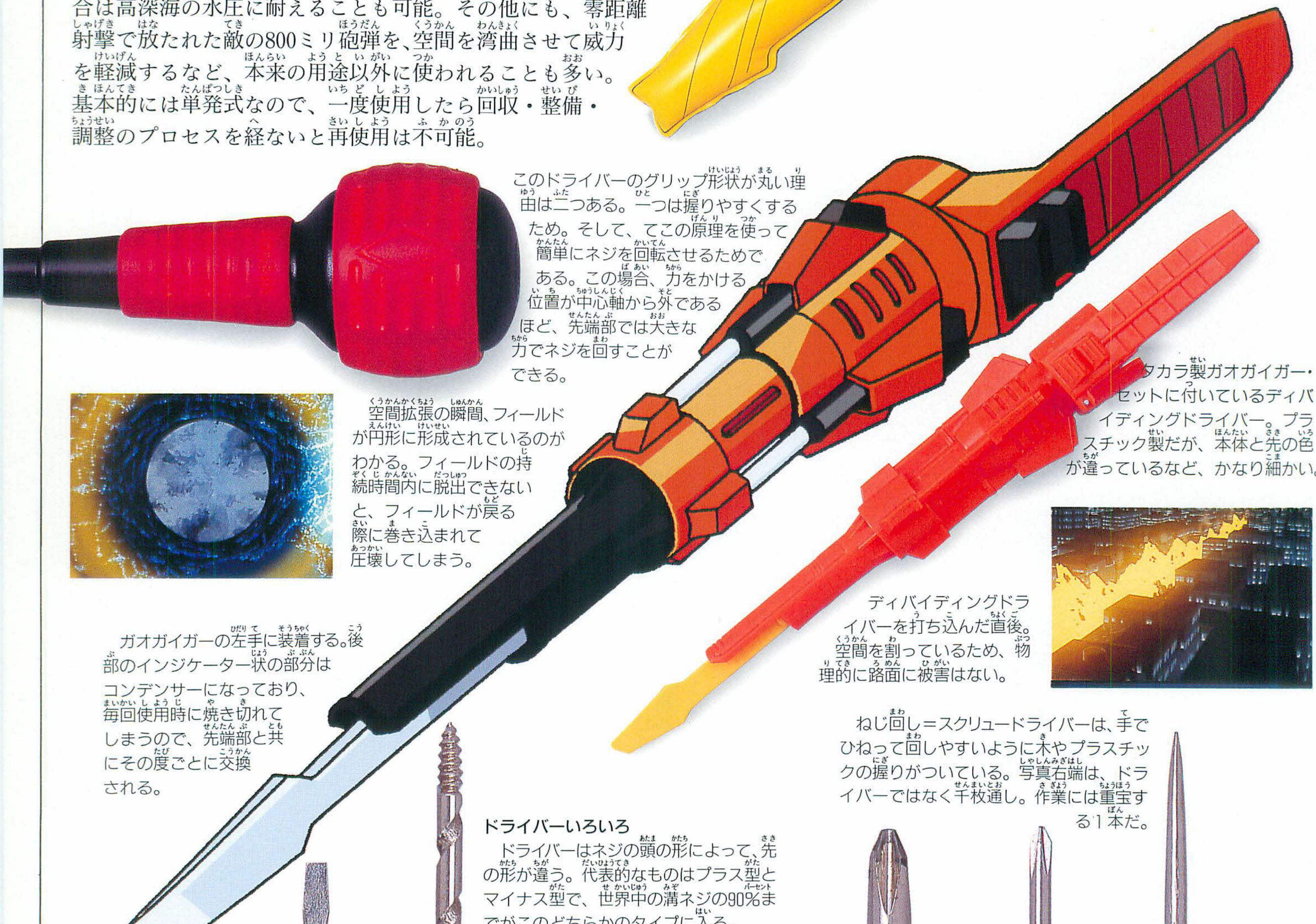


◆ディバイディングドライバー◆

対ゾンダー戦が市街地や人口密集地で行われるケースを想定して、GGGの研究開発部が作り上げた空間拡張ツール。アレスティングフィールドによって空間を湾曲・圧縮させることで、数十分にわたって戦闘フィールド（周囲に被害が伝わらない空間）を形成することができる。これにより、市街地での戦闘からくる被害は最小限に抑えることが可能になった。海上で使用した場合は海を割ってフィールドを形成し、水中で使用した場合は高深海の水圧に耐えることも可能。その他にも、零距離射撃で放たれた敵の800ミリ砲弾を、空間を湾曲させて威力を軽減するなど、本来の用途以外に使われることも多い。基本的には単発式なので、一度使用したら回収・整備・調整のプロセスを経ないと再使用は不可能。



写真はタカラの「超人合体ガオガイガー」を購入すると、初回生産分に限り特典として付けられた「ぼくのディバイディングドライバー」。ビニール製で、空気を入れてふくらませる。



このドライバーのグリップ形状が丸い理由は二つある。一つは握りやすくするため。そして、てこの原理を使って簡単にネジを回転させるためである。この場合、力をかける位置が中心軸から外であるほど、先端部では大きな力でネジを回すことができる。

ガオガイガーの左手に装着する。後部のインジケーター状の部分はコンデンサーになっており、毎回使用時に焼き切れてしまうので、先端部と共にその度ごとに交換される。

タカラ製ガオガイガー・セットに付いているディバイディングドライバー。プラスチック製だが、本体と先の色が違っているなど、かなり細かい。

空間拡張の瞬間、フィールドが円形に形成されているのがわかる。フィールドの持続時間内に脱出できないと、フィールドが戻る際に巻き込まれて圧壊してしまう。

ディバイディングドライバーを打ち込んだ直後。空間を割っているため、物理的に路面に被害はない。

ドライバーいろいろ

ドライバーはネジの頭の形によって、先の形が違う。代表的なものはプラス型とマイナス型で、世界中の溝ネジの90％までがこのどちらかのタイプに入る。





ネジの中にはドライバーでもレンチでも回せるタイプもある。



ごく小さなネジを回すためのスモール・ドライバー。メガネ用に使える。



ねじ回し＝スクリュードライバーは、手でひねって回しやすいように木やプラスチックの握りがついている。写真右端は、ドライバーではなく千枚通し。作業には重宝する1本だ。

◆プライヤーズ◆

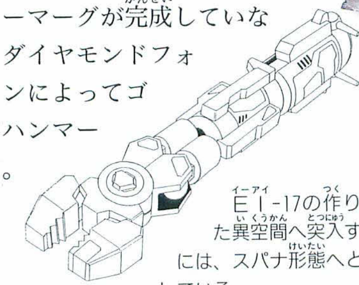
獅子王麗雄博士の兄、獅子王雷牙博士によってアメリカで開発されたガオガイガーのサポートメカ。それぞれのロボットにはＧストーンを使用した小型のＧＳライドが内蔵されており、３体のロボットが合体してプライヤー形態になることで空間を修復することができる。空間修復のパターンを予測するために、AIのマシンパワーを取られたので、言葉はしゃべることはできないが、意志の疎通程度であればコミュニケーションが可能。飛行能力、および固定武装はなく、ジャンプと滑空によって移動する。ゴルディーマーグが完成していなかった時に、ダイヤモンドフォーメーションによってゴルディオンハンマーを使用した。



「はさむ」という機能
写真は、機械整備のときなどに使うバイスグリップと呼ばれる特殊工具。後部のネジを調節してはさむ幅を変え、バネの力で押さえ込む、手軽なクランプのようなもの。仮に固定しておきたい部分を留めておくのに便利だ。



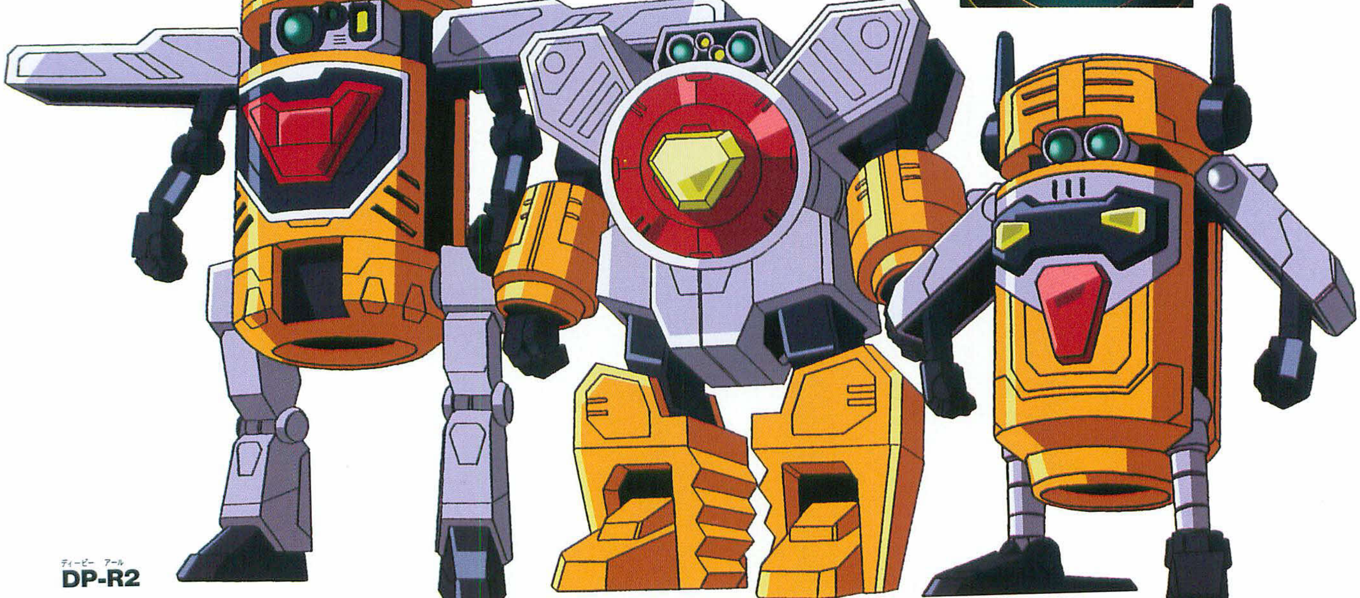
カバヤ「ガオガイガーガム」付属のキットで組んだディメンジョンプライヤー&ガオガイガー。プライヤーズのモデルは現在このシリーズのみ。



EI-17の作り出した異空間へ突入する際には、スパナ形態へと変形している。



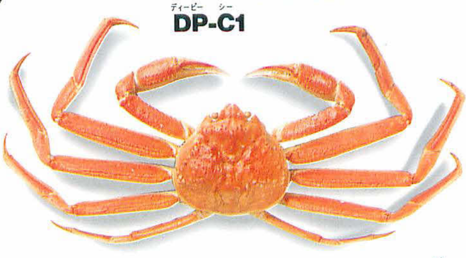
3体のロボットがプライヤー形態へ変形し、ガオガイガーとツールコネクトすることで、最大限の性能を発揮する。



DP-R2　**DP-C1**　**DP-L3**



二挺スコップ
電柱埋設用の器具のひとつで、２枚のスコップの先をひらいて土中に突込み、閉じる。そのまま引き抜くと土が持ち上がり、地面にえぐれたような穴があく。



器用なカニのハサミ
カニのハサミは可動指と不可動指が一対となって、捕食、闘争などさまざまな用途に使われる。



やっとこ
日本古来から使われている和釘を抜く道具が、やっとこだ。和釘には洋釘のような頭がないため、かなり抜きにくい。

◆ゴルディーマーグ◆





ガオガイガーのグラビティ・ショックウェイブ・ジェネレイティング・ツール通称ゴルディオンハンマー使用時における衝撃耐性向上、衝撃緩衝用に開発されたマルチロボ。ある程度の自己判断能力を必要とするため、火麻参謀の性格をサンプリングした新型AIを搭載している。ガオガイガーがハンマーを使用する際に、衝撃緩衝ツール・マーグハンドに変形する。火麻同様に頑固な性格で、常にゴルディオンハンマーを使える状態にしておくことを最優先と考え、場合によっては命令を無視することもある。EI-20とのGアイランドシティ戦では、超重力下でも活動できることを証明してみせた。発生させた重力場に活断ウェーブを伝搬させるゴルディオンハンマーは、その衝撃波と対象物がぶつかった時、瞬間的に光速を超えることを利用して、対象物を光へと変換する驚異のツールである。ハンマー使用時の変形は、大河長官の承認キーと仰都木隊員によるセーフティ・デバイス・リリースが必要となる。マーグハンド形態のほか、戦車形態のゴルディータンクへのシステムチェンジが可能だ。



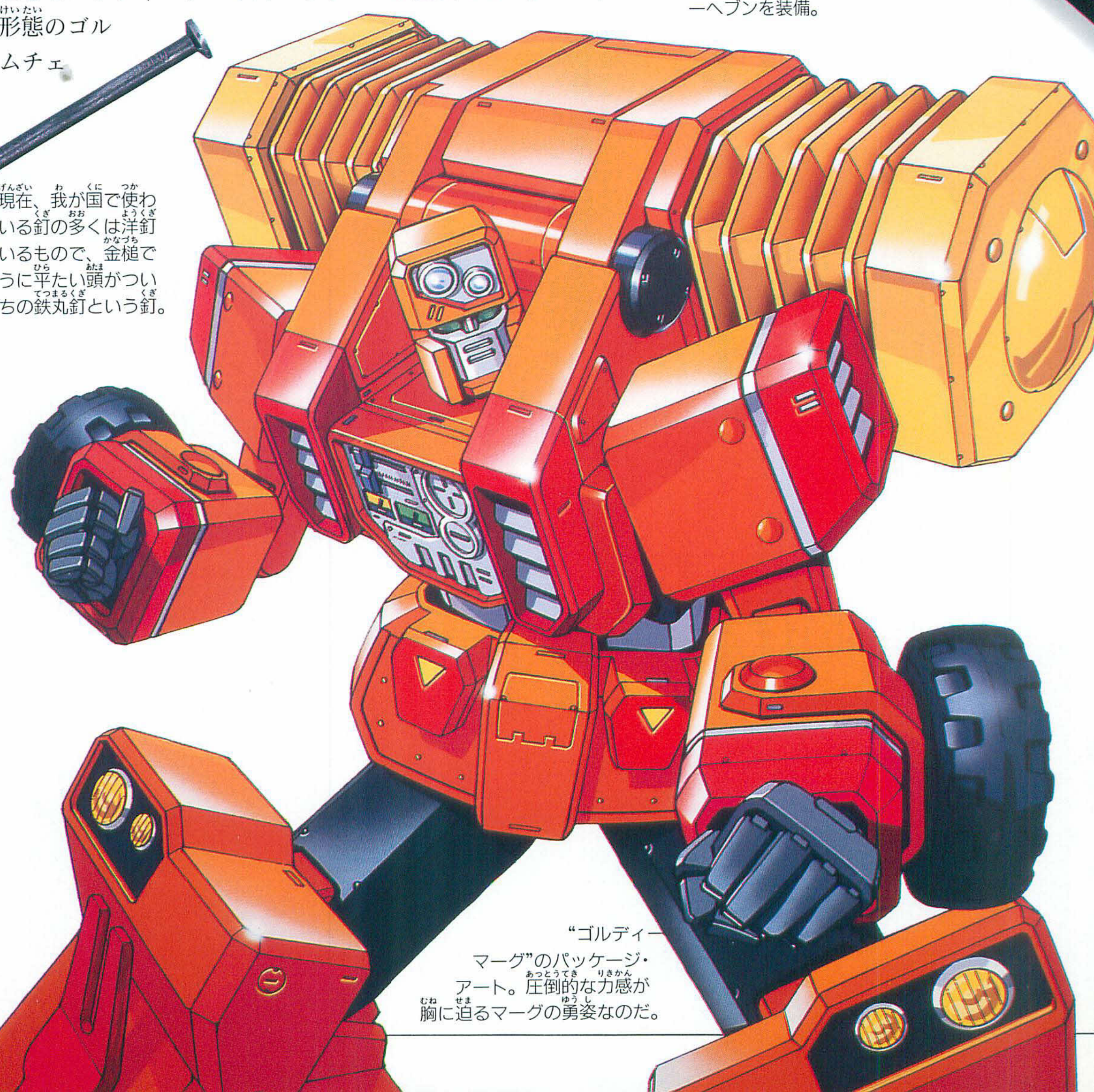
ガオガイガーの機体をゴルディオンハンマーの衝撃から守るため、超強力な耐久力を誇るマーグハンド。車軸内にゾンダー核回収用の巨大釘ハンマーヘル、腕部上面にハンマーヘル除去用巨大大釘抜きハンマーヘブンを装備。



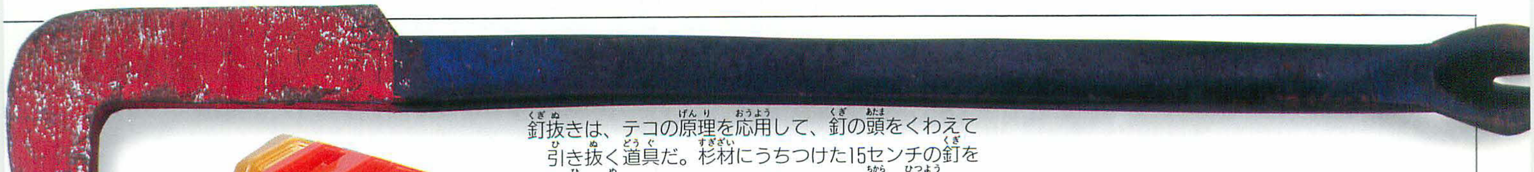
現在、我が国で使われている釘の多くは洋釘と呼ばれているもので、金槌で打ちこみやすいように平たい頭がついている。写真はそのうちの鉄丸釘という釘。



ゴルディーマーグの実戦投入を急いだGGGは、人間の思考パターンをサンプリングする新型ＡＩシステムを採用。その第一被験者が歴戦の勇士・火麻であった。



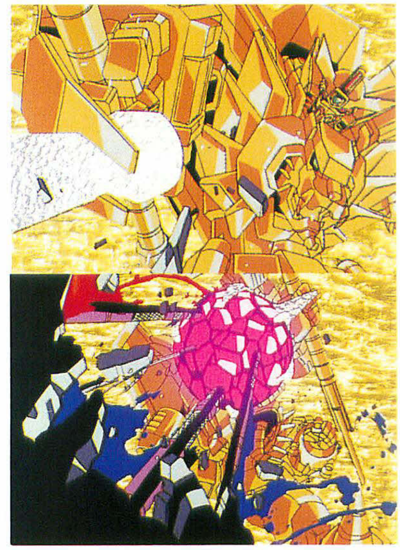
“ゴルディーマーグ”のパッケージ・アート。圧倒的な力感が胸に迫るマーグの勇姿なのだ。

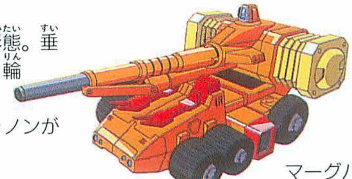


釘抜きは、テコの原理を応用して、釘の頭をくわえて引き抜く道具だ。杉材にうちつけた15センチの釘を引き抜くためには、40キログラムの力が必要だという。写真は家具、指物用とされるバールだ。



マーグハンドの車軸より巨大釘ハンマーヘルを取り出し、ゾンター核を保護しながら突き刺す。次いで巨大釘抜きハンマーヘブンでハンマーヘルを抜き、ゾンター核を回収する。





ゴルディータンク形態。垂直壁面も走行可能な6輪の特殊タイヤを装備する。ゴルディーキャノンが標準武装だ。

マーグハンドを装着したタカラ版ガオガイガー。重厚なフォルムが素晴しい。装着の際には、右腕をステルスに戻すのを忘れないように。



金槌は、釘を打ちこんだりする道具としての顔のほかに、古来から武器としての顔もあわせもつ。たたきつぶすという行為の対象が変われば機能も変わるのだ。





カバヤ「ガオガイガーガム」付属のゴルディオンハンマー。手のひらサイズでも、これだけの迫力がある。

300トンとディバイディングドライバーの1.5倍の重さがあるゴルディオンハンマー。その最大出力はガオガイガーの標準的な総出力を軽く上回り、もはや計測不可能なほどだ。



大河長官によるゴルディオンハンマー発動承認、続く卯都木隊員による安全装置の解除指令の入力によって初めて使用が可能となる。ガオガイガーが通常の腕をステルスガオーに収容し、マーグハンドとハンマーコネクトを完了。ハンマーヘル・アンド・ハンマーヘルによるゾンダー核の回収後、対象物を粉砕する。



逆転の発想・ピコピコハンマー

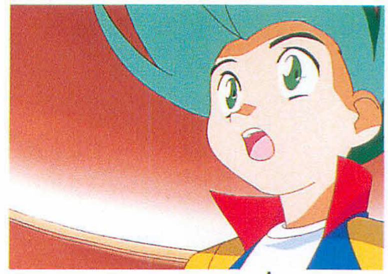
笑いが起きる条件のひとつとして、極度の緊張感からの急速な開放感がある。このオモチャは、それをうまく利用したヒット商品だ。叩くとピコピコという音が出て、叩かれた相手に安心感をあたえる。

◆天海マモル◆



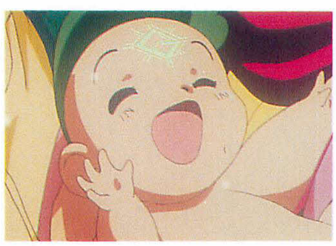
Gアイランドシティの第一カモメ小学校3年1組に在籍する普通の明るい少年。それが天海マモルの素顔だ。宇宙開発公団に勤務するやさしい父親・勇と心配性の母親・愛のふたりの愛情をたっぷり受けて、すくすくと成長した少年である。しかしマモルの出生は普通の少年とはまったくかけ離れたものだ。1997年の北海道、突然出現したギャレオンが、マモルを天海夫妻にたくしていったのだ。天海夫妻に育てられたマモルは、父の勇が宇宙開発公団に就職が決まったことをきっかけに、北海道からGアイランドシティへと引っ越してきた。2005年、EI-02事件に巻き込まれたマモルは、自分自身も知らなかった特殊能力を覚醒させた。それがゾンダー核へと変わり果てた人間を元へ戻す力＝浄解である。GGGは能力行使中のマモルの放つエネルギーを追跡し、その保護に成功する。浄解能力、ゾンダーを察知する力、マモルの危機にギャレオンが駆けつける事実、これら様々な事実を考慮したGGGは、マモルをGGG特別隊員とすることを決定した。マモルの超能力はいまだ解明されていない。

DATA
GGG特別隊員 天海マモル
第一カモメ小学校3年1組
血液型 O型、天秤座
歓喜の叫び 「うわっは～！」が口グセ





いつもは茶色の髪の毛だが、付近にゾンダーの気配や、ゾンダーロボの活動を感じると、敏感に反応を示し、一瞬緑色の輝きを放ち逆立つ。Z0センサーの数倍の力を持っている。





1997年の大雪の降る北海道で、ギャレオンはマモルを天海夫婦にたくした。以降、夫妻はマモルには出生の秘密は隠し、我が子のように育ててきた。夫婦はギャレオンを北極ライオンと呼ぶ。マモルの額にGの印が浮かびあがるのは赤ん坊の頃からだ。



ギャレオンはマモルの危機に急行するなど、マモルに関わる事件では、自我を持つかのような行動をとる。マモルと密接な関係を持つようだ。



GGG特別隊員となったマモルを、影から警護しているのが、GGG諜報部のボルフォッグだ。当初はマモルに正体を明かすことなく任務を遂行していた。しかし、ゾンダーがマモルを襲うようになってからは共に行動することが多くなった。



天海勇(右)
マモルの父は宇宙開発公団の技術者。家族をとても愛しているマイホームパパ。

天海愛(左)
専業主婦のマモルの母。少しのんびり屋だ。



マモルは小学校に上がる前まで、北海道に住んでいた。その時にいちばん仲がよかったのが、初野華ちゃんだ。北海道時代にマモルは華ちゃんとある約束をしている。約束の内容は機密扱いなのだ。



マモルのクラスメートたち。ゾンダーの攻撃がGアイランドに集中する現在、彼らも事件に巻き込まれることが多い。牛山隊員の弟・**牛山末男**（上段左）、キレイ好きの**狐森レイコ**（上段左）、下段左から超能力少年・**戒道幾巳**、**手里たまよ**、**鈴木わかば**、**数納鷹泰**。

北海道からのマモルの幼なじみ・**初野華**。行く先々で必ず大事件に巻き込まれてしまう。恐いことがあると「こわくない、こわくない、こわくない」と唱えるクセがある。血液型A型。射手座。

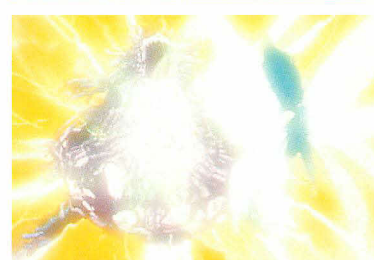
浄解を行う時、マモルの体から８枚の羽根状突起が出現し、緑色に発光する。額にはGストーンと同じ紋様が浮かび上がる。最初はコントロールできなかった浄解能力も、今では自在に操れるようになった。



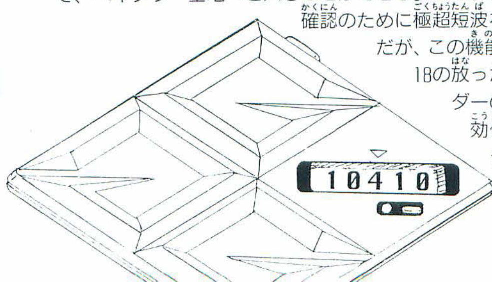


「クーラ・ティオー・テネリタース・セクティオー・サルース・コクトゥーラ／」の呪文とともにマモルが左手をゾンダー核にかざすと、核は人間へと復元されていく。





特別隊員の証としてマモルが凱から渡された**GGGポケベル**。このポケベルはGGG隊員ならば全員が常に携行している、GGGの支給品だ。すぐに使えるように簡単な使用方法は裏面に明記されている。メインシャフト内にあるGGGベイタワー基地への直通エレベーターに搭乗するために必要なものだ。その際に「7081」と番号を入力し、指紋、声紋、所属部署、認識番号の確認を受けてはじめて、ベイタワー基地へと入ることができる。また、各隊員の所在地確認のために極超短波を発しているのだが、この機能によってEI-18の放ったマイクロゾンダーの指令電波を無効化していたという事実もある。



◆ゾンダーメタル◆

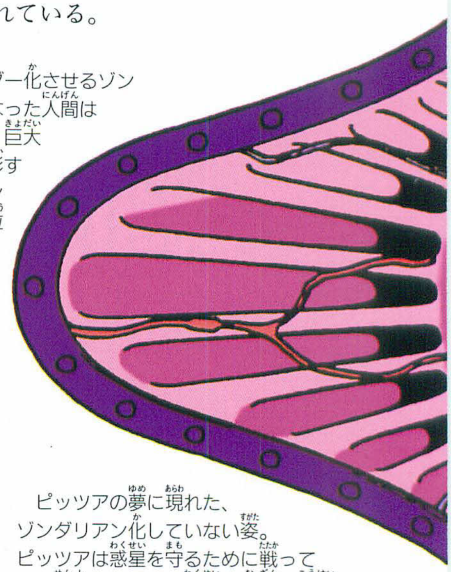
遠い銀河の星で高度な文明を築き上げてきた生命体が、誤って発展した機械テクノロジーによって産み出したもの…。それがゾンダーメタルだ。彼らは永遠の命を持つ機械生命体ゾンダリアンへと進化を遂げた。そして2005年、地球へと飛来したEI-01、すなわちゾンダリアンのパスダーと機界四天王は、2年間の沈黙を破り地球人類への侵略行為を開始した。人類にゾンダーメタルを融合させてゾンダー化し恐怖と破壊を招く。ゾンダリアンの真の目的は人類の総ゾンダー化にある。巨大雲型ゾンダーEI-09がその体内で製造していた謎の飛翔物体、超巨大粒子加速器イゾルデと融合したEI-12およびEI-18のグランドノヴァ内に形成したゾンダーメタルプラントと、ゾンダリアンはゾンダーメタルの大量生産を画策している。現在のところ、その企てはすべてGGGによって粉砕されている。

ピッツア

機界四天王のひとり。おもに飛行機、もしくは空に関する事象に類するゾンダーを製造する。イゾルデ攻防戦で凱と戦い、引き分けた。そのため、ガオガイガーには特に強い憎悪を燃やしている。







人間に融合してゾンダー化させるゾンダーメタル。ゾンダーとなった人間は周囲の機械群と融合し、巨大なゾンダーロボへと変形する。ゾンダリアン、ゾンダーとも、活動中に素粒子Z0を発するため、Z0反応による探知が可能だ。



ピッツアの夢に現れた、ゾンダリアン化していない姿。ピッツアは惑星を守るために戦ってきた戦士だったが、惑星は無残に荒廃し、ピッツアも傷ついていた。その眼前にペンチノンが現れ、戦士として生きる場所があるとピッツアを勧誘している。どうやらゾンダリアンである四天王も、最初からゾンダリアンではなかったと思われる。



現在、ゾンダリアンが所有するゾンダーメタルの数は残りわずか。彼らにとってゾンダーメタルプラントによるメタル生産は急務なのだ。



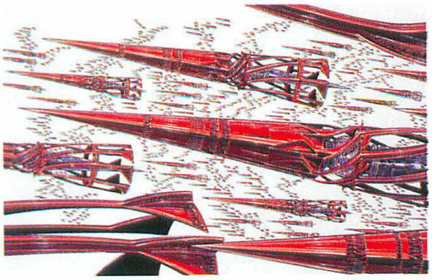
船長にも似たポロネズ人間形態。



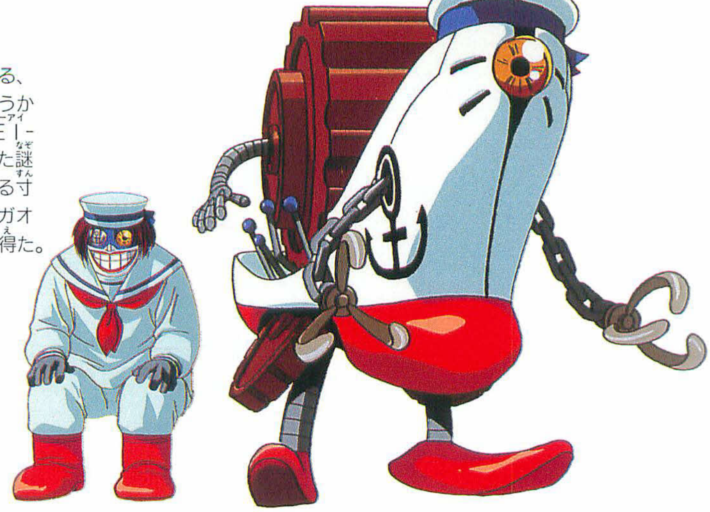
ポロネズ

列車などを基とするゾンダーを育成する四天王の一人。当初はガオガイガーをはじめとするGGGを、歯牙にもかけなかったが、幾度となく作戦を粉砕されるため、現在はGGGの壊滅とカインの遺産であるギャレオンの破壊を主眼にした作戦を展開している。意見を同じくするプリマーダとは、共同作戦をおこなうことも多い。

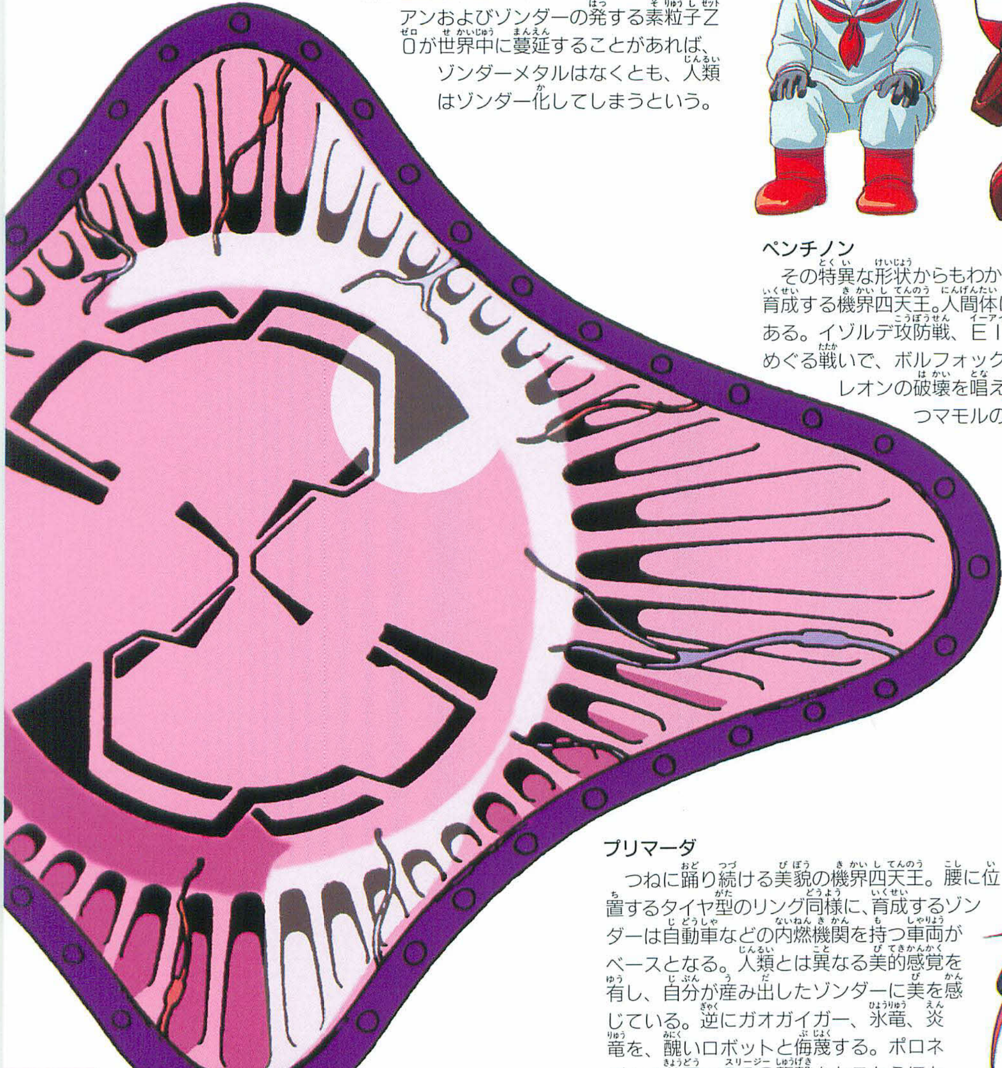




ゾンダリアンの目的である、人類総ゾンダー化の片鱗をうかがわせたのが、雲ゾンダーEI-09。中心核で生成されていた謎の物体。全世界へ発射される寸前だったのか？　さいわいガオガイガーの活躍で事無きを得た。



獅子王麗雄博士の研究によれば、ゾンダリアンおよびゾンダーの発する素粒子Z0が世界中に蔓延することがあれば、ゾンダーメタルはなくとも、人類はゾンダー化してしまうという。



ペンチノン

その特異な形状からもわかるとおり主に船舶系、道具に関するゾンダーを育成する機界四天王。人間体に変身した際は、かならず座った姿勢のままである。イゾルデ攻防戦、EI-18のグランドノヴァにおけるゾンダー核をめぐる戦いで、ボルフォッグと戦闘を繰り返している。ペンチノンはギャレオンの破壊を唱えるポロネズとは意見が異なり、浄解能力を持つマモルの抹殺を策謀している。因縁浅からぬピッツアと行動を共にする。



ゾンダーメタルと正反対の性質を持つGストーン。写真はGストーンからエネルギーを抽出するGSライド。ギャレオンからのコピーだ。

プリマーダ

つねに踊り続ける美貌の機界四天王。腰に位置するタイヤ型のリング同様に、育成するゾンダーは自動車などの内燃機関を持つ車両がベースとなる。人類とは異なる美的感覚を有し、自分が産み出したゾンダーに美を感じている。逆にガオガイガー、氷竜、炎竜を、醜いロボットと侮蔑する。ポロネズとの共同でGGG襲撃をおこなうほか、首領であるパスダー立案の作戦には他の四天王とともに協力する。







パスダー

ゾンダリアンの首領。2003年に地球へ飛来したが、ギャレオンに撃墜されて八景島付近に落下した。その後、地上の電車、自動車といった金属製品と融合しながら地底を移動して東京都下へ侵入を果たす。東京タワーの地底に位置するゾンダリアンタワーそのものが、パスダーの本体である。ゾンダーメタルプラント建造を目的とした作戦を指揮する。

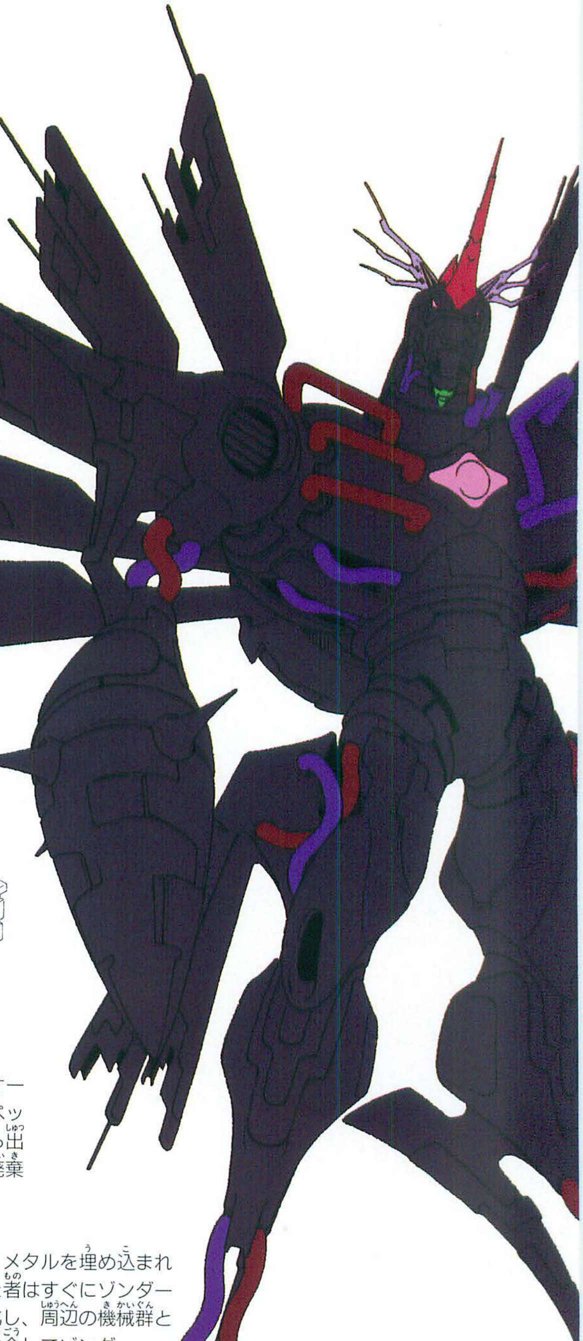


ゾンダリアンタワー内部。ゾンダーに指示をあたえる際もつねに踊り続けている。目的のためには手段を選ばぬ残忍な性格の持ち主だ。

プリマーダの人間形態。ゾンダー化した人間の証言をもとにGGGが製作したモンタージュは、プリマーダも含めすべて人間体であった。

◆ゾンダーロボ◆

ゾンダリアンが目的達成のために使役する侵略兵器・ゾンダーロボは、人類をゾンダーメタルと融合させたゾンダーをコアとした巨大有機ロボットである。ゾンダー化する人間はなんらかの形で心に憎しみや悲しみを抱いている者に限定される。ゾンダーロボの形状であるが、機界四天王それぞれの特性と、素体となる人間の悲しみや憎しみといった負の感情と密接に関係した事象の影響を受ける場合が多い。機能を停止させるためにはゾンダー核の除去が必要だ。だが、ゾンダー核の人間への復元方法は、現在のところマモルの浄解能力に頼らざるをえない状況にある。

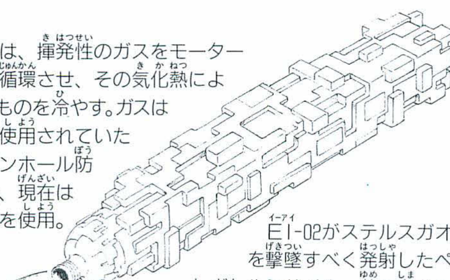




EI-02が使ったペットボトルのミサイルは、原理的にはペットボトルロケットと同じものである。容器の中に圧縮した空気と推進材(最もポピュラーなものとしては「水」)を入れ、中の空気を加圧して、一定圧になったところで発射する。推進材が切れると、後は惰性で飛んでゆくが、容器の大きさや水と空気の比率によっては、数百メートルまで飛ばすことも可能。



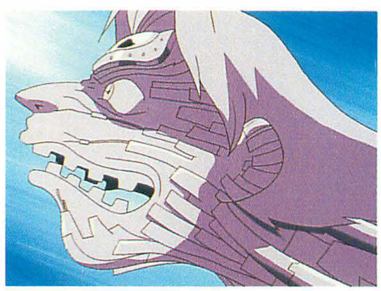
冷蔵庫は、揮発性のガスをモーターによって循環させ、その気化熱によって中のものを冷やす。ガスはフロンが使用されていたが、オゾンホール防止のため、現在は別の気体を使用。



EI-02がステルスガオーを撃墜すべく発射したペットボトルミサイル。夢の島から出現した02は、扇風機、冷蔵庫といった廃棄物で体を構成していた。



EI-02は、未来の夢の島のゴミを利用したリサイクル・ゾンダーだった。左の写真は1997年現在、都内高井戸にある杉並区のゴミ焼却場。ここから出た廃熱は温水プールなどに利用されている。こうした施設は都内各所にあるが、とても処理がおいつかない状態で、東京湾の夢の島は年々その面積を増している。



メタルを埋め込まれた者はすぐにゾンダー化し、周辺の機械群と融合してゾンダーロボとなるのだ。

DATA

Z-metal powered zonder robot

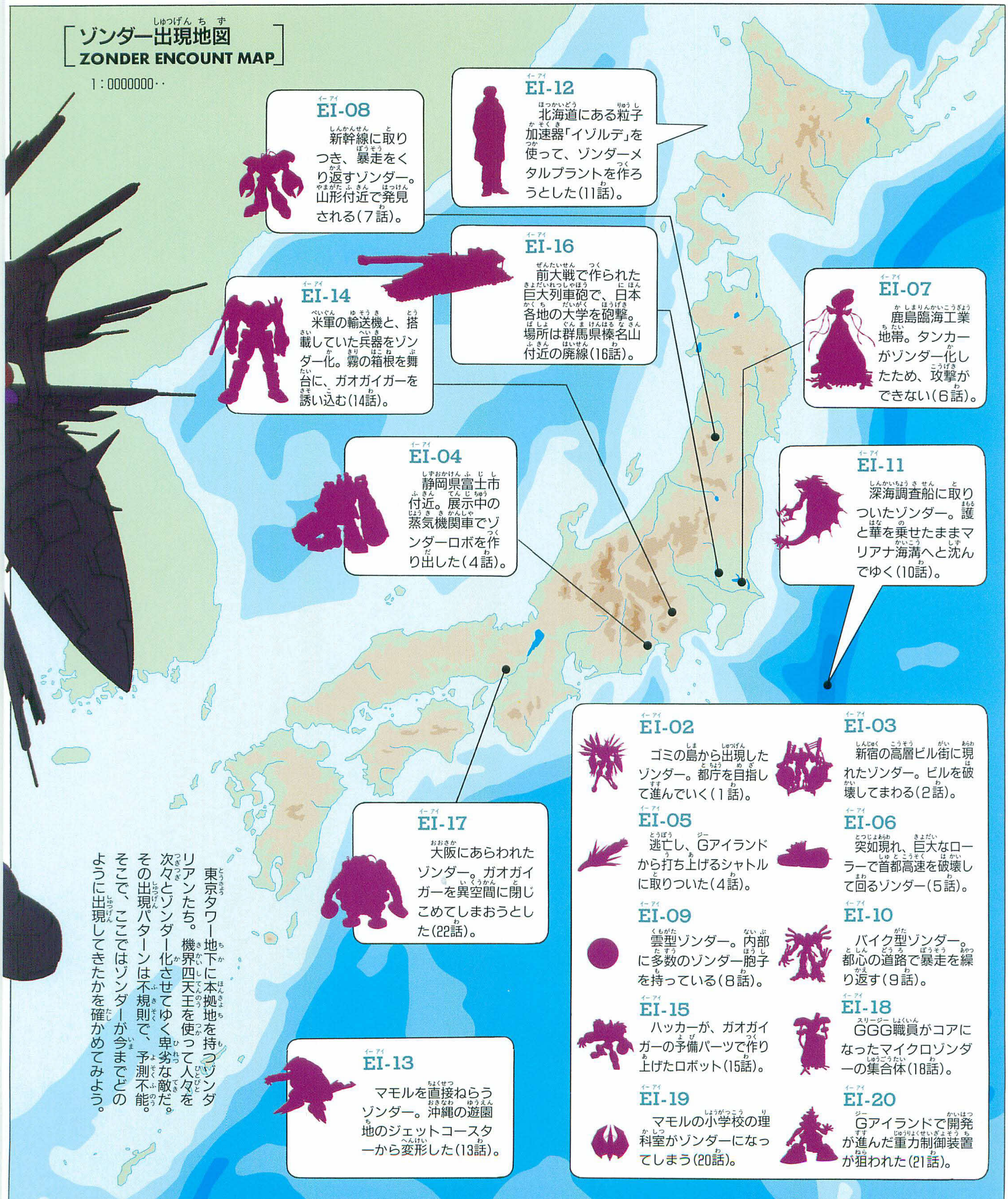
重量……………………3,100トン
全長……………60メートル以上
自己修復力…399.6リットル/秒



マモルの浄解によって人間に戻った被害者は、GGG諜報部による調査を受ける。被害者はゾンダーロボ時の記憶がない。浄解後は、心の負の感情も癒されるようだ。

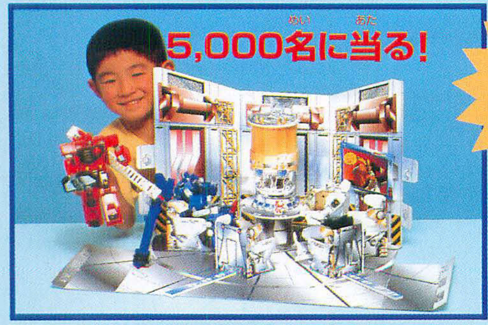
ゾンダー出現地図
ZONDER ENCOUNT MAP

1：0000000・・



東京タワー地下に本拠地を持つゾンダリアンたち。機界四天王を使って人々を次々とゾンダー化させてゆく卑劣な敵だ。その出現パターンは不規則で、予測不能。そこで、ここではゾンダーが今までどのように出現してきたかを確かめてみよう。





「ボクのビッグオーダールーム」プレゼントキャンペーン実施中!!

タカラの「勇者王ガオガイガー」シリーズのおもちゃのパッケージについている「勇者ポイント」を8点分集めて送ると、3月から7月の毎月、抽選で1,000名様、合計5,000名様に「ボクのビッグオーダールーム」が当ります!



■ 応募方法：官製ハガキにタカラの「勇者王ガオガイガー」シリーズのおもちゃパッケージについている「勇者ポイント」8点分をはがれないようにしっかりと貼り、その8点分の商品名、住所、氏名、年齢を明記し、〒125 東京都葛飾区青戸4-19-16 株式会社タカラ「ボクのビッグオーダールーム」キャンペーン係宛に送って下さい。■ 締切：7月31日(木)(当日消印有効) ■ 当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。 ※ 写真のロボットはプレゼントに含まれません。

テレビ朝日系全国24局ネット
毎週土曜日夕方5：00〜5：30放映中
(朝日放送は金曜日夕方4：30〜5：00)

ガオガイガーやGGGの秘密が電話で聞けるぞ!
おうちの人に話してから、下の番号に電話してみよう。
電話番号は、まちがえないでね!
ガオガイガーひみつテレホン
03(3690)1111

タカラの商品はこども商品券で
デパート・スーパー・玩具店で販売しております。

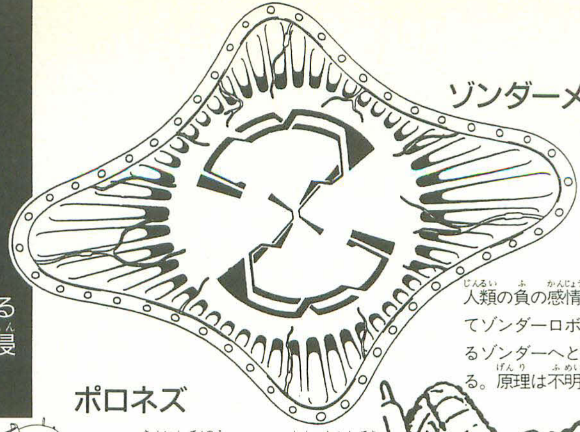
※ 発売日は変更になる場合があります。
※ 価格は希望小売価格です。(消費税別)
※ 写真と商品は多少異なる場合があります。
〒125東京都葛飾区青戸4-19-16

あそびは文化 タカラ

ZO-FILE

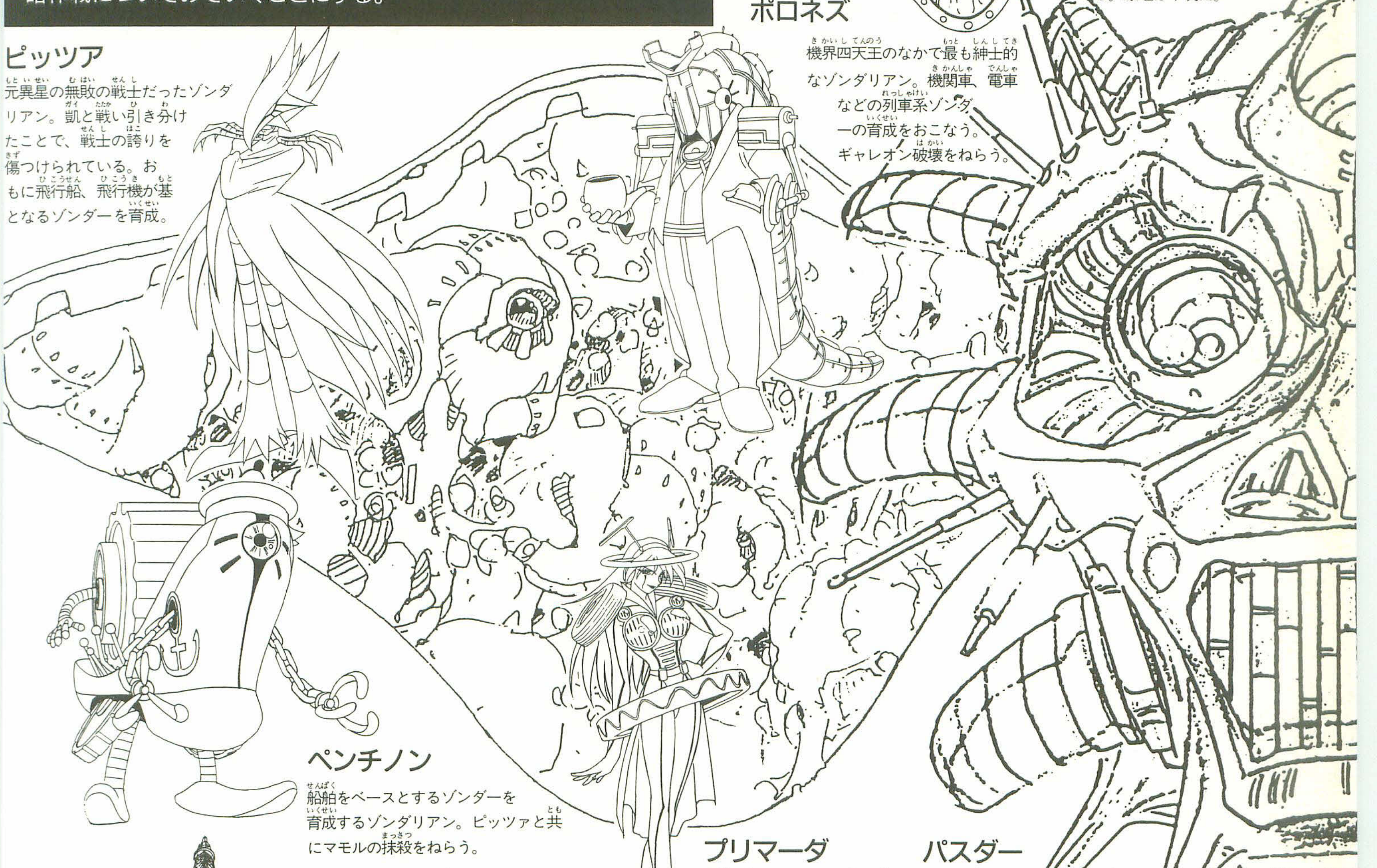
ゾンダリアン調査報告書

地球人類の総ゾンダー化をたくらむゾンダリアン。彼らはあらゆる手段で人類の平和をおびやかす。ここでゾンダリアンの戦力と地球侵略作戦についてみていくことにする。



ゾンダーメタル

人類の負の感情を利用してゾンダーロボの核であるゾンダーへと変貌させる。原理は不明だ。



ポロネズ

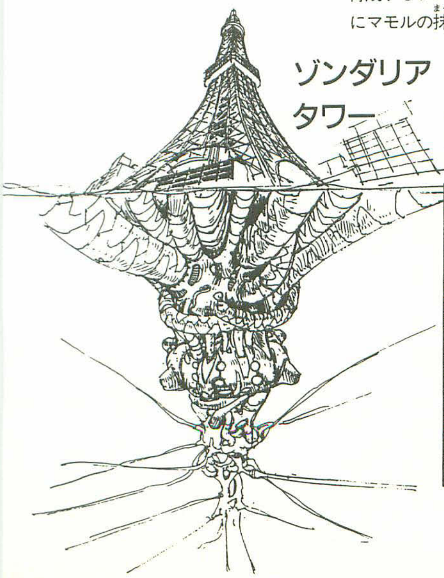
機界四天王のなかで最も紳士的なゾンダリアン。機関車、電車などの列車系ゾンダーの育成をおこなう。ギャレオン破壊をねらう。

ピッツア

元異星の無敗の戦士だったゾンダリアン。凱と戦い引き分けたことで、戦士の誇りを傷つけられている。おもに飛行船、飛行機が基となるゾンダーを育成。

ペンチノン

船舶をベースとするゾンダーを育成するゾンダリアン。ピッツァと共にマモルの抹殺をねらう。



ゾンダリアタワー

横浜郊外に落下したＥＩ－01ことパスダーが、東京タワーの地下に築いたゾンダリアンの地球侵略の本拠地。

プリマーダ

自動車系ゾンダーの育成を担当する唯一の女性ゾンダリアン。地球人類とは異なる美的感覚の持ち主だ。

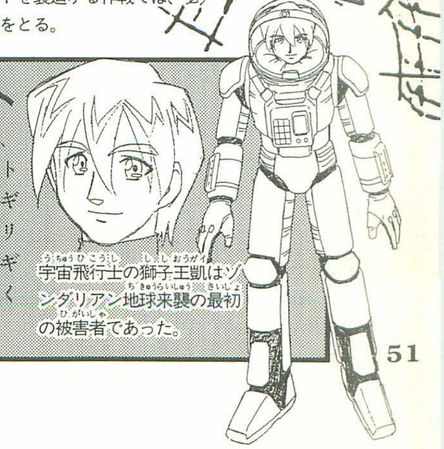
パスダー

ゾンダリアンの首領。人類総ゾンダー化をめざす。ゾンダーメタルプラントを製造する作戦では、必ず指揮をとる。

ゾンダリアンとゾンダーメタルおよびそのプラント

ゾンダリアンの目的は地球人類すべてをゾンダーにすることだ。2003年に地球に飛来した際に、ギャレオンの攻撃を受けて負傷したパスダーは、東京タワーの地下に根をおろし、反撃の機会をうかがっていた。

人類のゾンダー化には大量のゾンダーメタルが必要となる。しかし、ゾンダーメタルを製造するプラントは、その製造過程で大量のエネルギーを必要とする。だから、ゾンダリアンは粒子加速器など、高エネルギーを消費できるポイントを襲ってくるのだ。



宇宙飛行士の獅子王凱はゾンダリアン地球来襲の最初の被害者であった。

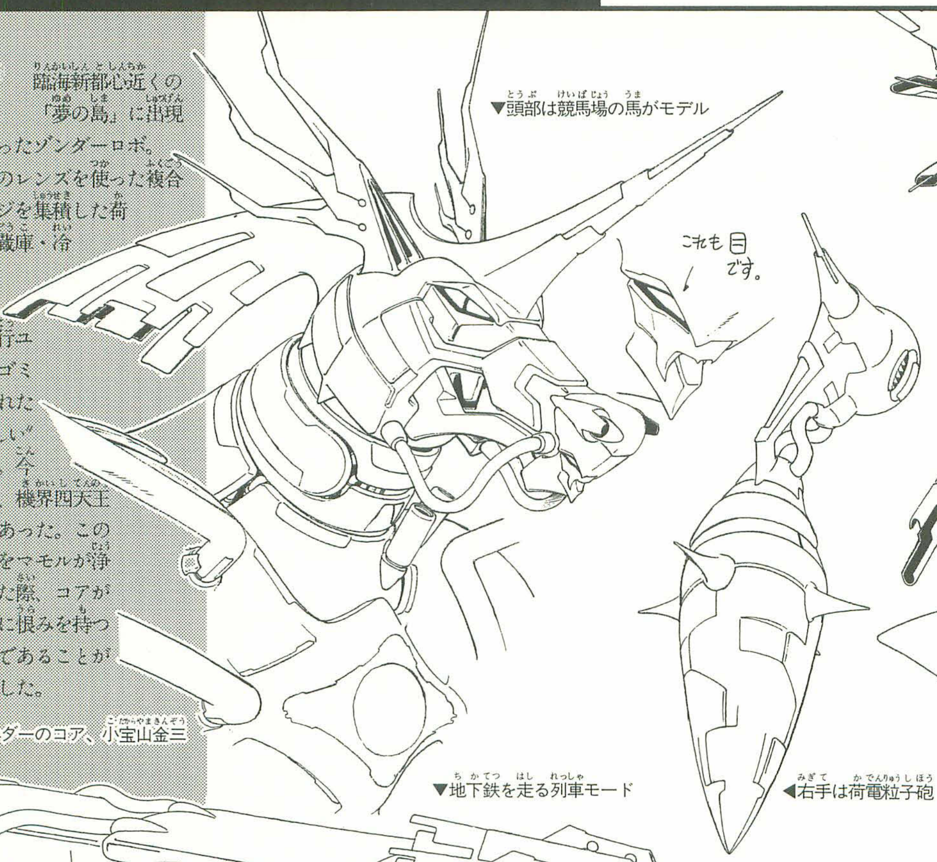
ZO-FILE EI-02~EI-06

ゾンダーロボ

人の心の弱さにつけ込むゾンダリアン。ゾンダーメタルを埋め込まれた者は、負の感情のおもむくままに破壊の限りをつくす。

EI-02

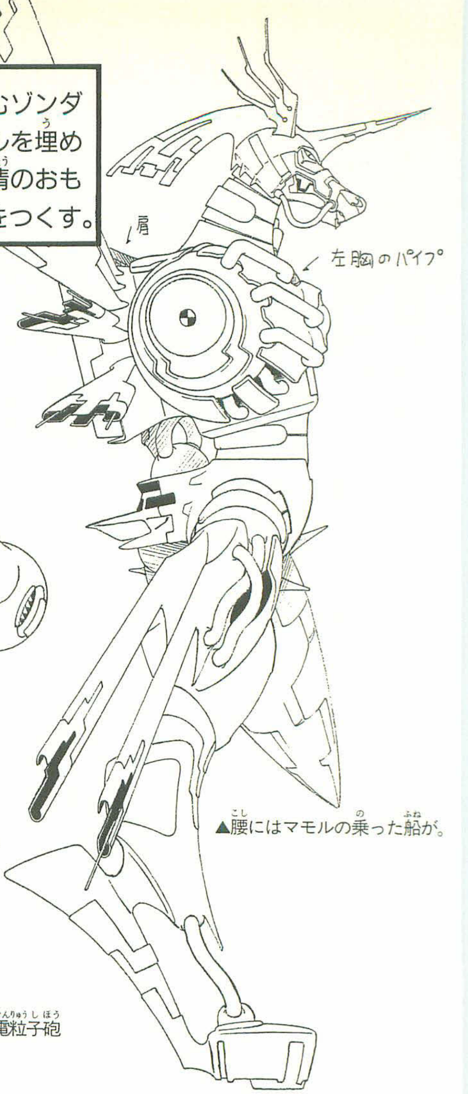
臨海新都心近くの「夢の島」に出現し、都庁を襲ったゾンダーロボ。ビデオカメラのレンズを使った複合眼、電子レンジを集積した荷電粒子砲、冷蔵庫・冷凍庫を使った冷凍砲、扇風機を使った飛行ユニットなど、ゴミを素材に作られた“地球にやさしい”ゾンダーロボ。今回の作戦のみ、機界四天王の共同作戦であった。このコアをマモルが浄解した際、コアが都庁に恨みを持つ人間であることが判明した。



▼頭部は競馬場の馬がモデル

▼地下鉄を走る列車モード

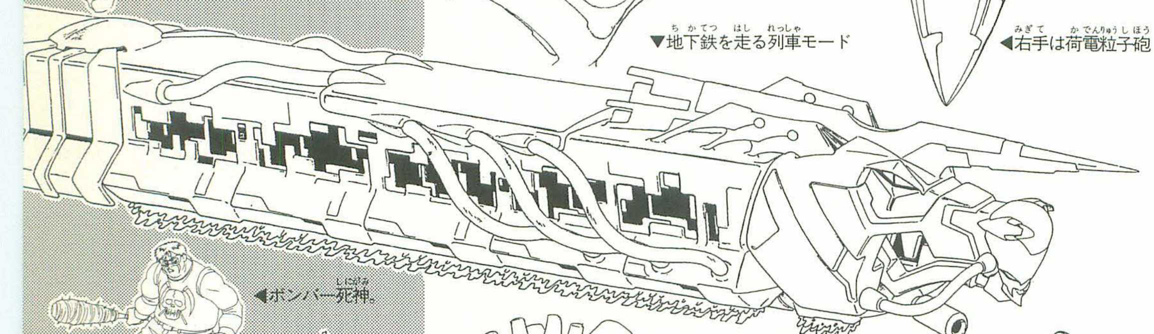
◀右手は荷電粒子砲



▲腰にはマモルの乗った船が。



▲ゾンダーのコア、小宝山金三

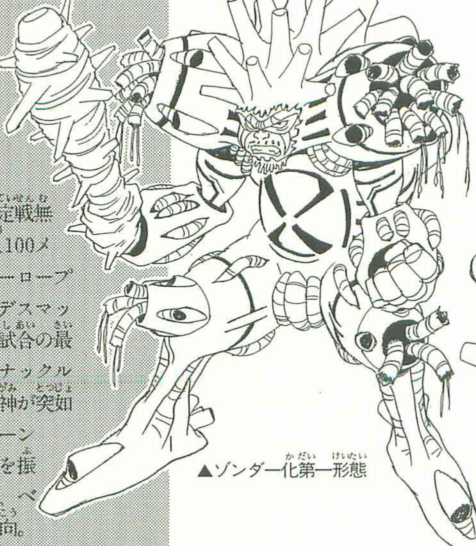




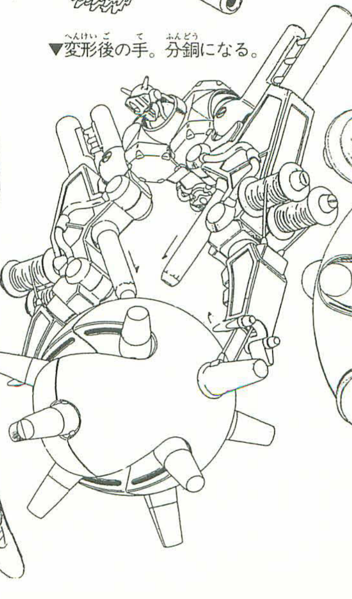
◀ボンバー死神。

EI-03

デスマッチ王座決定戦無制限一本勝負地上100メートル時限爆弾ノーロープ有刺鉄線電流爆破デスマッチ、という派手な試合の最中、SMWブラスナックル王者、ボンバー死神が突如ゾンダー化。クレーン車と融合し、鉄球を振り回す。浄解後は、ベビーフェイスに転向。

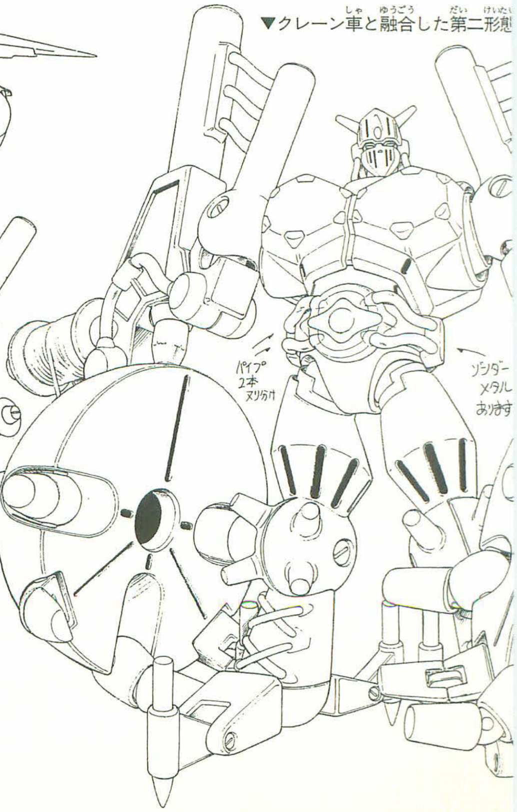


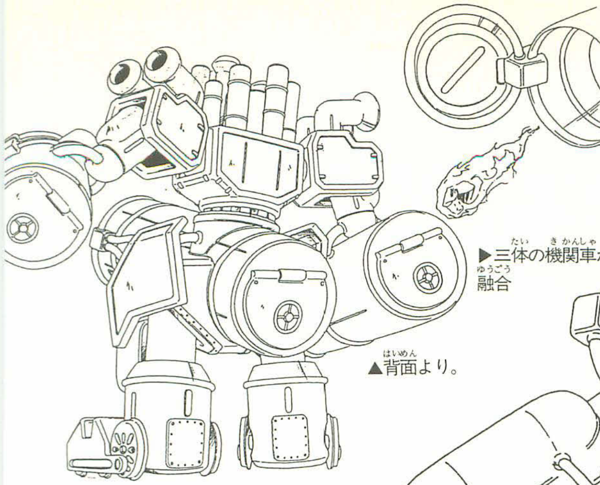
▲ゾンダー化第一形態



▼変形後の手。分銅になる。

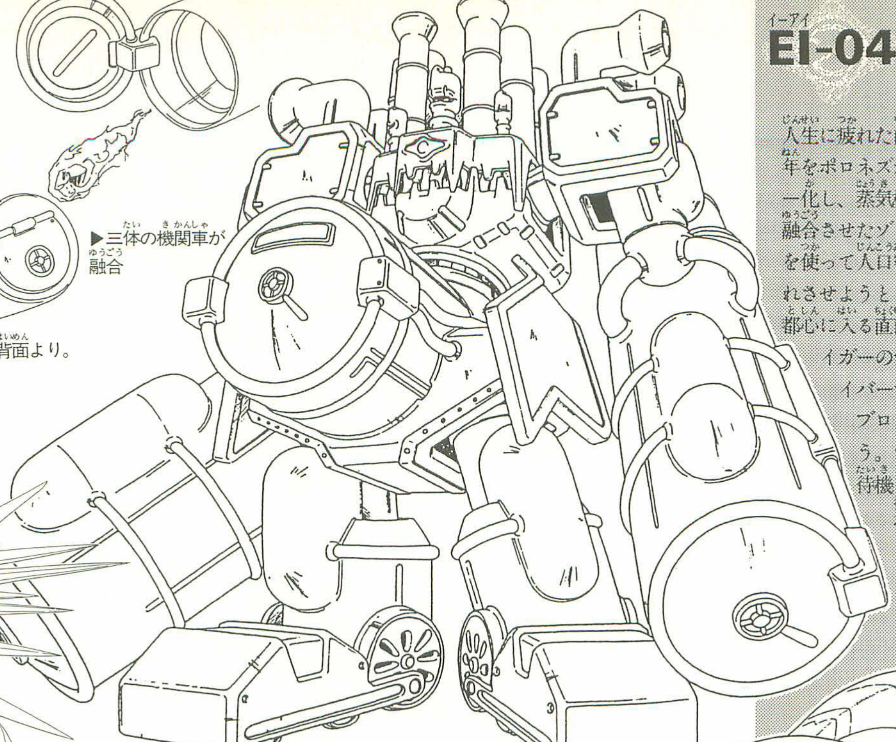
▼クレーン車と融合した第二形態





▲背面より。

▶三体の機関車が融合

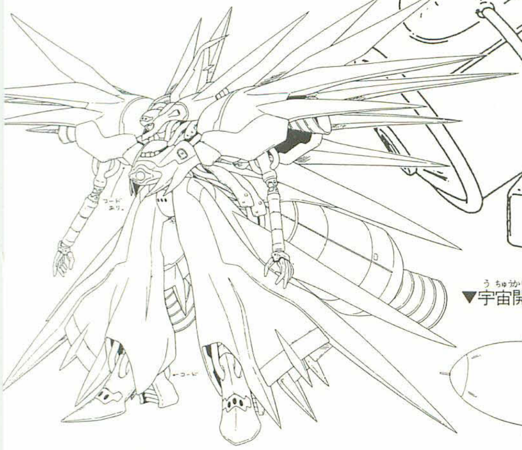


EI-04



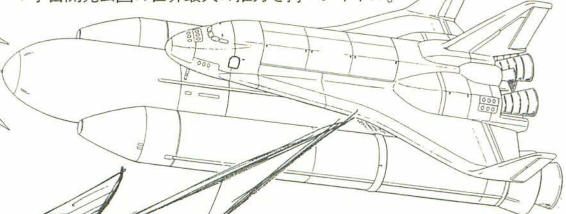
▶人生に疲れた山野口。

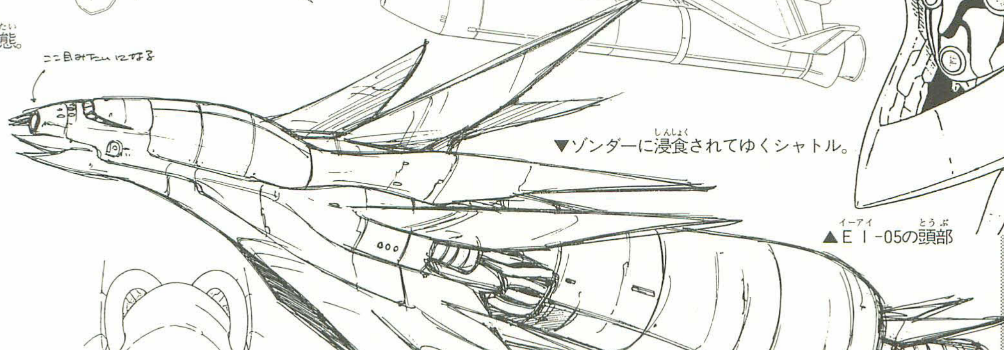
人生に疲れた山野口少年をポロネズがゾンダー化し、蒸気機関車と融合させたゾンダーロボを使って人口密集地で暴れさせようとした。だが、都心に入る直前にガオガイガーのディバイディングドライバーで隔離されてしまい、ブロウクンマグナムをくらう。マモルがGGG基地に待機していたために浄解が遅れてしまい、結果的にはゾンダーを逃すことに。



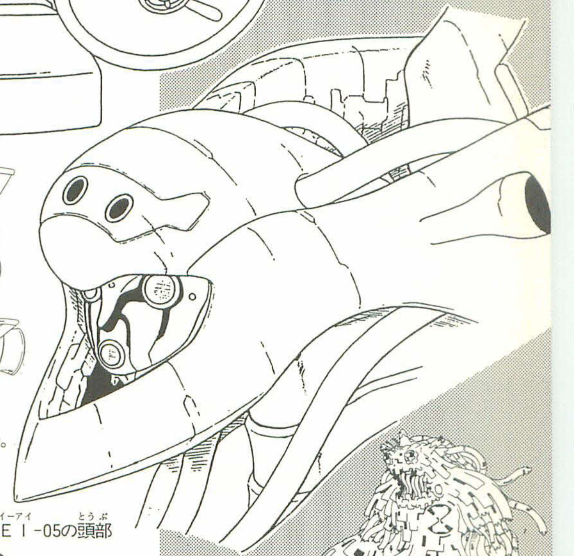
▲最終形態。

▼宇宙開発公団の世界最大の推力を持つシャトル。

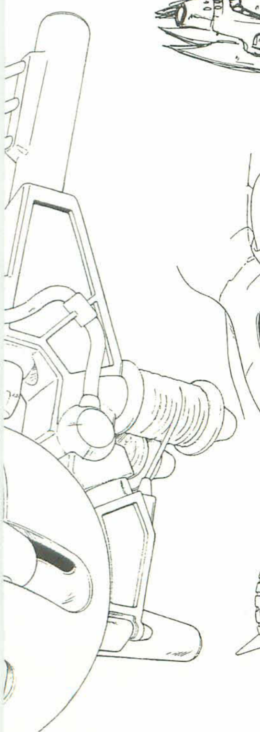


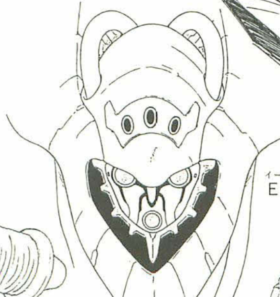


▼ゾンダーに浸食されてゆくシャトル。



▲ＥＩ-05の頭部





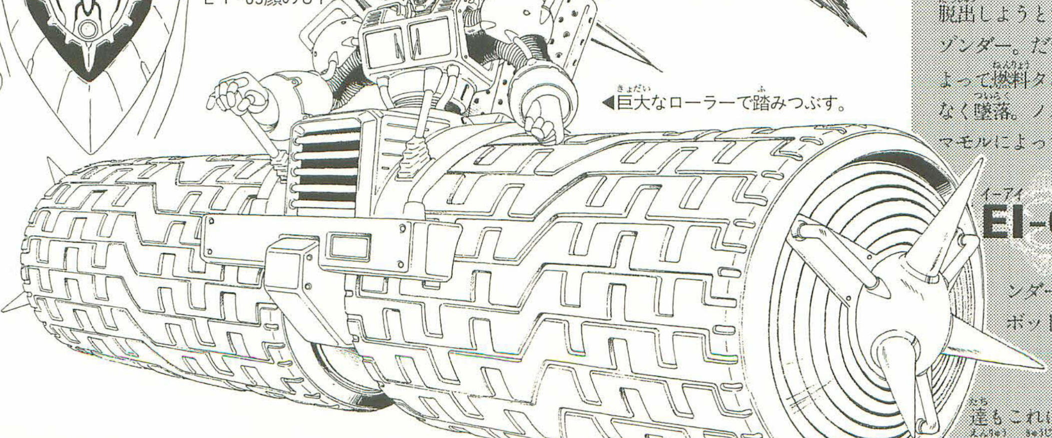
ＥＩ-05顔のＵＰ

EI-05



▲逃げたゾンダー

シャトルと融合を果たし、大気圏を脱出しようとするゾンダー。だが、ガイとガイガーによって燃料タンクを破壊され、やむなく墜落。ノズル噴射で応戦するも、マモルによって浄解されてしまう。



◀巨大なローラーで踏みつぶす。

EI-06

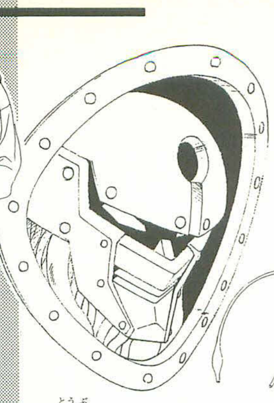
渋滞にいらつく運転手をプリマーダがゾンダー化。ローラー型のロボットとなって首都高速や車を破壊して回る。遠足途中のマモル達もこれに巻き込まれ、氷竜・炎竜に救助される。

EI-07~EI-12

EI-07



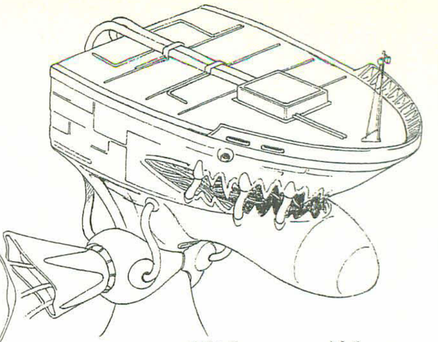
かつて自分のミスで船を座礁させた船長を核とした、タンカー型ゾンダー。茨城県沿岸の臨海工業地帯に出現した。コンビナートからガソリンを吸って内部にため込んでいるため、ガオガイガーもうかつに攻撃ができなかった。



▲頭部

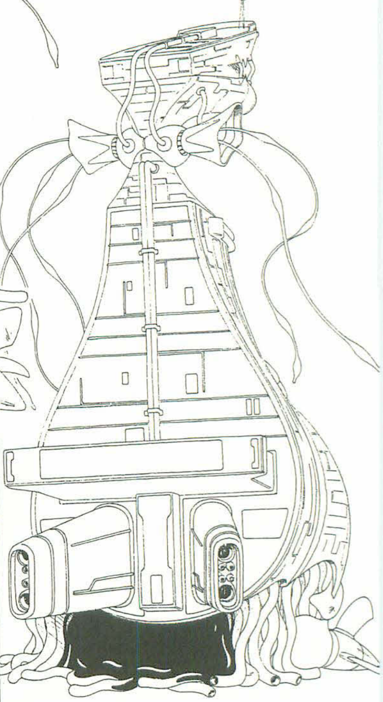


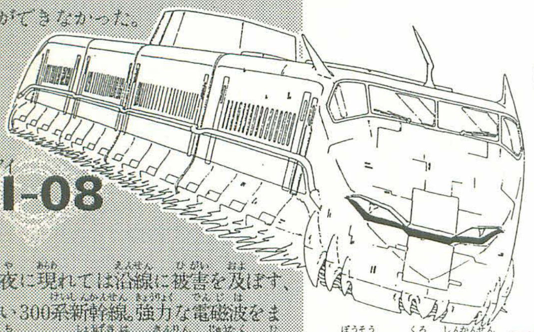
左右から延びる触手▶で、石油を吸いとる。



▲タンカー先端部がそのまま頭部になる。

▼巨大化したスクリューは脚になる。

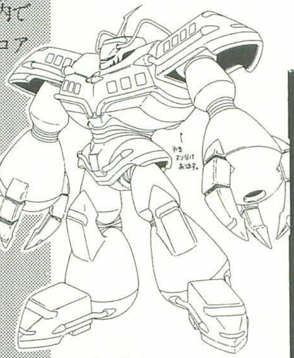




▲暴走する黒い新幹線

EI-08

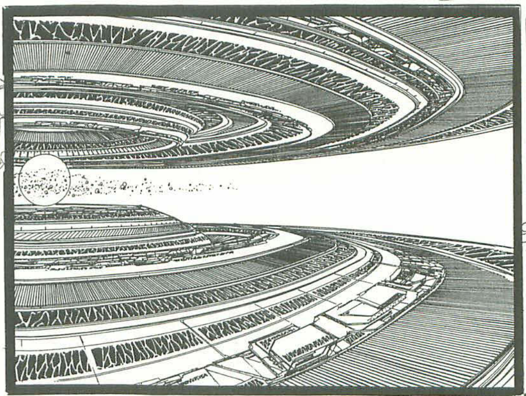
深夜に現れては沿線に被害を及ぼす、黒い300系新幹線。強力な電磁波をまき散らし、衝撃波で近隣の住宅に被害をもたらす謎の列車。山形県内で発見後、ヘル&ヘブンで破壊。コアは新幹線の土地買収で失敗、多額の借金を抱えた御手盛金之輔であった。



▲第二形態のEI - 08

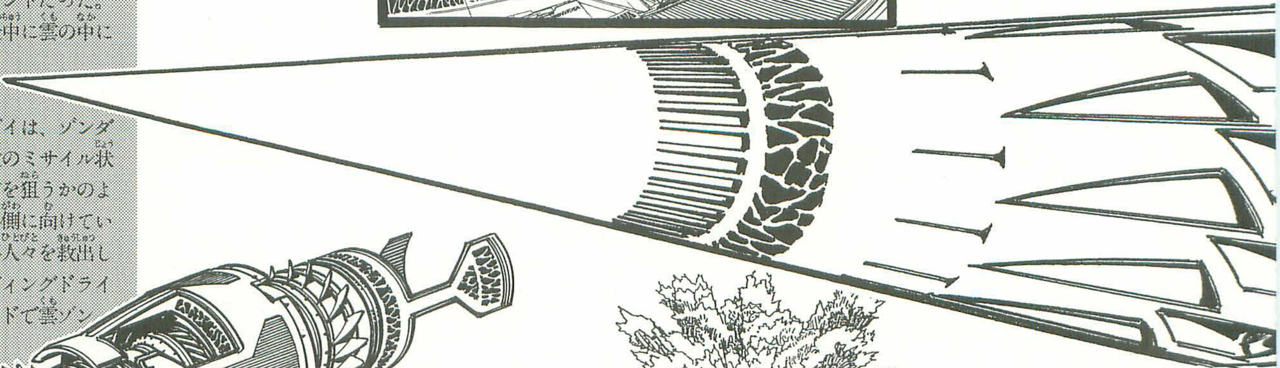
EI-09

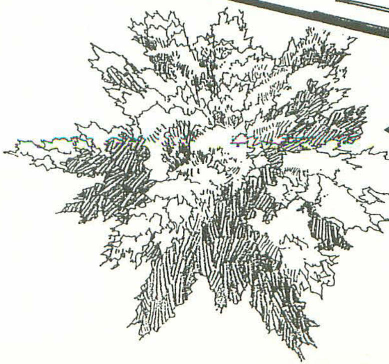
東京上空に突如現れた雲型のゾンダーは、内部に酸素をため込み、次第に巨大化してゆく。光も電波も通さないその雲こそは、ゾンダーの作り出したゾンダー胞子プラントだった。熱気球コンテストの最中に雲の中に閉じこめられた人々を救出すべく、内部に強行突入したガイは、ゾンダーメタルを積んだ無数のミサイル状の胞子が世界中の都市を狙うかのように、その切っ先を外側に向けているのを目撃する。無事人々を救出したガイは、ディバイディングドライバーとイレイザーヘッドで雲ゾンダーを消滅させた。



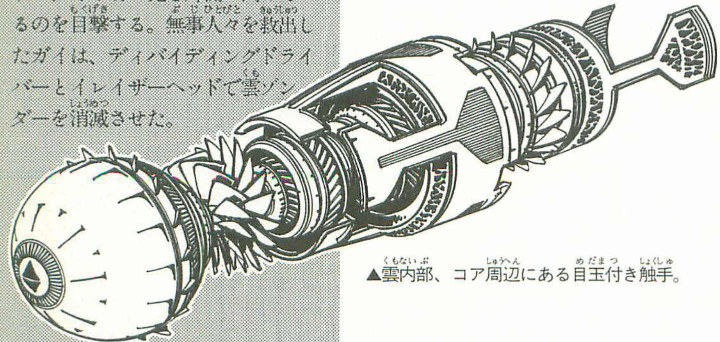
◀雲ゾンダーのコア付近。

▼ラムスクープジェットで推進する胞子。

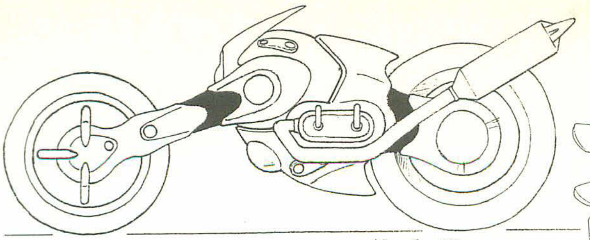




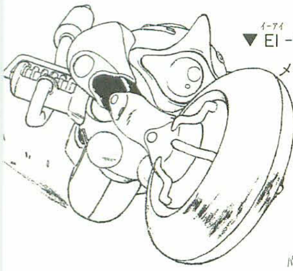
◀ゾンダー胞子のう。



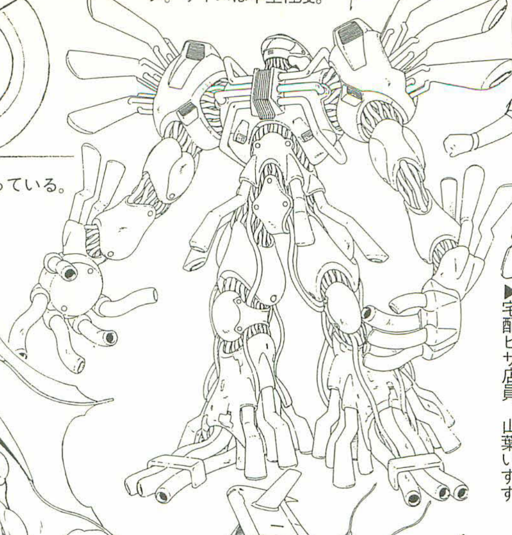
▲雲内部、コア周辺にある目玉付き触手。



▼エンジン(?)が横に出た形になっている。



▼EI-10の第二形態。頭部はヘルメット状だ。



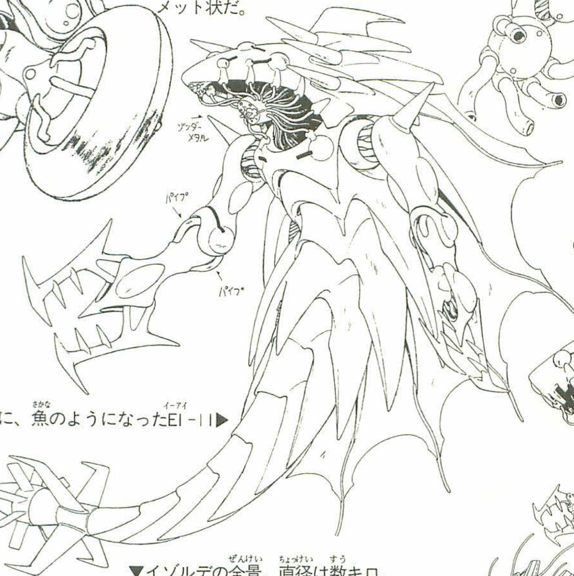
▲EI-10ゾンダーバイク。サイズは中型程度。



▶宅配ピザ店員、山葉いすず

EI-10

従来の巨大ゾンダーと比べ、第一形態が数メートルというバイク型ゾンダー。ゾンダー化した後も、人間に戻ることが可能。都内を暴走し、事故を引き起こしていた。新開発のZセンサーによって追いつめられ、分裂するがコアを特定され破壊される。



深海艇を元に、魚のようになったEI-11▶

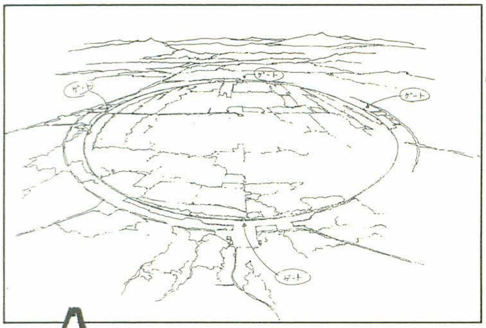


▲潜水艦と融合したEI-11。

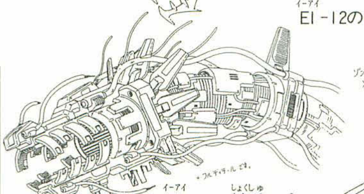
EI-11



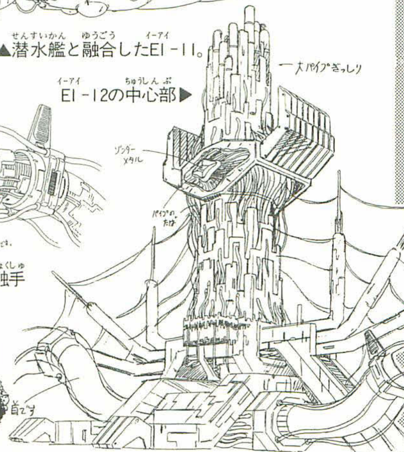
最新深海調査船の船長になれなかった男がゾンダー化したもの。偶然にもマモルが内部に閉じこめられたことから、ペンチノンは、このゾンダーロボと、マモルをマリアナ海溝へと沈めてしまおうと考えた。途中で海上自衛隊の潜水艦も取り込んでいる。



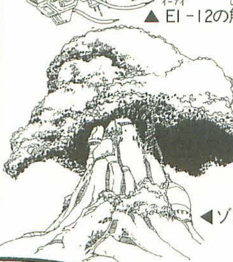
▼イゾルデの全景。直径は数キロ。



▲EI-12の触手



EI-12の中心部▶



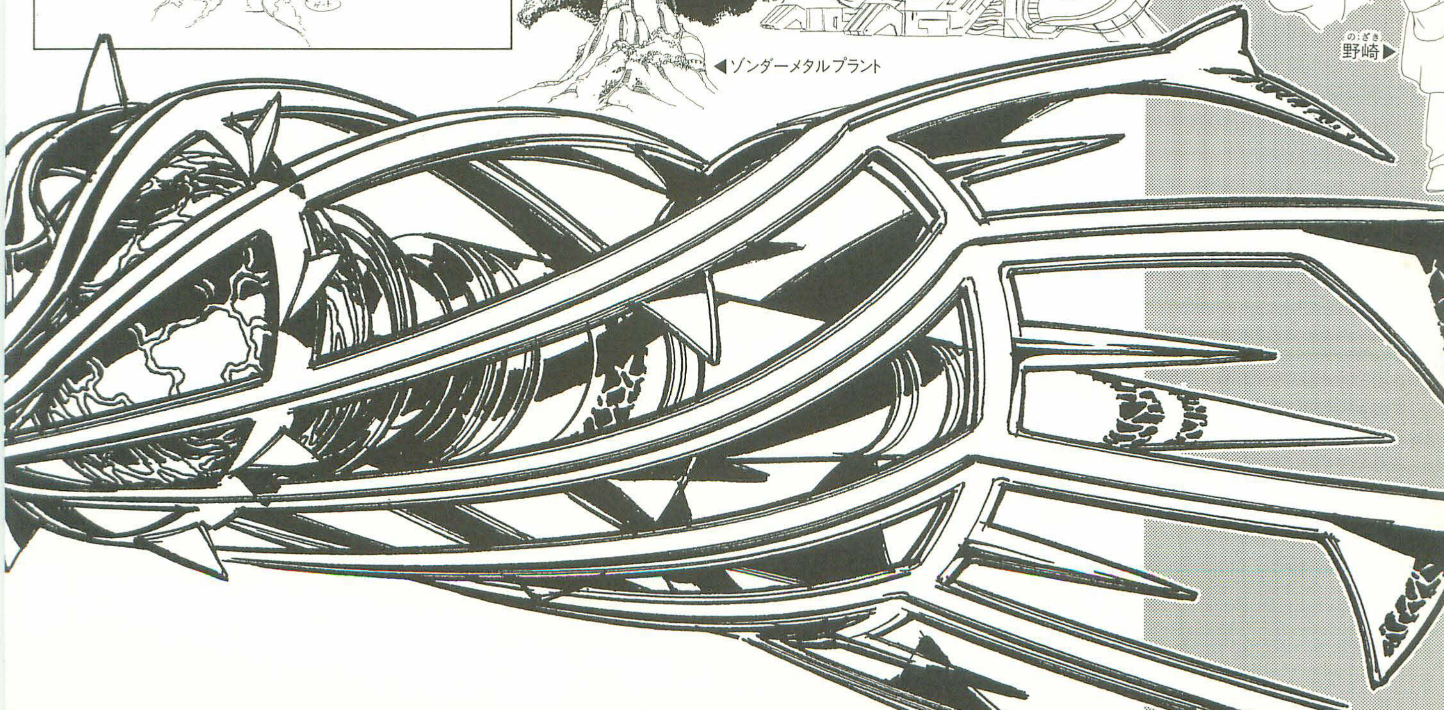
◀ゾンダーメタルプラント

EI-12

機界指令パスダーに操られた獅子王博士の教え子、野崎が作った巨大なゾンダーメタルプラント。もともとは、北海道苫小牧に作られた粒子加速器「イゾルデ」である。主な攻撃手段は電磁波と、龍のような触手。



野崎▶



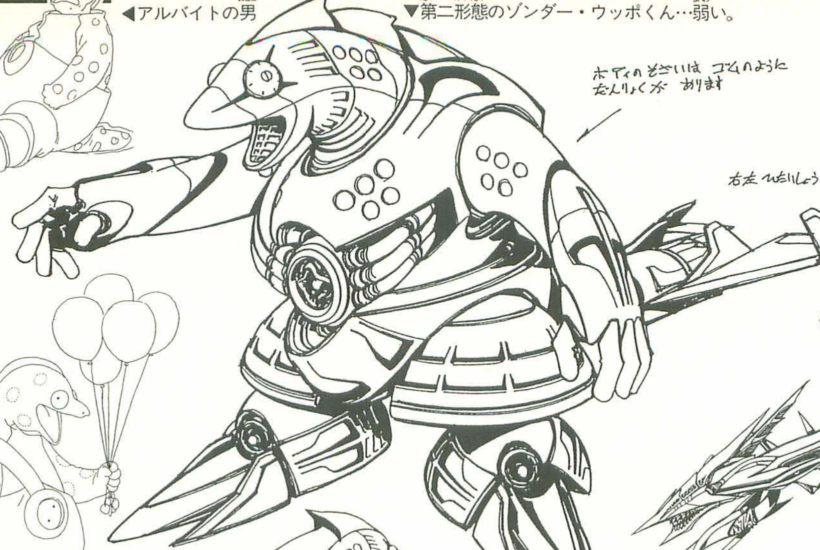
EI-13～EI-16

EI-13

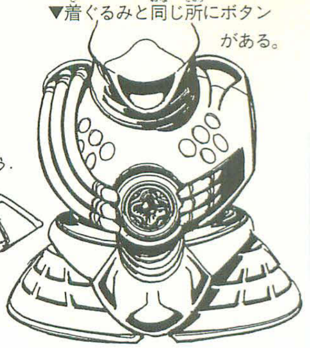


沖縄ウォーターランドのマスコット・ウッポくん。その着ぐるみをつけてアルバイトしていた男がゾンダー化したもの。暑いなかで汗水たらしていた男は、ジェットコースターで遊びたかった。そのちょっとした欲望に、ポロネズがつけこんだ。第一形態のジェットコースター型でギャレオンにしめつけ電磁波攻撃をかけ、破壊寸前までもっていったが、ガオガイガーの圧倒的なパワーの前には、敵ではなかった。

◀アルバイトの男



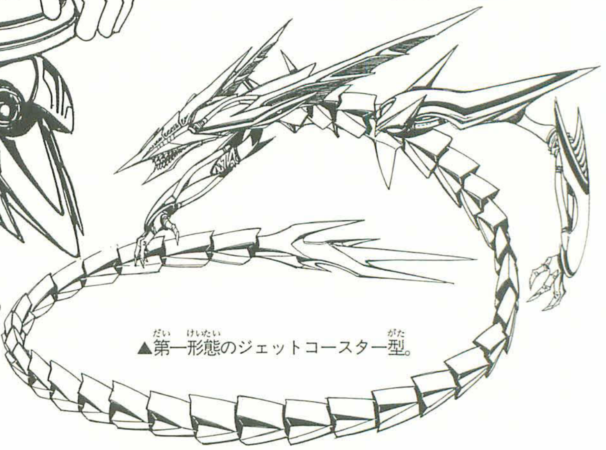
▼第二形態のゾンダー・ウッポくん…弱い。



▼着ぐるみと同じ所にボタンがある。

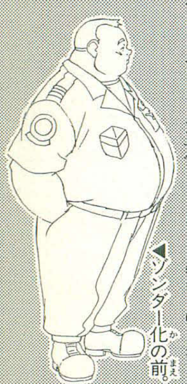


▲これがウッポくんだ。



▲第一形態のジェットコースター型。

EI-14

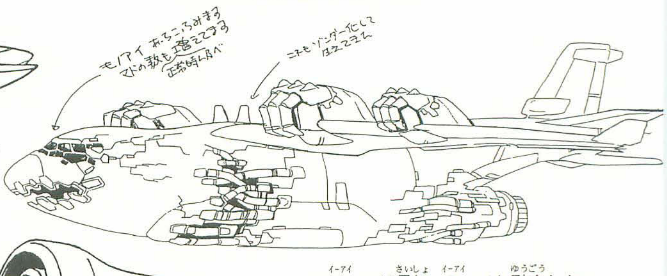


◀ゾンダー化の前。

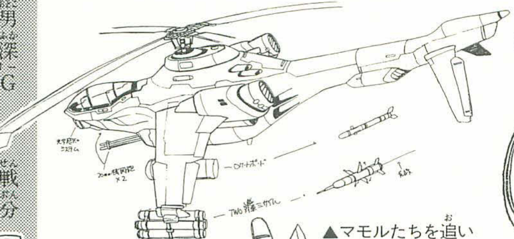
アメリカ空軍の補給部隊にいるシミュレーションおたくの兵隊が、ペンチノンによってゾンダー化させられたもの。いつも自分が将軍だったら、と夢想していた男は、箱根山中の深い霧の中で、GGG諜報部所属のボルフォッグと熾烈な頭脳戦を展開する。自分の乗っていた輸送機につんであった戦車と攻撃ヘリをあやつり、マモルを追いつめ、救助に駆けつけたボルフォッグを相手に危険なシミュレーションゲームを続ける。ジャミング効果のある霧がイレイザーヘッドによって消滅させられると、戦車やヘリと融合してビッグボルフォッグと同じ武装をした人形ロボットに変容する。ただし、ビッグボルフォッグと向かい合っていたため、左右の武装が逆だ。



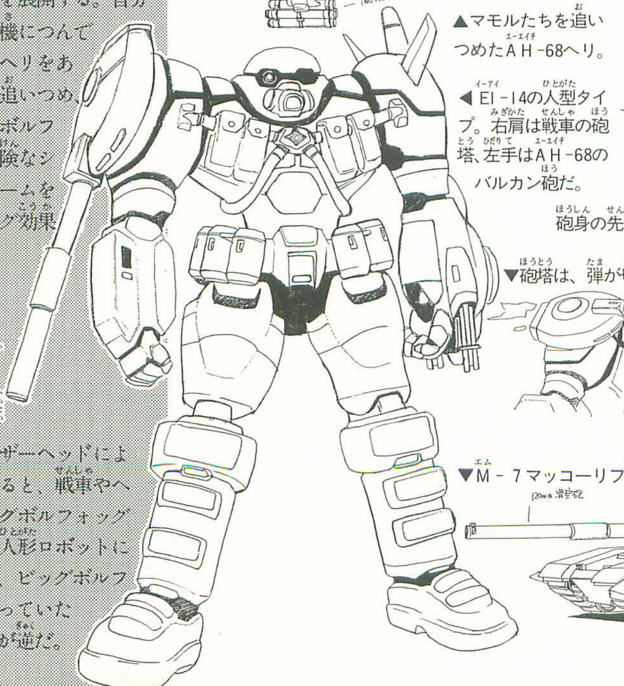
◀ゾンダー化した兵隊。



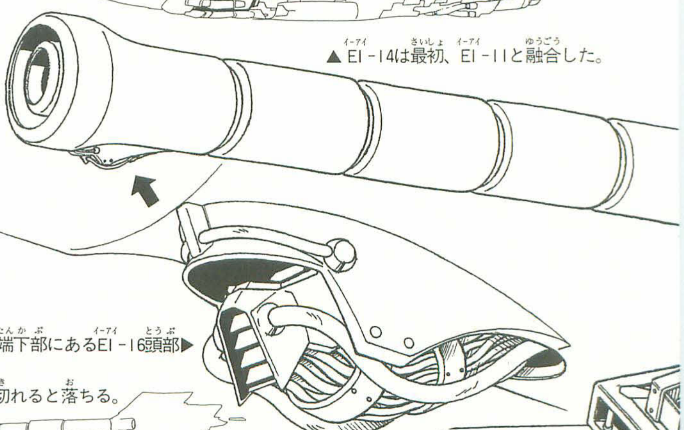
▲EI-14は最初、EI-11と融合した。



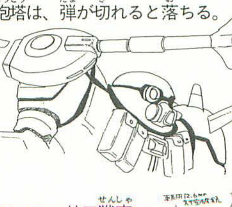
▲マモルたちを追いつめたAH-68ヘリ。



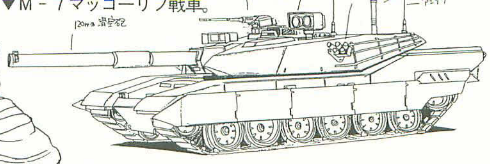
◀EI-14の人型タイプ。右肩は戦車の砲塔、左手はAH-68のバルカン砲だ。



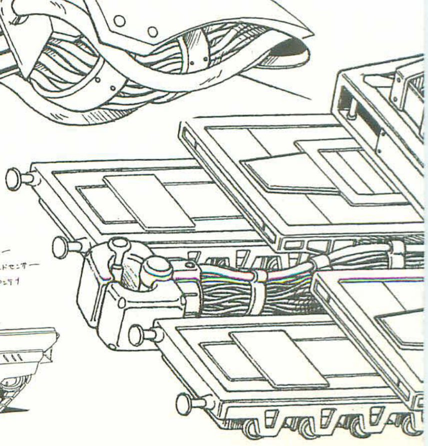
砲身の先端下部にあるEI-16頭部▶

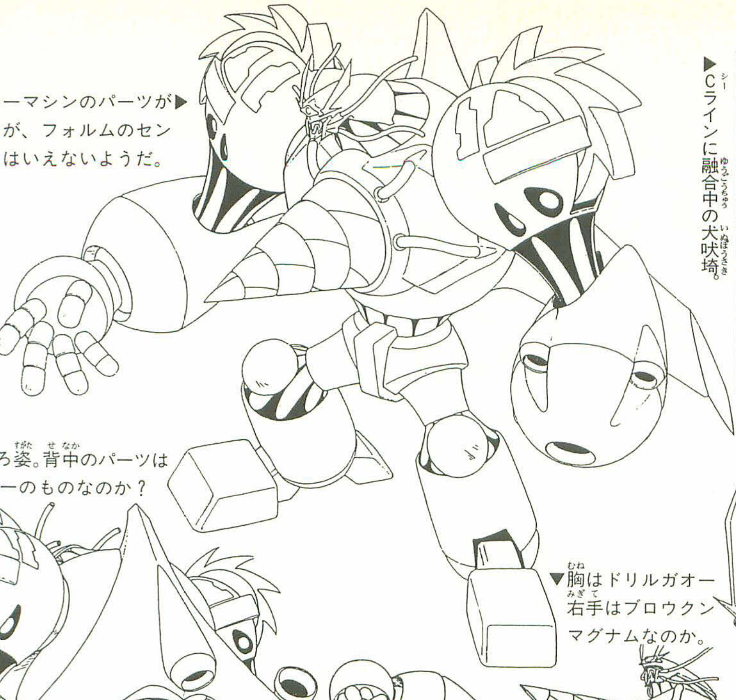


▼砲塔は、弾が切れると落ちる。

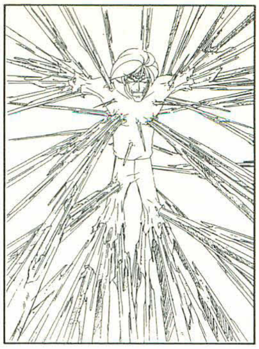


▼M-7マッコーリフ戦車。





の各部分にガオーマシンのパーツが▶
りこまれているが、フォルムのセン
はあまり良いとはいえないようだ。



▶Cラインに融合中の犬吠埼。



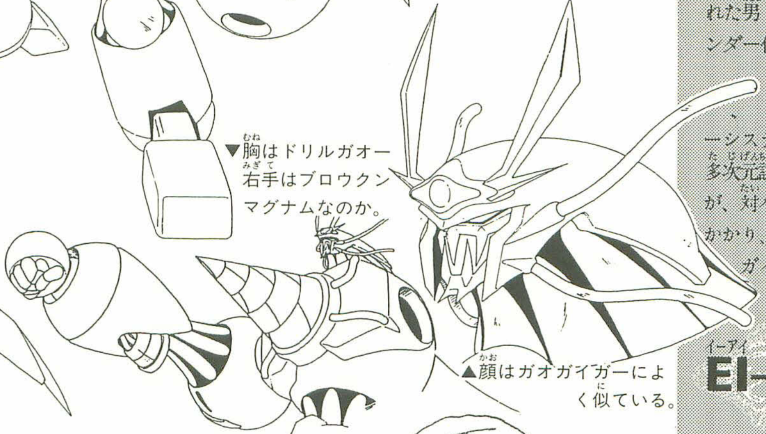
◀もとGGGの犬吠埼。

EI-15

GGGのコンピューターシステム開発主任の座を猿頭寺と争って敗れた男・犬吠埼が、ゾンダー化したもの。ベイタワー基地Cラインに侵入、寄生してコンピューターシステムを乗っ取ったEI－15は、多次元諜報潜水艦にも手を出す。だが、対ハッカー用プログラムに引っかかり、撤退。格納庫にあったガオガイガーの予備部品と融合して、ロボット型となり、海でガオガイガーに挑戦する。



▼EI－15の後ろ姿。背中のパーツはステルスガオーのものなのか？



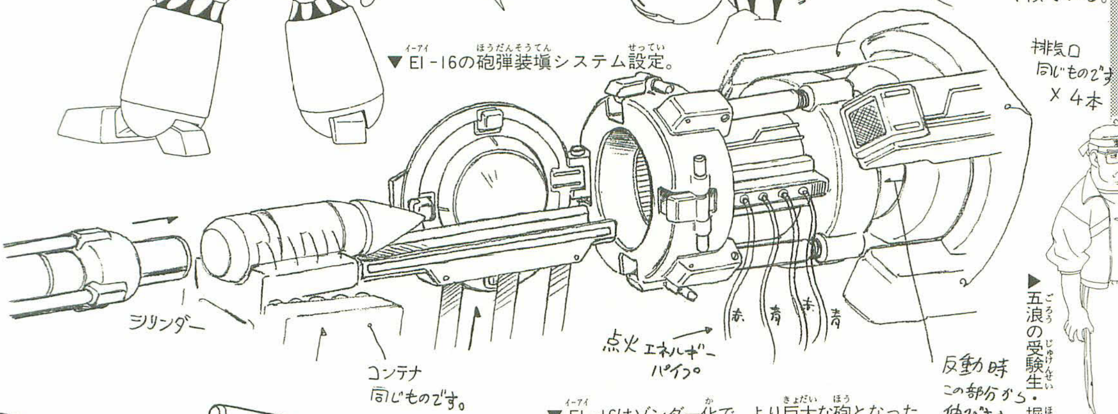
▼胸はドリルガオー
右手はブロウクン
マグナムなのか。

▲顔はガオガイガーによく似ている。

EI-16

大学受験に5回も失敗した男がゾンダー化して、融合したもの。それは、太平洋戦争中にドイツから輸送され、終戦後の混乱で行方不明になっていた巨大列車砲、カール・グスタフだった。射程距離200kmを越える巨大な砲が狙ったのは、有名大学や有名予備校。群馬県榛名山中の廃線となった鉄道のトンネルに隠れていた。――浄解された後、大学には受かったのだろうか？

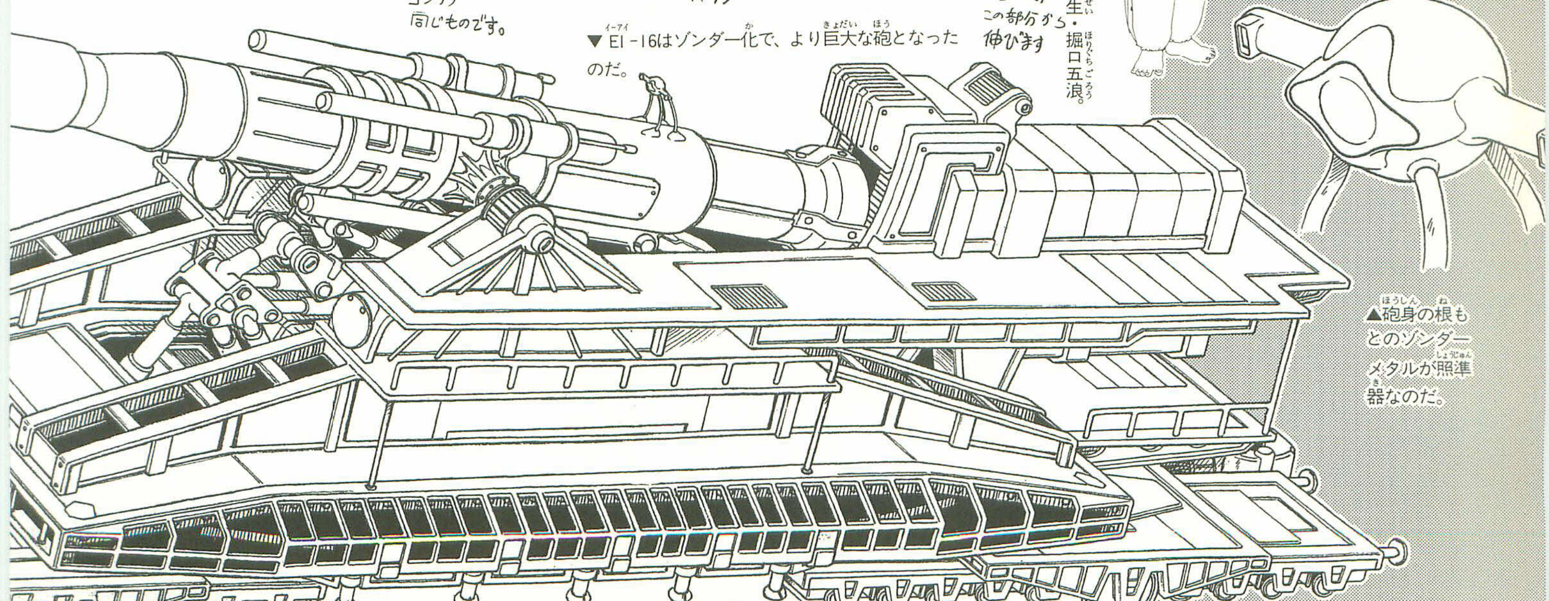
▼EI－16の砲弾装填システム設定。





▶五浪の受験生・掘口五浪。

▼EI－16はゾンダー化で、より巨大な砲となったのだ。



▲砲身の根もとのゾンダーメタルが照準器なのだ。

EI-17~EI-21

EI-17

あまりに太りすぎて、車とぶつかってもケガひとつしない男。大きすぎて、みんなに怖がられてしまう男の悩みにゾンダーがとりついた。巨大なタイヤと化した男は、大阪中を暴走する。やがて第二形態となって巨大化したＥＩ－17は、大阪城前の広場でガオガイガーと決戦するが、あえなく破裂してしまう。だが、その破片はディバイディングドライバーが作った超次元空間を切り裂く。これこそが、プリマーダの秘策だったのだ。

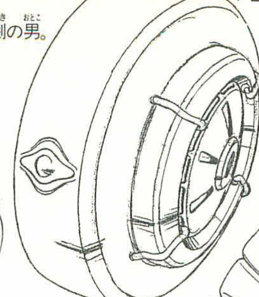


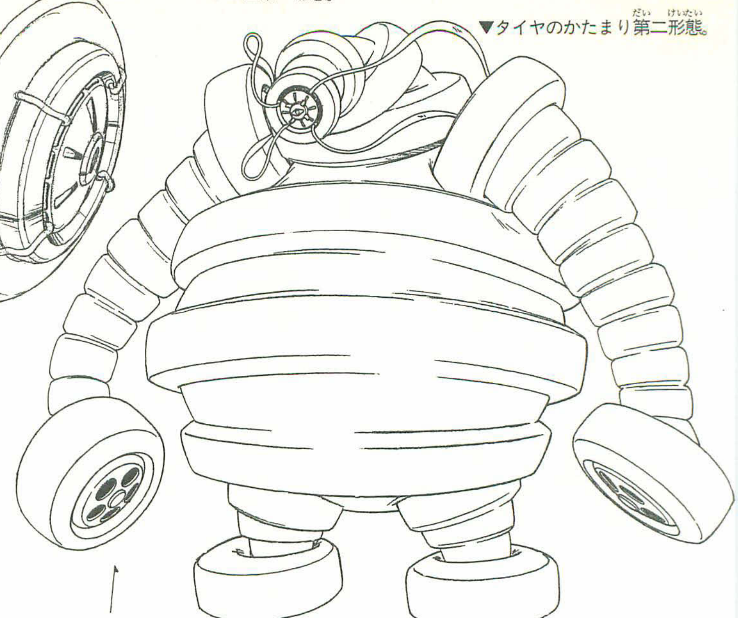
▼太りすぎた悲劇の男。



▲太っているだけで悪気はなかった。

▼ＥＩ－17のタイヤ型第一形態。





▼タイヤのかたまり第二形態。



▶安藤弘二。宇宙開発公団総務部勤務。手品が趣味の26歳。

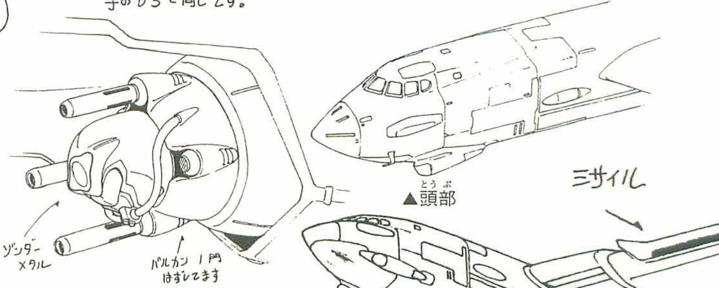
EI-18

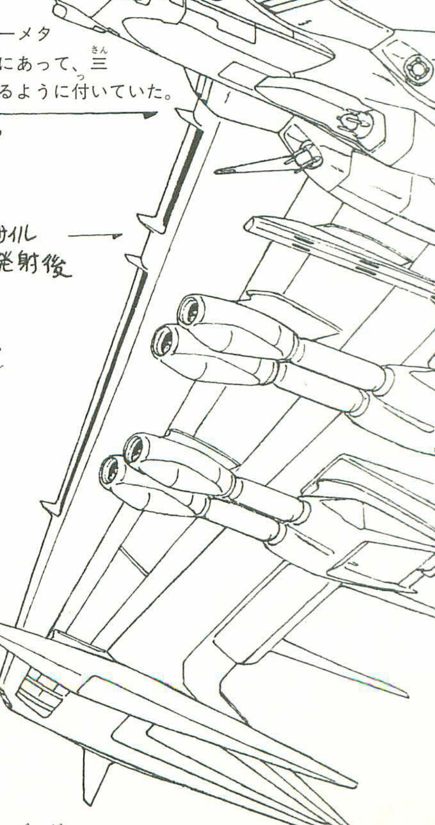
宇宙開発公団ビルに手品師姿の男が現われた。シルクハットからつぎつぎに鳩をとり出すその男こそ、ＥＩ－18だった。マジックのように見えたＥＩ－18の行動は、じつはマイクロゾンダーをバラまくカモフラージュだったのだ。それにとりつかれた公団の職員たちは、恐暴化してビルを荒らし回る。弱点の極超短波によって、職員の体からマイクロゾンダーは離れた。だが今度は寄り集まり、巨大な人型ゾンダーとなった。





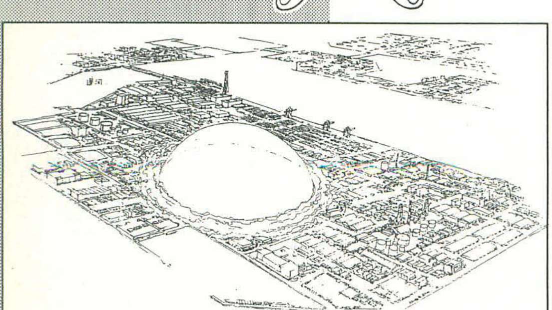
▼頭部はシルクハットのイメージ。



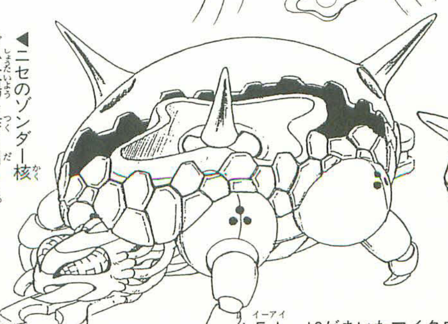


▲頭部

▲ＥＩ－21の下部にあるゾンダーメタルは、機体腹部の銃座の中心にあって、三門のバルカン砲に守られるように付いていた。

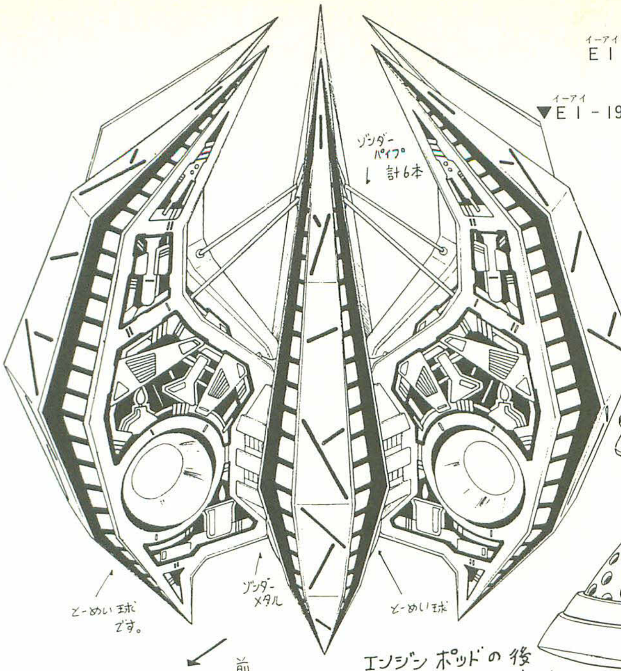


◀ニセのゾンダー核で小太陽を作り出した。

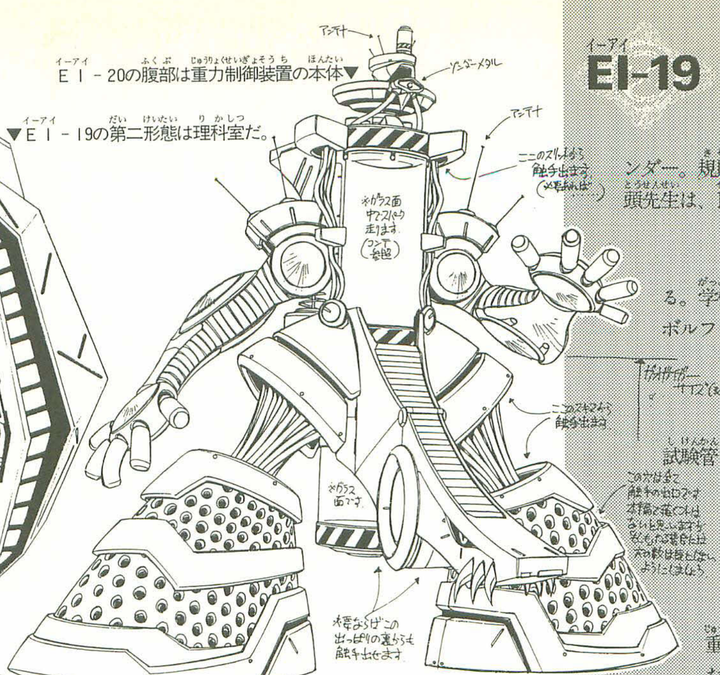


▲ＥＩ－18がまいたマイクロゾンダー。

ＥＩ－20の腹部は重力制御装置の本体▼



▼ＥＩ－19の第二形態は理科室だ。



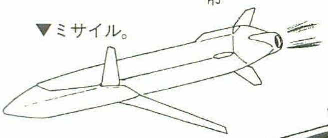
EI-19

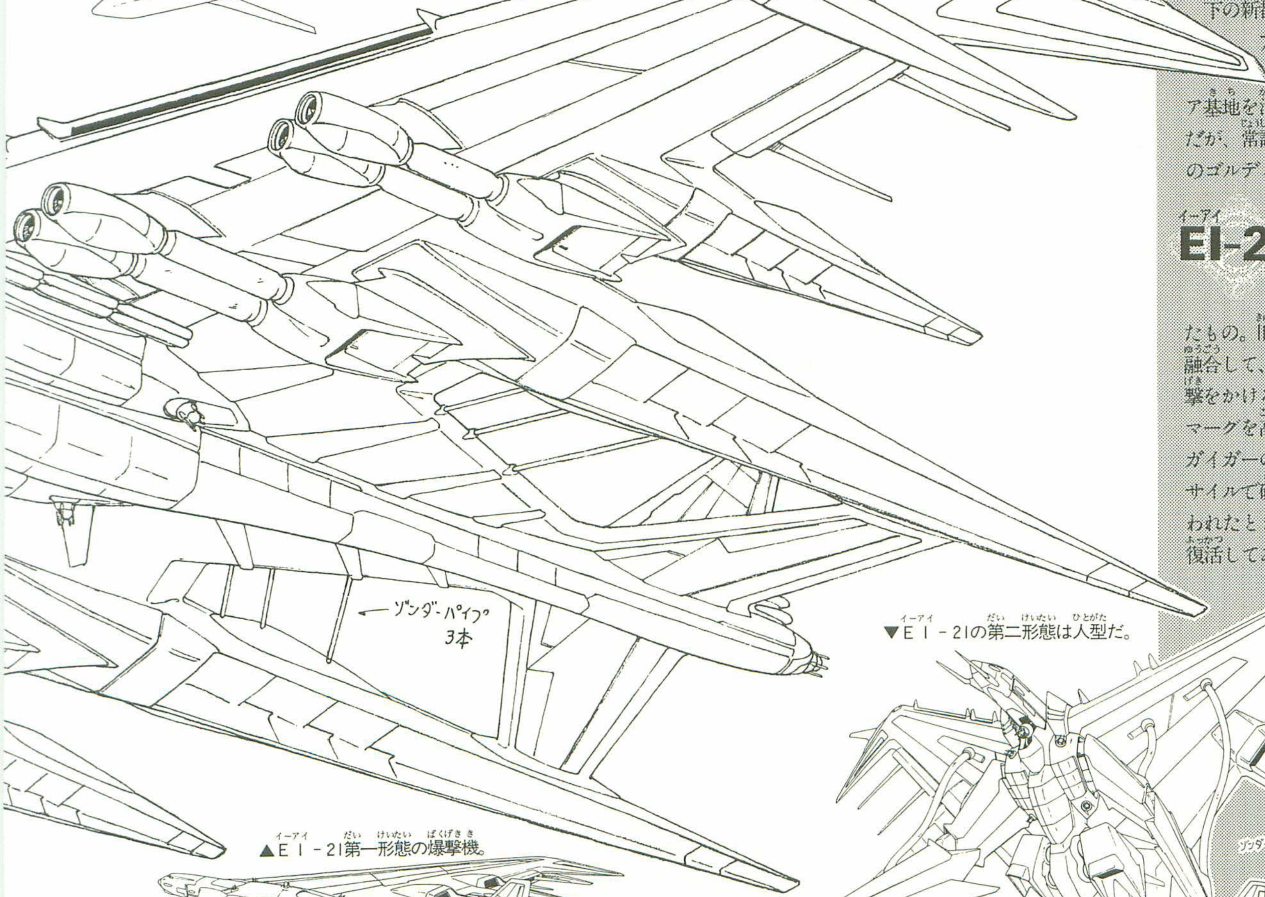
護が通う第一カモメ小学校の教頭先生にとりついたゾンダー。規則にうるさかった教頭先生は、ＥＩ－19となって学校の校舎と融合し、護たちを閉じ込める。学校の異常に気付いたボルフォックの攻撃を受けて、ゾンダー先生は理科室と融合して学校から分離。試験管ミサイルで、猛攻撃をかけてきた。

EI-20

重力制御装置を開発した女性科学者にとりついたゾンダー。装置の発表会で、うまく作動しなかったことを気に病んでいるところをつけこまれたのだ。地下の新都市交通ラインを通ってＧアイランドに侵入。高重力を発生させて、ベイエリア基地を活動不能におとし入れる。だが、常識をはるかに越えたパワーのゴルディーマーグに敗れ去った。

▼ミサイル。

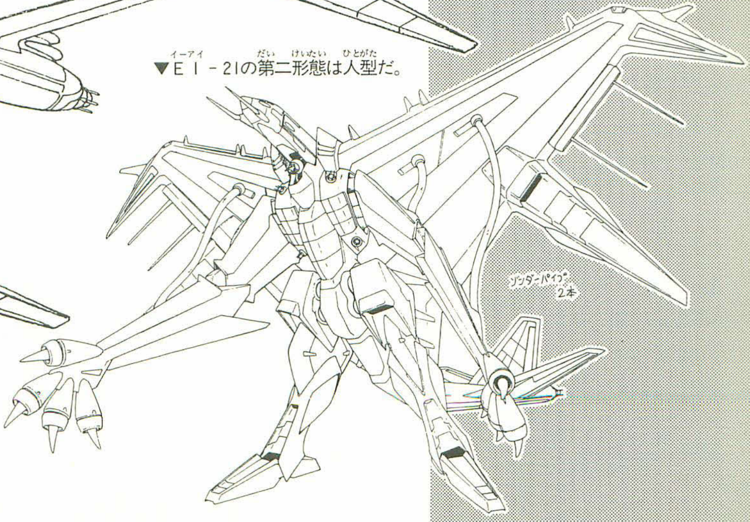




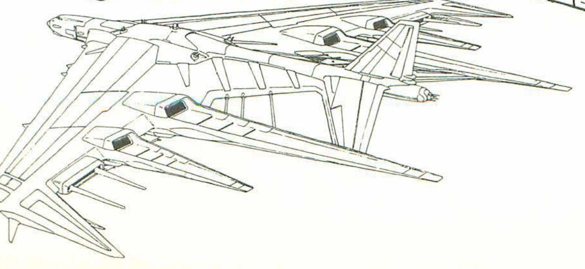
EI-21

航空ショーに来ていた飛行機好きの男がゾンダー化したもの。旧式の戦略爆撃機Ｂ－52と融合して、Ｇアイランドに無差別爆撃をかける。迎撃に出たゴルディーマーグを高空から振り落とし、ガオガイガーのブロウクンマグナムもミサイルで破壊。ゾンダー優位かと思われたとき、男の中の男、マーグが復活してあえなく粉砕されてしまう。

▼ＥＩ－21の第二形態は人型だ。



▲ＥＩ－21第一形態の爆撃機。



GGG勇者大辞典

ゾンダリアンの脅威に敢然と立ち向かうガオガイガーをはじめとする、GGGの驚異のメカニック。ここでは「勇者王ガオガイガー」に登場した様々な人物、専門用語について説明していくこととする。

[あ]

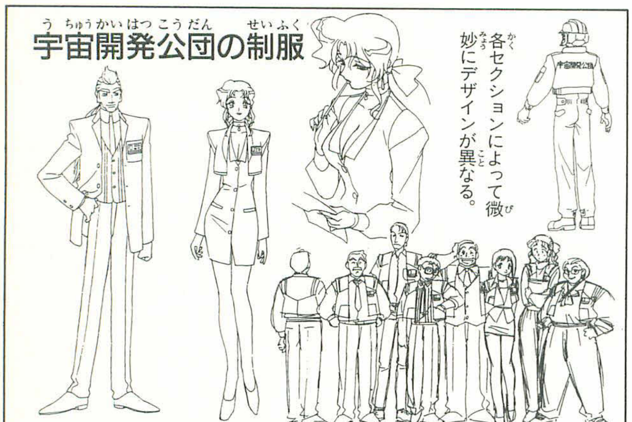
■**天海　愛**：天海護の母。おっとりとしているが、非常時には逆に沈着冷静な行動をとる。植物アレンジメントが趣味。

■**天海　勇**：宇宙開発公団に勤める護の父。現在は2017年完成予定の軌道ステーション・アイランド２の建設に参加中。

■**天海　護**：第一カモメ小学校３年１組に在籍するGGGの特別隊員。ゾンダー感知能力とゾンダーを人間に戻す超能力を持つ。ギャレオンとなんらかの関係があるようだが詳細は不明。

■**あやめ**：華のいとこ。プロレス、バイク、ミリタリーと男っぽい趣味を持ち、乗り気じゃない華を連れまわす。

■**EI**：地球外知性体（エクストラ・インテリジェンス）の略。EI-01はゾンダリアンを指すが、02以降はゾンダーロボの認定呼称ナンバーとなっている。



宇宙開発公団の制服

各セクションによって微妙にデザインが異なる。

■**磯貝　桜**：宇宙開発公団総裁・大河幸太郎の秘書。どぜうすくいの隠し芸を持つ。

■**イゾルデ**：北海道苫小牧にある20テラ電子ボルトの出力を誇るデバトロン型超巨大粒子加速器。パスダーが高エネルギーを利用して、ゾンダーメタルプラントを建造した。

■**犬吠埼**：元弾丸Xの管理責任者。ゾンダー化してGGGベイタワー基地をハッキングし、動力炉暴走を画策した。犬猿の仲の猿頭寺が開発した侵入者撃退プログラムに、手ひどいダメージをくらった。

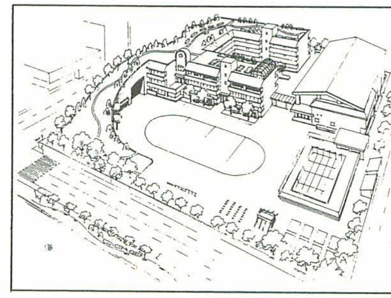
■**イレイザーヘッド**：超振動を利用して、爆発や火炎などのエネルギーを大気圏外へ吹き飛ばすメガトンツール。超竜神が用いる。サイズに通常、L、LLがある。

■**ウィルナイフ**：凱のガオーブレスに収納された熱還元刀。

■**牛山一男**：メカと植物をこよなく愛するGGG整備部所属のオペレーター。メインオーダールームの植物の手入れは彼の担当だ。

■**牛山末男**：護のクラスメイト。兄の一男同様にメカが大好き。上に３人の兄がいるが、全員そっくりである。

■**宇宙開発公団**：日本の宇宙開発の総本山。科学技術庁の下部組織。





第一カモメ小学校の全景と３年１組の先生。名前は不明だ。

Gアイランドシティの中心、宇宙開発公団タワーが本拠地。アイランド内にシャトル打ち上げ施設を持つ。

■**卯都木命**：GGG機動部隊オペレーター。2003年のEＩ-01の落下で発生した火炎によって、両親を亡くしている。特徴のある髪型は獅子王麗雄博士の発明品・クリアヘアバンドによるもの。静電気で髪をまとめるため、通常では不可能なラビットヘアも簡単に形成することができる。

■**うわっはぁ！**：護の口ぐせ。父の勇も使うところをみると、どうやら親譲りの口グセのようだ。

■**猿頭寺耕助**：GGGチーフオペレーター兼諜報部オペレーター。ほとんど帰宅しないため不衛生。隣に座るスワン・ホワイトからは「たまには家に帰らないと、猿頭寺チーフみたいに悲惨なことになってしまいマース！」とまで言われている。

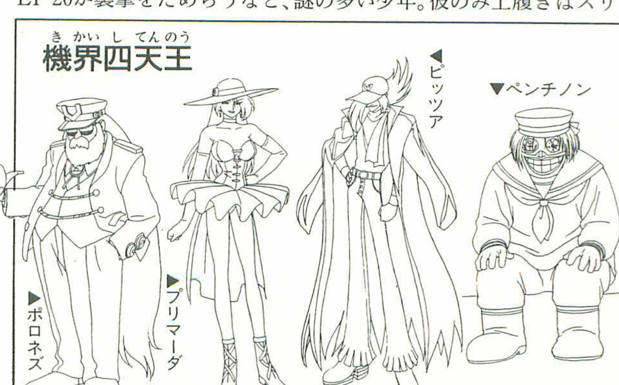
■**炎竜**：GGG機動部隊所属のビークルマシーン。同一規格の氷竜にくらべて、ミラーカタパルト射出後のランディングがへたである。

[か]

■**カインの遺産**：ゾンダリアンが、ギャレオンをはじめとするGストーンなどのオーバーテクノロジーを指す総称。

■**ガイガー**：凱がギャレオンに収納され、敏捷性に秀でた格闘専用人型形態に変形した姿。

■**戒道幾巳**：護のクラスメイト。無口で無表情。小学校と融合したEI-20が襲撃をためらうなど、謎の多い少年。彼のみ上履きはスリッ



機界四天王

パという部分も謎のひとつだ。

■**ガオガイガー**：ガイガーと3機のガオーマシンがファイナルフュージョンした、スーパーメカノイドの名前。

■**ガオーブレス**：凱の身体機能を制御するGストーンの能力を、最大限に発揮するために作られた。プロジェクションビームを投影し、ギャレオンを呼ぶことが可能。

■**ガングルー**：火麻激が事件現場直行に、ほとんど私物のように使うGGG諜報部所属のヘリコプター形態のガンマシン。

■**ガンドーベル**：GGG諜報部所属のバイク形態のガンマシン。凱が移動、護の送り迎えに使用することが多い。前後の車輪のホバリング機能を利用した飛行能力を持つ。変形してビッグボルフォッグの右腕になる。

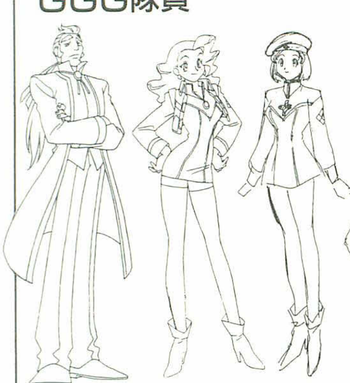
■**機界四天王**：パスダー配下のゾンダリアン幹部4人の総称。機械ではなく機界が正しい。

■**ギャレオリア彗星**：1997年に突如出現した彗星。凱はシャトルからこの彗星の観測をおこなう予定だった。

■**ギャレオン**：1997年に地球に飛来して天海夫妻に護をたくした。天海夫妻が北極ライオンと呼ぶ宇宙メカライオン。2003年に再び地球に飛来。以降は機能停止状態で2005年の突然の活動再開まで三段飛行甲板空母のギャレオンルームに格納されていた。人類にGストーンほか数々のオーバーテクノロジーをもたらした。

GGG隊員

GGG隊員の制服は男性はつなぎの上に、女性はワンピースのミニスカートにベストを着用する。医療部、諜報部は特殊なものとなっている。大河長官も公団総裁の服とは異なるものを着用する。





■**強襲揚陸補給船**：通称エリアⅡ。GGG機動部隊所属のコンテナエリア。作戦行動をおこなう、機動部隊の消耗品の補給を目的として設計された。コンテナ状のメタルロッカールームにスペースを大きく割いているため、ハイパーツール射出用にミラーカタパルト設備がつめず、爆裂射出カタパルトが装備されることになった。

■**グランドノヴァ**：EI-18のにせゾンダー核とガオガイガーのヘル・アンド・ヘブンのエネルギーの衝突による爆発で発生した小型太陽。内部ではマイクロゾンダーの爆発による莫大なエネルギー反応が発生していた。そのエネルギー量はイレイザーヘッドの連続発射でも消滅させることが不可能。ゾンダリアンはこのエネルギーを利用して、ゾンダーメタルプラント建造を画策していた。

■**護衛キット**：護の護衛を任務とするボルフォッグが装備する特殊キット。№14は護隊員専用耐熱服である。

■**コスモロボ**：マイク・サウンダース13世が、その強力な攻撃能力を悟られないために施すコミカルなカモフラージュ形態。

■**狐森レイコ**：護のクラスメイト。常に一番じゃないとすまないほどプライドが高い。特技は火事場のバカ力。

■**ゴルディオンハンマー**：ゴルディーマーグが背中に装備するガオガイガー最大最強のツール。内閣総理大臣の承認、安全装置解除後にはじめて使用可能となる。

■**こわくない**：三度唱えるとこわくなくなる華のおまじない。あまり効果はない。このおまじないを使うきっかけを作ったのは護であるらしい。

[さ]

■**三式空中研究所**：GGG研究開発部所属のエリア。通称エリアⅥ。反重力装置ウルテク・エンジンを搭載する。

■**三段飛行甲板空母**：GGG機動部隊所属のエリア。通称エリアⅠ。

■**Gアイランドシティ**：東京湾に建設された研究都市。宇宙開発公団タワーを中心にあらゆる住環境が整備されている。

■**GSライド**：ギャレオンのシステムをコピーして開発した、Gストーンからエネルギーを抽出するシステム。

■**獅子王凱**：GGG機動部隊隊長。人類初のサイボーグ戦士。

■**獅子王雷牙**：アメリカにいる、凱の叔父。プライヤーズ、マイク・サウンダースシリーズの開発者である。弟の麗雄とは仲が悪い。ジェットスケボーを常に装備している。

■**獅子王麗雄**：GGGスーパーバイザー兼研究開発部部長。あらゆる科学分野に造詣が深い。自動耳かき装置、自動昆布茶煎れ機、自動食事装置といった珍発明を考え出すことが趣味。メインオーダールームの博士のコンソールのモニターは、博士のモニターはひとつで十分というポリシーから、ひとつしか機能していない。決してジェットローラースケートで壊したわけではない。

■**浄解**：ゾンダー化した人間を元に戻すうえ、心まで癒してしまう護の超能力。その原理はまったく不明である。

■**承認**：ファイナルフュージョン、シンメトリカルドッキングなどの合体変形、ゴルディオンハンマーの使用は、内閣に全権を委任された大河長官の承認を得なくてはおこなうことができない。

■**水陸両用整備装甲車**：GGG整備部所属のエリア。通称エリアⅣ。

■**ステルスガオー**：ステルス偵察機を模したガオーマシン。他のマシンを空輸するマルチパイロンを装備する。

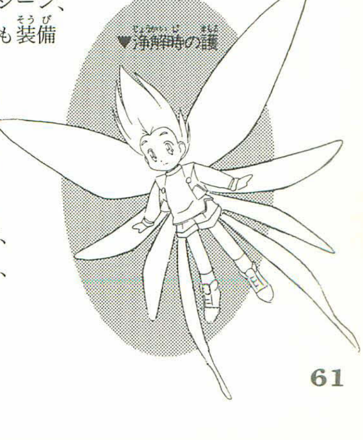
■**数納鷹泰**：護のクラスメイト。金持ちであることを自慢するが、いつも狐森レイコにやりこめられる。喜怒哀楽あらゆる感情の変化のたびに落涙するという特技を持つ。

■**スピリッツ号**：凱がギャレオリア彗星観測のために搭乗したスペースシャトル。オートマチック化が進んでおり、乗員は1名。

■**GGG**：GGGと書いてスリージーと読む。内閣総理大臣直属の地球外生命体の脅威からの防衛を目的とした秘密組織。正式名称はガッツィ・ジオイド・ガード［地球防衛勇者隊］である。

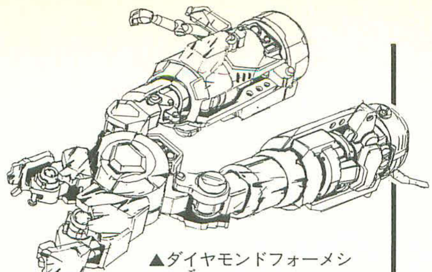
■**GGG機動部隊**：ゾンダーによる侵略行為を実力行使で防衛する部隊。ガオガイガー、ビークルマシーン、ハイパーツールと、GGG内でも最も装備が多彩である。

■**GGG機動メカ交換パーツ格納庫**：Cライン上部に位置するガオガイガーなどのスペアパーツ格納庫。ゾンダー化した犬吠埼が、格納されたパーツを利用した。氷竜、炎竜が使うペンシルランチャーと、専用カートリッジも格納されており、ここで装備後出撃する。



▼浄解時の護

■**GGG諜報部**：情報収集、索敵、要人警護といった任務をおこなう部署。GGGメインコンピューターから独立した、世界最高水準の情報収集力を誇る多次元諜報潜水艦を配備している。



▲ダイヤモンドフォーメーション後のプライヤーズ。

■**GGGバリアリーフ**：GGGベイタワー基地のBラインを指す。中央部のヘキサゴンに6機のエリアが結合された形状の名称である。この状態で海中を移動することが可能。

■**GGGベイタワー基地**：Gアイランドシティの中心、宇宙開発公団の真下に位置するGGGの本拠地の名称。構造上中央を貫通するシャフト内のエレベーターで移動する。このエレベーターは宇宙開発公団タワーと直結している。また、GGG隊員は表向きは宇宙開発公団の職員ということになっている。この事実は親にも言えない最重要機密なのだ。

■**GGGポケベル**：GGG隊員が常に携帯するポケベル。

■**GGG憲章**：2003年のGGG発足にともない編纂された。その作業には大河長官の意見が取り入れられていると聞く。

【さ】

■**スワン・ホワイト**：GGG研究開発部所属のオペレーター。語学に長けていて、スワヒリ語、ヘブライ語も巧みに話す。ナイスバディのためセクハラされやすい弱点を持つ。チョッパースタイルのバイクを駆る筋金入りのバイクマニア。兄弟がアメリカにいる。

■**Zセンサー**：ゾンダリアンおよびゾンダーが発する素粒子ZOを検出するセンサー。諜報部の猿頭寺耕助が開発した。その改良型がボルフォッグに内蔵されている。

■**ゾンダー**：ゾンダリアンによってゾンダーメタルを埋め込まれ、変容した人間を指す。通常はすぐに他の機械と融合するが、融合する前でも電撃と触手を使った攻撃能力を有している。

■**ゾンダーメタル**：高度な知性を誇った機械文明が産み落としたという不死を約束するサーキット。生命体と有機結合する。負の感情を持つ者との有機結合に適しているらしい。イゾルデ攻防戦において、ボルフォッグがサンプルを採集している。ガオガイガーほかGGGの機動メカ群が融合されない原因は、Gストーンを内蔵しているからのようだ。

■**ゾンダーメタルプラント**：製造工程上、大量のエネルギーを必要とするゾンダーメタルの製造工場。これまでに粒子加速器イゾルデ、グランドノヴァを利用したプラントが確認されている。

■**ゾンダリアン**：パスダー、機界四天王を指す。GGGはゾンダー化した人間の事情聴取、イゾルデ攻防戦での接近遭遇から、人間をゾンダー化する存在として四天王を確認しているが、パスダーの存在には気づいていない。

【た】

■**大河幸太郎**：GGG長官。表の顔として宇宙開発公団総裁の肩書きを持つ。GGG設立に大きく貢献し、その陣容には彼の意見が多く採用されている。私生活を表に見せない紳士である。

■**ダイヤモンド・フォーメーション**：ゴルディーマーグ開発途中に見せたガオガイガー、氷竜、炎竜、ビッグボルフォッグ、プライヤーズによる協力技。ガオガイガーがディバイディングドライバーで戦闘フィールドを形成。次にビッグボルフォッグが必殺！大回転魔弾でゾンダーの注意をひきつけている間に、ゴルディオンハンマーを起動。ディメンジョンプライヤーとツールコネクトを完了したガオガイガーがハンマーでゾンダーを攻撃する。超竜神がパワークレーンとパワーラダーによる簡易ミラーカタパルトを形成。ビッグボルフォッグが自らにミラーコーティングをおこない射出、ゴルディオンハンマーにより光に変換しはじめたゾンダーから、ゾンダー核を奪取する。EI-20に対して使用した。

■**多次元コンピューター**：GGGメインコンピューターから独立したシステムを持つ多次元諜報潜水艦のコンピューター。

■**多次元諜報潜水艦**：GGG諜報部所属のエリア。通称エリアV。

■**弾丸X**：獅子王麗雄博士が管理するエリアⅢの俗称。その使用目的は機密扱いとなっている。最初の管理責任者は犬吠崎であった。

■**地球防衛勇者隊→GGG**

■**チタンヘッドドライバー**：大河長官の必殺ツール。EI-18の放ったマイクロゾンダーに操られた宇宙開発公団職員を鎮圧するべく使用した。その正体はゴルフのドライバーである。

■**チョベリカチョロン様**：狐森レイコが憧れのまなざしとともに、呼ぶ凱の別名。超ベリイカッチョイイロンゲ様の略である。



凱のトランクの中身。

■**超分身殺法**：ビッグボルフォッグの攻撃技。両腕に変形したガングルー、ガンドーベルを瞬時に分離し、三方向から敵を攻撃する。対EI-14戦ではじめて使用した。

■**超竜神**：氷竜と炎竜のシンパレイトが90%を越えた時にはじめて可能となる、シンメトリカルドッキングによって誕生する重機動ビークルロボ形態。腰に装着したパワークレーンとパワーラダーを衝撃緩衝に用いてイレイザーヘッドを使用する。

■**ディバイディングドライバー**：人口密集地での戦闘を想定して開発された、ガオガイガーの左腕に装着される空間湾曲用ハイパーツール。左腕の防御エネルギーを増幅し、ドライバー状先端部より空間的な反発エネルギーと拘束エネルギーを発生し、最大直径数十キロを凝縮、湾曲させて戦闘フィールドを作り出す。一定時間で戦闘フィールドは自然消滅、回復する。

■**ディメンジョンプライヤー**：獅子王雷牙博士が開発した空間修復用ハイパーツール。DP-C1、DP-R2、DP-L3の3体のロボット・プライヤーズが合体変形した姿でもある。プライヤーズはAIを搭載しているが、空間湾曲修復に必要な膨大なデータシステムを内蔵しているため、音声による意志疎通はできない。

■**電磁竜巻**：ファイナルフュージョン時にガイガー腰部より発生させるE.M.T.フィールドのこと。合体時の無防備状態での敵攻撃を回避する。

■**トランク**：宇宙開発公団職員として凱が活動中に、非常事態が発生した場合に、ただちにアルティメットアーマーを装着できるように用意された、アーマー収納用トランク。

■**ドリオガオー**：地底戦車形態のガオーマシン。

【な】

■内閣総理大臣：GGGの頂点に立つ存在。大河長官のさまざまな承認作業は、すべて総理大臣の代行作業にあたる。

■野崎通：パスダーのイゾルデゾンダープラント化計画遂行のため、おのれの研究意欲を逆手にとられて、ゾンダー化された研究所の所長。イゾルテと融合し、巨大ゾンダーロボとなった。



GGG隊員正装

GGG隊員が国会召集、開発公団関連の催しに参加する際は、図のような正装をする。

【は】

■ハイパーモード：凱の両側頭部の超高性能チューブ型燃料電池＝エネルギー・アキュメーターを引っ張ることで、戦闘形態イークイップモードよりも出力を15％アップした力を発揮することが可能だ。その持続時間は３分間で、サイボーグ体にもかなりの負荷がかかる。グランドノヴァからの脱出時にガオガイガー体内でも使用した。

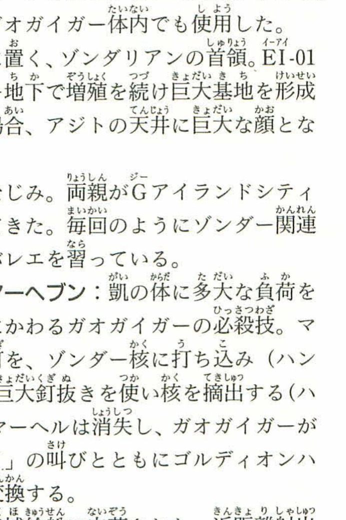
■パスダー：機界四天王を配下に置く、ゾンダリアンの首領。EI-01として地球に飛来後、東京タワー地下で増殖を続け巨大基地を形成した。四天王への指示を与える場合、アジトの天井に巨大な顔となって出現する。

■初野華：護の北海道以来の幼なじみ。両親がGアイランドシティに店を出すことになり引っ越してきた。毎回のようにゾンダー関連の事件に巻き込まれてしまう。バレエを習っている。

■ハンマーヘル・アンド・ハンマーヘブン：凱の体に多大な負荷をあたえるヘル・アンド・ヘブンにかわるガオガイガーの必殺技。マーグハンド車軸内の光でできた釘を、ゾンダー核に打ち込み（ハンマーヘル）、マーグハンド上面の巨大釘抜きを使い核を摘出する（ハンマーヘブン）。核摘出後、ハンマーヘルは消失し、ガオガイガーが核を保護。すかさず「光になれ！」の叫びとともにゴルディオンハンマーで、ゾンダーロボを光に変換する。

■爆裂射出カタパルト：強襲揚陸補給船に内蔵された、近距離射出用カタパルト。通常はツール類の射出に用いるが、対EI-22戦において、想像を超える頑強なボディを持つゴルディーマーグの射出をおこなっている。

■バリバリーン：コスモロボ形態のマイク・サウンダース13世が搭乗する円盤。前部の文字どおり口にあたる部分は開閉可能で、多数の人員の輸送が可能。ブームロボ形態時に変形してスタジオ７となる。



▼氷竜、炎竜のAIボックス。

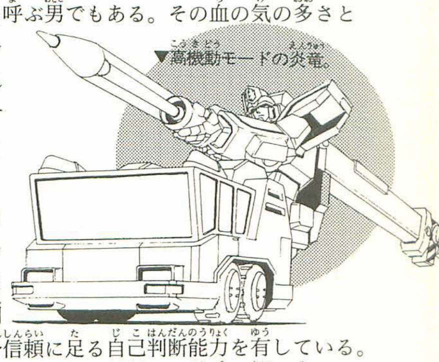
■ピギー：ビッグオーダールームに常駐する給仕ロボット。オーダールームに待機するビークルマシーンに燃料や冷却液を給仕する。

■ビッグオーダールーム：Bライン内にあるビークルマシーンも収容可能な巨大作戦司令室。メインオーダールームがメインシャフトを降下してきて、ビッグオーダールームに直結する。この作業を担当しているのがスワン・ホワイトである。

■ビッグボルフォッグ：ボルフォッグがガングルー、ガンドーベルと三身一体の合体変形をおこなった姿。

■ピッツァ：機界四天王のひとり。戦士としての誇りを持ち、戦いで引き分けた凱を強く意識している。ペンチノンと共にマモル抹殺を主軸にすえた作戦を展開するが、ときたま凱を意識して使命を忘れることがある。

■火麻激：GGG作戦参謀兼戦略アドバイザー。2004年にアメリカ防衛軍での引継ぎ作業を終えて、GGGに赴任してきた。大河長官とは戦友で、唯一〝幸ちゃん〟と呼ぶ男でもある。その血の気の多さと頑固な性格は、きちんとゴルディーマーグへと受け継がれている。興奮して通信機をすぐオシャカにするため、いくつも予備を携帯している。



▼高機動モードの炎竜。

■氷竜：炎竜と同一規格のGGG機動部隊所属のビークルマシーン。そのAIの育成には初起動後６ヶ月という長期間が費やされているが、その分信頼に足る自己判断能力を有している。炎竜よりも少し早めに覚醒したことで、炎竜から双子の兄と見られている。

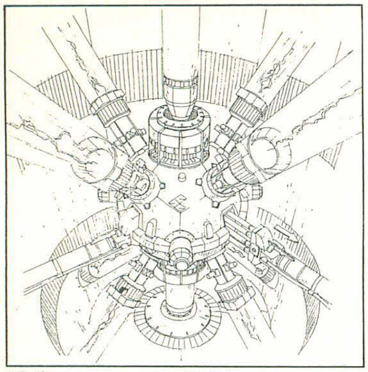
■ファイナルフュージョン：ガイガーと３機のガオーマシンが合体変形してガオガイガーとなる行為を指す。合体制御プログラムの毎回の更新で合体変形時間の短縮が計られている。

■ファイナルフュージョン・マニュアル：ガオーマシンに人間が搭乗し、マニュアル操縦によるガオガイガーへの合体変形をおこなうことを指す。EI-15によるハッキングから逃れるべくプログラムを初期化したため、ファイナルフュージョン・プログラムの起動が不可能となり実行された。ステルスガオーに火麻参謀、ライナーガオーに獅子王博士が、ドリルガオーに牛山隊員がそれぞれ搭乗した。その状態ではファイナルフュージョン成功の確率は30％であったが、猿頭寺チーフによるサポートを受けることで、確率は60％に上昇。残りの40％は10％ずつを凱たち４人が勇気で補うことで成功している。緊急時のファイナルフュージョン時に人員が搭乗することは考えられていないため、合体完了後はコクピットの上下逆転などはそのままの状態であった。搭乗員がいる場合、ドリルニーによる攻撃を避けた凱の判断力は評価されるべきであろう。

■フライ１：多次元諜報潜水艦先端に位置する緊急脱出用小型飛行艇。小型といってもその大きさは、ビークルマシーン１機を収納できるほどの広さがある。

■プライヤーズ：アメリカの獅子王雷牙博士が開発したハイパーツール。合体変形して空間修復ツール・ディメンジョンプライヤーとなる。その修復システムが膨大ため、会話機能はつけられなかったが、勤勉なDP-C1、DP-R2に比べて、DP-L3がややひょうきんな動作をするなど、AIの性格付けに若干の差異が見受けられる。

■プリマーダ：機界四天王のひとり。独特の美的感覚でガオガイガ



GGGベイタワー基地の動力炉。

ー、氷竜たち機動メカを醜いと断言する。EI-20を使ってのGGG壊滅作戦時、ゴルディーマーグと初遭遇し、GGGのなかでも〝マシなほう〟と判断をくだしている。

■プロジェクションビーム：凱がギャレオンを呼び出す際に、ガオーブレスから投影する巨大なライオンマーク。通信不可能の状態でもギャレオンの召喚が可能だ。

■ブロウクンマグナム：ガオガイガーの通常攻撃用装備。高速回転させた右腕をロケット噴射で射出する。射出後は遠隔操作が可能で、その攻撃力はゾンダーのバリアを容易に破壊し、目標を粉砕する。対EI-07戦では、回転力を利用して地中を掘り進み、07を足下から攻撃。重油を内蔵する07を海中へ追いやることに成功している。また、回転力を利用して敵の攻撃を受け流す防御方法が、対EI-04戦で確認されている。

■プロテクトシェード：左腕に集中される防御エネルギーを利用したバリアシステム。敵の攻撃がビーム兵器である場合、敵の放ったエネルギーをそのまま反射して、攻撃することも可能だ。6000度の高熱にも耐える設計となっている。

■ヘキサゴン：GGGベイタワー基地のGGGバリアリーフ中心部、六角形の部位を指す。この中にビッグオーダールーム、メインコンピューターなどの重要施設が存在する。

■ヘル・アンド・ヘブン：右手に攻撃エネルギー、左手に防御エネルギーを最大限まで集中させ、超電磁竜巻によるフィールドを形成しながら突撃し、ゾンダー核をえぐり出すガオガイガーの必殺技。しかし、両腕に相反するエネルギーを集中して利用するこの技は、ガオガイガーを形成するガオーマシンの損傷や、そのすべてをコントロールする凱の体に著しい負荷が加わる。その負荷は度重なるゾンダーとの激闘で、ついに対EI-15戦において凱の身体機能を停止するほどまでになった。これによりヘル・アンド・ヘブンにかわる史上最強最大の発明・ゴルディオンハンマーの開発が急がれたことは言うまでもない。

■ペンシルランチャー：氷竜、炎竜が装備するロケットランチャー。後部のカートリッジに装弾するが、使用目的に応じて様々な弾丸が用意される。カートリッジ01は敵捕獲網、カートリッジ03は2液混合式の速乾性硬化剤で、氷竜が青い硬化剤弾、炎竜が赤い硬化剤弾を使用することが確認されている。硬化剤弾の使用場所が地下の新都市交通線構内であったため、氷竜と炎竜は脚部をビークルマシーン形態のままで走行する高機動モードで作業をおこなった。

■ペンダント：凱の高校時代からのクラスメイトである仰都木隊員が、凱に贈ったペンダント。ペンダント内には高校時代の仰都木隊員がピースポーズをとる写真が内蔵されている。凱はこれをお守りとして常に、右胸の専用収納ケースに入れて持ち歩いている。

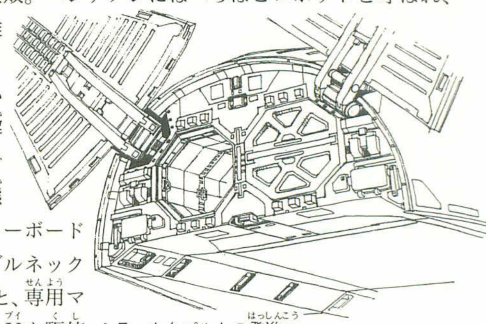
■ペンチノン：人間形態時が最も不気味な機界四天王のひとり。

■ポロネズ：プリマーダと行動を共にする機界四天王。

■ボルフォッグ：GGG諜報部所属のビークルロボ。索敵、情報収集、要人警護を主任務とするが、現在は特別隊員である、マモルの警護が任務の中心となっている。機動性、隠密性に優れている。GGGガンマシンのガンドーベル、ガングルーと合体変形して、ビッグボルフォッグとなる。

【ま】

■マイク・サウンダース13世：アメリカの獅子王雷牙博士が開発したマイク・サウンダースシリーズの13機目。アメリカとの技術提携により、GSライドと交換にGGGにやって来た。通常はひょうきんなコスモロボ形態である。AIが起動してから7週間しか経過していないため、知能程度は幼児なみである。対EI-22戦で、ガオガイガー救出へ向かうも見事に失敗。ペンチノンにはへっぽこロボットと呼ばれ、火麻にはドジ、麗雄博士には役立たずとさげすまれた。しかし、プロテクトの解除により本来の姿であるブームロボ形態となる。ギターとキーボードが一体となったダブルネックのギラギラーンVVと、専用マイク、ドカドカーンVを駆使し戦う実は、アメリカ国防省の共同製作ゆえに、純然たる戦闘用ロボットなのである。



ミラーカタパルトの発進口。

■マリン1：多次元諜報潜水艦に内蔵された小型潜水艦。

■ミラーカタパルト：三段飛行甲板空母の特殊カタパルト。ミラーコーティングによる反撥力を利用して、ツールを目的地へと長距離輸送することが可能である。

■ミラーコーティング：ミラーコーティングにはコーティング対象物を一定時間、電磁波、ビーム兵器の攻撃から保護する作用がある。これを利用して放射線などで汚染された地点での活動をある程度サポートすることができる。氷竜、炎竜は自らミラーコーティングはおこなえないので、ミラーカタパルトからの射出が必要だが、ボルフォッグは自らの体内にその機能を持っているため、迅速な対応が可能だ。

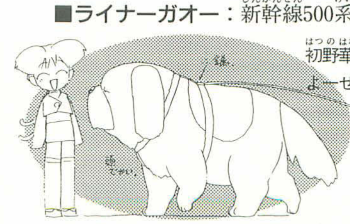
■メインオーダールーム：宇宙開発公団タワーの海底80メートルに位置するGGG作戦司令室。最下部の動力炉も制御する。

【や～ん】

■よーぜふ：華が北海道から連れてきた愛犬。華よりも大きく、散歩の時はひきずられてしまう。

■ライガー・アッパー：雷牙博士が麗雄博士との兄弟ケンカでみせた必殺技。ジェットグローブにより倍加されたそのパワーは神々をもふるわせる。

■ライナーガオー：新幹線500系を模したガオーマシン。



初野華の愛犬・よーぜふ

■レオ・ラリアット：獅子王麗雄博士が兄弟ゲンカで繰り出したラリアット。ジェットスケートによって倍加されたその威力は想像を絶する。プロレスラー、スタン・ハンセンが編み出した必殺技で、彼が使う場合のみウェスタン・ラリアットと呼ばれる。それ以外のプロレスラーが使う場合は、各々のレスラーの名が冠される。

勇者王(ゆうしゃおう)ガオガイガー

話数	放映	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督	メカ作監	ゾンダーロボデザイン
1	2／1	勇者王誕生！ ゆうしゃおうたんじょう	五武　冬史	米たにヨシトモ	谷口　悟朗	木村　貴宏	吉田　徹	やまだたかひろ
2	2／8	緑の髪の少年 みどりのかみのしょうねん	五武　冬史	杉島　邦久 米たにヨシトモ	杉島　邦久	植田　洋一	山根　理宏	やまだたかひろ
3	2／15	聖なる左腕 せいなるひだりうで	五武　冬史	山口　祐司		寺岡　巌		やまだたかひろ
4	2／22	逃亡者ゾンダー とうぼうしゃぞんだー	平野　靖士	菊池　一仁		柳沢テツヤ	鈴木　竜也 鈴木　卓也	石垣　純哉
5	3／1	青と赤 あおとあか	山口　宏	浜津　守		佐々門信芳		やまだたかひろ
6	3／8	その名は超竜神 そのなはちょうりゅうじん	竹田裕一郎	浜津　守	谷口　悟朗	吉田　徹		やまだたかひろ
7	3／15	黒の300を追え！ くろの300をおえ！	五武　冬史	杉島　邦久		寺岡　巌		やまだたかひろ
8	3／22	太陽が消える日 たいようがきえるひ	平野　靖士	米たにヨシトモ	南　康宏	植田　洋一	山根　理宏	中沢　数宜
9	3／29	素粒子ZO そりゅうしゼットゼロ	山口　宏	握乃手　紗貴		柳沢テツヤ	鈴木　竜也 鈴木　卓也	やまだたかひろ
10	4／5	光届かぬ世界 ひかりとどかぬせかい	五武　冬史	加瀬　充子	山中　英治	佐々門信芳		やまだたかひろ
11	4／12	イゾルデの門 いぞるでのもん	竹田裕一郎	浜津　守		寺岡　巌		やまだたかひろ
12	4／19	明日 あした	米たにヨシトモ	米たにヨシトモ		木村　貴宏	吉田　徹	やまだたかひろ
13	4／26	カインの遺産 かいんのいさん	竹田裕一郎	杉島　邦久		植田　洋一	山根　理宏	中沢　数宜
14	5／3	霧が呼ぶ渓谷 きりがよぶけいこく	山口　宏	菊池　一仁	山口　祐司	柳沢テツヤ	鈴木　竜也 鈴木　卓也	戦　船 せきむらはじめ
15	5／10	狙われたGGG ねらわれたスリージー	北嶋　博明	谷口　悟朗		寺岡　巌		やまだたかひろ
16	5／17	正午の悪魔 しょうごのあくま	山口　宏	錦織　博	原田　奈奈	佐々門信芳　藁谷　均 佐久間信一		やまだたかひろ
17	5／24	空間を制する者 くうかんをせいするもの	五武　冬史	渡辺　哲哉 森　邦宏	西山明樹彦	木村　貴宏	吉田　徹	やまだたかひろ
18	5／31	約束は光の彼方 やくそくはひかりのかなた	竹田裕一郎	西森　章	杉島　邦久	植田　洋一	山根　理宏	戦　船
19	6／7	滅ぶべき右腕 ほろぶべきみぎうで	竹田裕一郎	菊池　一仁	南　康宏	寺岡　巌		戦　船
20	6／14	ゾンダー先生 ぞんだーせんせい	北嶋　博明	谷口　悟朗		佐々門信芳　藁谷　均 佐久間信一		やまだたかひろ
21	6／21	金色の破壊神 こんじきのはかいしん	山口　宏	越智　浩仁	山口　祐司	柳沢テツヤ	鈴木　竜也 鈴木　卓也	武半　慎吾
22	6／26	汚されし空へ けがされしそらへ	五武　冬史	浜津　守		木村　貴宏	吉田　徹	やまだたかひろ
23	7／5	マイク13 まいくさーてぃーん	竹田裕一郎	渡辺シンイチ	西山明樹彦	寺岡　巌		戦　船 せきむらはじめ
24	7／12	はずされた鍵 はずされたプロテクト	北嶋　博明	米たにヨシトモ	谷口　悟朗	植田　洋一	山根　理宏	なし
25	7／19	滅びの声 ほろびのこえ	北嶋　博明	西森　章	吉本　毅	山本佐和子	鈴木　勤	中沢　数宜
26	7／26	次元を超えて じげんをこえて	山口　宏	越智　浩仁	山口　祐司	佐々門信芳		武半　慎吾

●メインスタッフ●

企画／サンライズ　原作／矢立　肇　シリーズ構成／五武冬史　キャラクターデザイン／木村貴宏　メカニックデザイン／大河原邦男　スペシャルコンセプター／野崎　透　デザインワークス／塩山紀生　鈴木竜也　鈴木卓也　戦船　ゾンダーロボデザイン／やまだたかひろ　中沢数宜　美術／岡田有幸
色彩設計／柴田亜紀子　撮影／関戸宏樹　黒木康之　音響／千葉耕市　音楽／田中公平　監督／米たにヨシトモ　プロデューサー／加古　均(名古屋テレビ)、小原麻美(東急エージェンシー)、高橋良輔(サンライズ)　制作／名古屋テレビ、東急エージェンシー、サンライズ　オープニング主題歌:『勇者王誕生／』
作詞／米たにヨシトモ　曲／田中公平　編曲／根岸貴幸　歌／遠藤正明　オープニングアニメ／鈴木卓也　エンディング主題歌:『いつか星の海で…』
作詞／前田耕一郎　作曲／田中公平　編曲／根岸貴幸　歌／下成佐登子　エンディングアニメ／植田洋一　音楽制作／ビクターエンタテインメント
音楽プロデューサー／永田守弘

●キャスト●

獅子王ガイ…檜山修之　天海マモル…伊藤舞子　天海　勇…塩谷浩三　天海　愛…紗 ゆ り　初野　華…吉田古奈美　卯都木　命(みこと)…半場友恵
獅子王博士…緒方賢一　大河長官…石井康嗣　火麻参謀…江川央生　ナレーター…小林清志



絵コンテ表紙/サンライズ　設定制作/北村真咲

参考文献

ニッポニカ日本大百科全書　小学館
兵器メカニズム図鑑　出射忠明　グランプリ出版
空母　ワールドフォトプレス
銃火器Part I、II　同朋出版
10歳からの超伝導　橋本 尚　講談社
沖縄語辞典　国立国語研究所編　大蔵省印刷局
歴史と小説　司馬遼太郎　集英社文庫
諸葛孔明　植村清二　中公文庫
資治通鑑　司馬光(続国訳漢文大成収録)
諸葛孔明　宮川尚志(支那歴史地理叢書収録)
(記訂)魚類学　末広恭雄　岩波書店
散歩の達人　'97年2月号　弘済出版社
どうするプロレス　スポーツ・グラフィック ナンバー342号　文藝春秋
勇者王ガオガイガー　－スペシャルドラマ1－～サイボーグ誕生～　ビクターエンタテインメント
週刊ゴングGRAFFITI　Vol.1
(株)日本スポーツ出版社
海底軍艦　押川春浪
鼻行類　ハラルト・シュテュケンプ／日高敏隆・羽田節子訳　博品社
民具のみかた－心とかたち　天野武　第一法規出版
日本北方史の論理　海保嶺　雄山閣
全国昔話資料集成(1)羽前小国昔話集　佐藤義則編　岩崎美術社
日本風流故事物語　田辺貞之助　河出書房
鯨・イルカの民俗　日本民俗文化資料集成18　三一書房
松と日本人　有利利幸　人文書院
日本民俗芸能事典　文化庁監修、日本ナショナル・トラスト編　第一法規出版
新日本動物図鑑(中)　岡田 要　金羊社
音の百科　松下電器音響研究所編　東洋経済
第五物理の散歩道　ロゲルギスト著　岩波書店
日本製鉄事始――大島高任の生涯　半沢周三　新人物往来社
地図読解入門　籠瀬良明　古今書院
架空人名辞典(欧米編)　教育社
チャーチル　ロバート・ペイン／佐藤亮一訳　法成大学出版局
世界帝王系図集　下津清太郎　近藤出版社
足軽の生活　笹間良彦　雄山閣
ヨーロッパ100年史　J・ジョル／池田清訳　みすず書房
西洋の紋章　W・メッツイ／中村敬訳　美術出版社
中国の名将・名参謀　新人物往来社
軍用銃　ワールドフォトプレス
世界の拳銃　ワールドフォトプレス
ナポレオン戦線従軍記　F・ヴィゴ・ルション／白須英子訳　中公文庫
WEAPONS　An international encyclopedia from 5000B.C.to 2000A.D.　The Diaglam Group
EYEWITNESS GUIDE　ARMS & ARMOUR――Discover the story of hand weapons－from Stone Age axes to the guns of the Wild West　Doling Kindersley

企画……山岡有子
構成……三木 茂
執筆……加藤ちたか
編集……島田浩志
レイアウト……佐々木多利爾 IST
写真……岡本好明
CG図版、カバーイラスト……牧野知弘
イラスト……峰岸達美
協力…タカラ、ヤマシロヤ、サンライズライツ事業部、第7スタジオ、掘口 滋、石垣憲一、引間隆文、高橋 淳、樋口明雄、河森正治

てれびくんデラックス愛蔵版
勇者王ガオガイガーGGG(スリージー)超兵器図鑑
1997年8月20日　第1刷発行
©サンライズ・名古屋テレビ

編集兼発行者／河井常吉
発行所／小学館
〒101－01　東京都千代田区一ツ橋2－3－1
振替　00180-1-200
印刷所／図書印刷株式会社

小学館

電話（編集）03-3230-5991（制作）03-3230-5333（販売）03-3230-5739
ISBN4-09-101460-7

「勇者王ガオガイガー」は、“巨大ロボットものルネサンス”として企画した番組です。

かつてこの分野は本当に野放図に元気がよかったのですが、作り手がダレてしまったのか、見る方が飽きてしまったのか、どうもこのところ元気がありません。ですから、いちから出直すつもりで、元気の良い、見れば元気の出る、巨大ロボットものを作ってみたかったのです。そして、この企画意図を生きたものにするには「勇者シリーズ」がいちばんの受け皿ではないかと考えました。このシリーズが対象としている一般の視聴者に受け入れられてこその“巨大ロボットルネッサンス”だと思ったわけです。

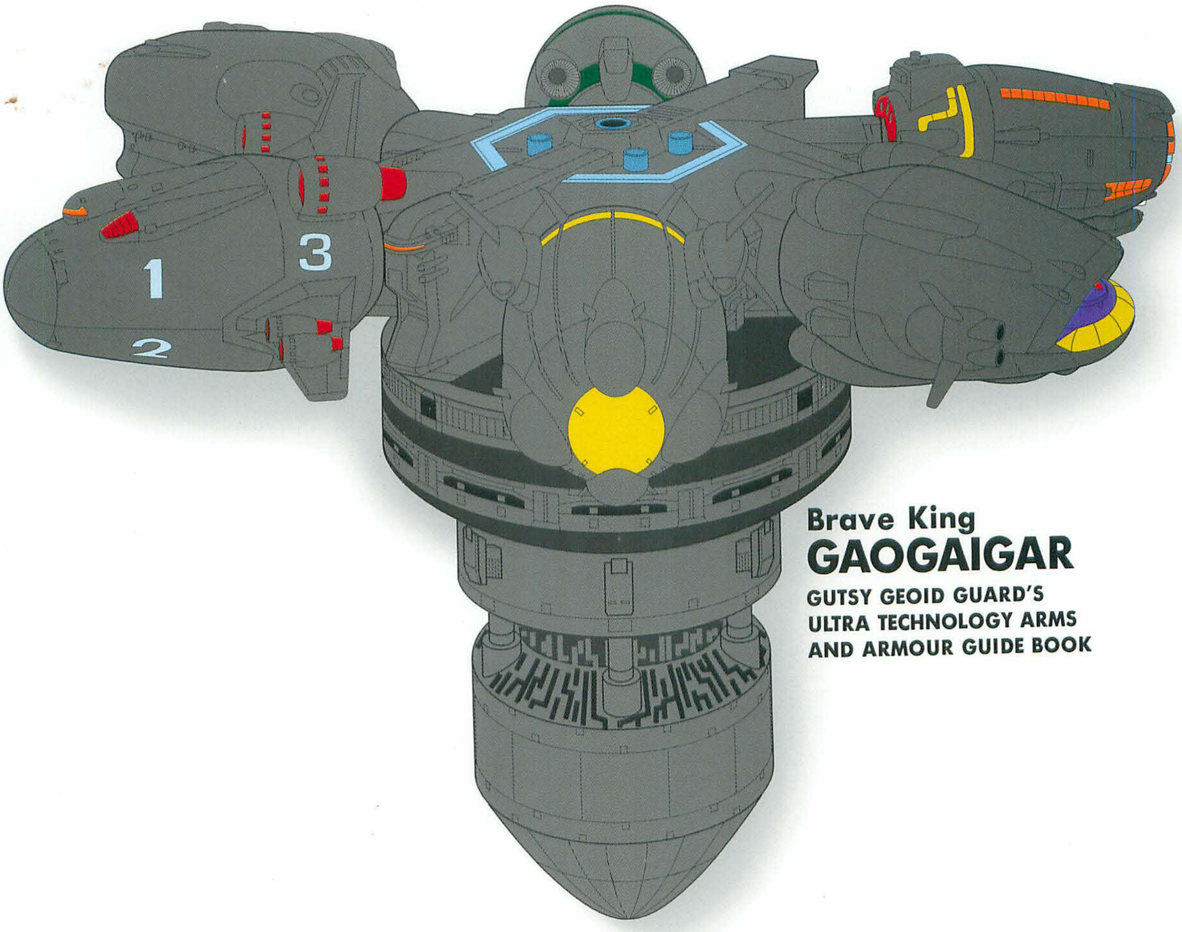
「勇者王ガオガイガー」の楽しみ方は自由です。あえて言うなら、お父さんお母さん、おじいさん、おばあさん、一家でそろって見てもらえたらとは思っています。

この番組を通じて語りたいことは、強さと優しさです。

人間はいろいろな意味で強くなくてはいけないと思うのです。でも、ただ強いだけではなく優しくなければ、その強さは場合によってひとりよがりの結果を生むかもしれません。“強く優しく”が大事なことだと思います。

勇者王
ガオガイガー
GAOGAIGAR
1997 夏
高橋良輔

ゆうしゃおう
勇者王
ガオガイガー
GAOGAIGAR



Brave King
GAOGAIGAR
GUTSY GEOID GUARD'S
ULTRA TECHNOLOGY ARMS
AND ARMOUR GUIDE BOOK

9784091014603

ISBN4-09-101460-7

C9474 ¥1500E

1929474015008

定価：本体1,500円＋税

雑誌 61016－60